日本子ども虐待防止学会
第32回学術集会おおさか大会

JaSPCAN Osaka



NOV 14–15, 2026

プログラム集

2026 11/14 土 15 日

会　場　グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）

大会長　山縣 文治　　実行委員長　上野 昌江

主　催　一般社団法人日本子ども虐待防止学会
日本子ども虐待防止学会第32回学術集会おおさか大会実行委員会

AiCAN

すべての子どもたちが安全な世界に変える

記録時間を
子どものための時間に





CEC 高岡 昂太

児童福祉業務に特化したシステムと、データを活用した伴走支援をワンストップで提供しています！

AiCAN サービスのご提供先

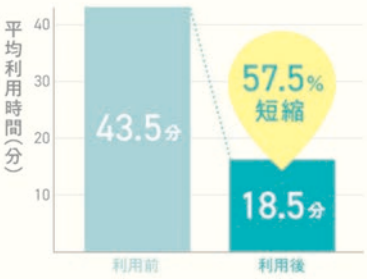
児童相談所　こども家庭センター　市区町村の児童相談窓口
※ 教育センターなど関連部署でもご活用いただいております

AiCAN サービスの特徴

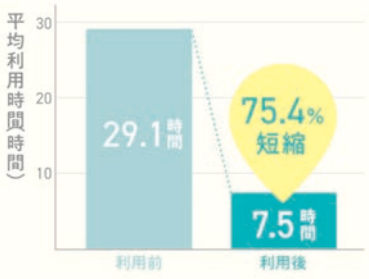
- **タブレット利用** • 訪問先や待ち時間も有効に活用して、記録作成時間を短縮
- **選べる利用環境** • 所外はタブレット、所内は庁内 PC（LGWAN-ASP）など、利用場面に合わせて使い分け可能
- **児童福祉特化の生成 AI** • 児童福祉に特化した生成 AI による、記録の要約機能をご利用可能
- **安心のセキュリティ対策** • 安全な通信や設定で、多くの自治体様のセキュリティーポリシーへ準拠
- **現場に寄り添うサポート体制** • 導入準備から効果を実感いただけるまで専任スタッフがサポート
- **補助金に対応** • 導入コストを軽減できる補助金に対応

令和6年度実証実験での導入効果※

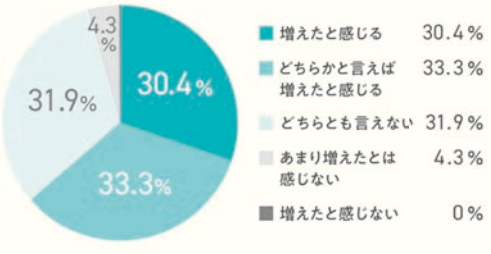
Q AiCANアプリを利用することで、記録作成の作業に要する時間はどのように変化したと感じますか。



Q AiCANアプリを利用することで、面接をしてから記録作成の登録までに要する時間（日数）はどのように変化したと感じますか。



Q AiCANの利用による業務の効率化によって今まで時間がなくできなかった支援に関する業務に充てられる時間が増えたと感じますか。



※ 令和6年度実証実験参加4自治体における実証実験のアンケートより88名の回答データを利用（全集計対象者数=120名 回収率=73.3%）

導入実績

青森県・宮城県・東京都港区・東京都世田谷区・東京都杉並区・東京都江戸川区・東京都台東区・東京都文京区
東京都新宿区・東京都板橋区・神奈川県川崎市・群馬県高崎市・千葉県船橋市・奈良県奈良市・兵庫県尼崎市・岡山県
愛媛県松山市・福岡県北九州市・福岡県新宮町・鹿児島県鹿児島市

児童福祉業務のデジタル化について、お気軽にお問い合わせください

JaSPCAN 企業展示ブースにて、自治体職員様向けにシステムの操作体験を実施中！

株式会社 AiCAN
神奈川県川崎市高津区坂戸３丁目２番1号　かながわサイエンスパーク西棟 713A号

お問い合わせ先
sales_planning@aican-inc.com

目　次

CONTENTS

ご挨拶 …… 2
大会概要 …… 3
参加者へのご案内 …… 4
オンデマンド配信のご案内 …… 8
座長・演者へのご案内 …… 9
会場へのアクセス …… 16
会場案内図 …… 17
タイムスケジュール …… 22
基調講演資料 …… 30

プログラム

開会式・基調講演（ビデオレクチャー） …… 42
基調講演（シンポジウム） …… 43
教育講演 …… 43
大会企画シンポジウム …… 45
委員会・WG 企画シンポジウム …… 47
公募シンポジウム …… 53
一般演題 口演発表 …… 69
一般演題 ポスター発表 …… 77
パネル展示参加団体 …… 82
実行委員一覧 …… 84
協賛・出展一覧 …… 86

ご挨拶



日本子ども虐待防止学会　第32回学術集会おおさか大会
大会長　山縣　文治（大阪総合保育大学　特任教授）

第22回学術集会から10年、再び大阪の地で3回目の学術集会を開催させていただくことになりました。

大会テーマは「子どもと家族の心の声に向き合う～つながる現場、超える垣根」。子ども虐待の予防や支援策・支援実践は、近年、着実に充実してきていますが、重篤な虐待事件が発生するたびに指摘されるのが、制度や実践の間の切れ目、あるいは連携不足です。切れ目は、国の行政機関内、都道府県と市区町村、市区町村の行政機関内、市区町村内の支援資源間、制度と制度、子どもの人生、保護者の生活など、様々なところに存在しています。当然のことながら、このような切れ目は、子どもや家族が生じさせているものではなく、制度を含め支援者側に起因するものです。

本大会では、改めて子どもや家族の声を起点に、支援のあり方を検討することをテーマとしました。それを通じて、親子と支援者さらには支援者同士が垣根を越えてつながることのできる社会を実現したいという思いを込めています。

ミャクミャクはもういないかもしれませんが、議論好き、新しもの好きで、遊び心旺盛な大阪人はいたるところに繁茂しています。そんな大阪人、関西人とともに、親子が幸せに生活できる社会に思いをはせ、現実的な夢を語り合いたいものです。大阪の地で、皆様方とお会いできることを楽しみにしています。

大会概要

名　　称	日本子ども虐待防止学会第 32 回学術集会おおさか大会
大 会 長	山縣　文治　（大阪総合保育大学　特任教授）
会　　期	2026 年 11 月 14 日（土）～ 11 月 15 日（日） ※プレコングレス：11 月 13 日（金）
会　　場	グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）
テ ー マ	子どもと家族の心の声に向き合う～つながる現場、超える垣根
主　　催	一般社団法人日本子ども虐待防止学会 日本子ども虐待防止学会第 32 回学術集会おおさか大会実行委員会
後　　援	こども家庭庁、総務省、法務省、文部科学省、最高裁判所、警察庁、大阪府、大阪市、堺市、 豊中市、枚方市、東大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、 豊中市教育委員会、枚方市教育委員会、東大阪市教育委員会、公益社団法人日本医師会、 公益社団法人日本小児科医会、公益社団法人日本歯科医師会、 公益社団法人日本産婦人科医会、公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本助産師会、 公益社団法人日本小児保健協会、全国保健師長会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会、 公益社団法人日本薬剤師会、公益社団法人日本小児科学会、 公益社団法人日本産科婦人科学会、一般社団法人日本周産期・新生児医学会、 近畿産科婦人科学会、一般社団法人大阪府医師会、一般社団法人大阪小児科医会、 一般社団法人大阪府歯科医師会、一般社団法人大阪産婦人科医会、 公益社団法人大阪府看護協会、一般社団法人大阪府助産師会、 一般社団法人大阪精神保健福祉士協会、 特定非営利活動法人大阪医療ソーシャルワーカー協会、一般社団法人日本臨床心理士会、 公益社団法人日本公認心理師協会、一般社団法人日本心理臨床学会、 一般社団法人日本発達心理学会、公益社団法人日本社会福祉士会、大阪府臨床心理士会、 公益社団法人大阪社会福祉士会、全国社会福祉協議会、全国児童養護施設協議会、 全国乳児福祉協議会、全国母子生活支援施設協議会、全国児童心理治療施設協議会、 公益財団法人全国里親会、近畿児童養護施設協議会、 社会福祉法人大阪府社会福祉協議会児童施設部会、一般社団法人大阪市児童福祉施設連盟、 堺市社会福祉施設協議会、日本弁護士連合会、大阪地方検察庁、大阪法務局、大阪弁護士会、 全国民生委員児童委員連合会、大阪府民生委員児童委員協議会連合会、全国保育協議会、 全国保育士会、公益社団法人全国私立保育連盟、社会福祉法人日本保育協会、 一般社団法人大阪市私立保育連盟、日本子ども家庭福祉学会、 日本医療ソーシャルワーク学会、日本地域福祉学会、 特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会、日本ソーシャルワーク学会、 特定非営利活動法人日本スクールソーシャルワーク協会、日本生徒指導学会、 一般社団法人日本特殊教育学会、貧困研究会、日本学校ソーシャルワーク学会、 社会福祉法人大阪府社会福祉協議会、社会福祉法人大阪府社会福祉協議会保育部、 社会福祉法人大阪市社会福祉協議会、社会福祉法人堺市社会福祉協議会、 公益財団法人日本ユニセフ協会、特定非営利活動法人児童虐待防止協会、 公益社団法人関西経済連合会
実行委員会 事 務 局	日本子ども虐待防止学会第 32 回学術集会おおさか大会事務局　いぶき法律事務所内
運営事務局	日本子ども虐待防止学会第 32 回学術集会おおさか大会事務局 株式会社アカデミック・ブレインズ内 E-mail:jaspcan2026@academicbrains.jp

参加者へのご案内

1. 参加受付

日　程	時　間	場　所
11月14日（土）	8：00 ～ 17：30	5F メインホワイエ
11月15日（日）	8：00 ～ 16：30	

2. 参加登録期間

早期参加登録：2026年　6月1日（月）10：00 ～ 10月　5日（月）24：00
後期参加登録：2026年10月6日（火）00：01 ～ 11月15日（日）16：30

	会　員	非会員	学生（学部生・院生）
早期参加登録	12,000円	13,000円	2,500円
後期参加登録	13,000円	14,000円	3,000円

3. 受付方法

事前申込の方

1) 参加登録システムからネームカードをダウンロードの上、A4 印刷（白黒可）したものを会場にご持参下さい。ネームホルダーは会場にてご用意がございます。
弁当または懇親会をお申し込みの方は、参加登録システムから参加登録確認書を印刷のうえ、弁当引換時等にスタッフにご提示ください。
2) プログラム集は、事前登録受付でお受け取りください。

当日参加の方

1) インターネットからのオンライン登録となります。登録完了画面を当日参加受付にてご提示ください。
2) ご登録の完了が確認出来ましたら、受付にてネームカードをお渡しいたしますので、記名台でお名前のご記入をお願いいたします。

※当日は現金、カード払いの受付はいたしておりません。インターネットからのオンライン登録（オンライン上のクレジットカード支払い）のみとなります。

4. プログラム集・抄録集

プログラム集は大会当日に受付にてお渡しいたします。
抄録集は冊子での配布はございません。抄録本文は、学会ホームページ上に掲載されているPDF版をご覧ください。閲覧には以下のパスワードの入力が必要です。

【抄録閲覧用パスワード】jaspcan2026osaka

抄録閲覧用パスワードはネームカードにも記載されております。

5. 発表資料・抄録の取り扱い

・抄録や配布資料を無断で転載・複製・公開することは禁止されております。
・発表内容を引用する場合は、適切な出典表示をしてください。

6. 昼食弁当

あらかじめお弁当の注文を頂いた方は、参加登録システムから、参加登録確認書を印刷のうえ、弁当引換時にスタッフにご提示いただき、指定の場所でお受け取りください。（引き換え時間は厳守でお願いいたします）

日　程	時　間	受け取り場所	ごみ回収場所
11月14日（土）	11：15 ～ 14：00	5Fメインホワイエ、10Fホワイエ	5Fメインホワイエ、10Fホワイエ
11月15日（日）			

※昼食会場として講演会場をご使用ください。但し、11月14日（土）小ホール、701-2、806、11月15日（日）小ホールは飲食不可となります。
※大会中の弁当販売はございません。
※お弁当のゴミは必ず所定のごみ回収場所に捨ててください。
※5Fホワイエでは、15:00まで弁当の受け取り、ごみ回収が可能です。

7. 懇親会

日　時：2026年11月14日（土）18：30 ～
会　場：大阪中之島美術館 1Fホール
（グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）より徒歩10分）
参加費：7,000円（非課税）　当日申し込みはできません。
※懇親会に参加登録頂いた方は、参加登録システムから参加登録確認書を印刷のうえ、懇親会受付時にスタッフにご提示ください。

8. パネル展示

子どもの虐待防止活動にかかわる団体・グループのパネル展示を実施いたします。

日　程	時　間	場　所
11月14日（土）	9：00 ～ 17：30	3F イベントホールAB
11月15日（日）	9：00 ～ 14：00	

9. 企業展示、書籍販売

日　程	時　間	場　所
11月14日（土）	9：00 ～ 17：30	3F イベントホールAB
11月15日（日）	9：00 ～ 14：00	

10. 学会事務局

大阪国際会議場 5F メインホワイエに学会事務局のブースを設けております。入会手続き等につきましては、学会事務局ブースにてお問い合わせください。

11. クローク

会期中、下記の時間帯でご利用いただけます。
なお、PC、スマートフォンなどの貴重品や傘はお預かりできませんので、あらかじめご了承ください。

日　程	時　間	場　所
11月14日（土）	8：00 ～ 18：00	5F メインホワイエ
11月15日（日）	8：00 ～ 17：00	

緊急のご連絡
・遺失物や緊急事態が発生した場合は、速やかに総合案内または大会事務局までお知らせください。
・災害時の避難経路などについては、事前に掲示・アナウンスをご確認ください。
・原則として会場内でのお呼び出し放送はいたしません。

12. 託児

事前に申し込みをいただいた方のみご利用いただけます。当日の申し込みはできません。

13. テイクフリーコーナー

５Ｆホワイエに関連学会や研修会のリーフレット（A4 サイズまで）用のテーブルを準備しておりますので、設置希望の方はご利用ください。なお、ご利用いただくにあたってはおひとりで場所を占有されないよう、他の方へのご配慮をお願いいたします。状況を見て、適宜実行委員会でテーブル上を整理させていただきます。

14. コピー

運営事務局及び各会場にはコピー機は設置しておりません。5F ビジネスセンターにございます。
ビジネスセンター営業時間 8:30 ～ 19:00

15. 喫煙所

1F プラザステージ横に喫煙コーナー（喫煙スペース）が設置されています。

16. 撮影、録音

・講演会場・ポスター会場など、大会実行委員や演者の許可のない撮影、録音等の行為は一切禁止いたします。大会実行委員や演者の許可を得て投稿する場合でも、SNS 等への投稿に際しては、個人が特定される画像や発表内容を含む場合、発表者や写っている方の許可を得てください。

17. 会場でのマナー・行動について

・発表中は静粛にし、通話、私語、電子機器の操作音などはお控えください。
・質疑応答、交流の際は、発表者、参加者への敬意を持ってご対応ください。
・会場内では、他の参加者の迷惑となる行動（ハラスメント行為など）を厳に慎んでください。
・会場内での飲食の可否は施設のルールに準じてください。
・ゴミは各自でお持ち帰りいただくか、指定の場所へ廃棄してください。

18. 健康・安全に関すること

・感染症対策（例：マスク着用・手指消毒）については、大会実行委員の案内に従ってください。
・体調がすぐれない場合は、参加を見合わせるなど無理のないご判断をお願いいたします。
・大会参加中に体調を崩された方は 5F 総合案内にてお申し出ください。救護室をご案内いたします。

19. 単位取得

おおさか大会参加で取得可能な単位
※単位取得は現地参加のみです。

■日本小児科学会
５Ｆ総合案内（単位取得受付）にて、受講証明書にご記入ください。

・研修単位 iii　小児科領域講習 1 単位
大会企画シンポジウム 1
子どもの「声をきく」ために求められるもの～学校現場から子どもの権利を解きほぐす
11 月 14 日（土）12:30 ～ 14:00　第 1 会場（大ホール）

・研修単位 iii　小児科領域講習 1 単位
教育講演 5
虐待を受けた子どもの心理療法：トラウマ，アタッチメント，ケア・コントロール葛藤，自己形成
11 月 14 日（土）14：15 ～ 15：45　第 1 会場（大ホール）

・研修単位 iii　小児科領域講習 1 単位
教育講演 2
市販薬オーバードーズの現状と課題　～その後どうなったのか？
11 月 15 日（日）10：45 ～ 12：15　第 1 会場（大ホール）

・研修単位 iii　小児科領域講習 1 単位
大会企画シンポジウム 3
OD という SOS を見逃さない～多職種連携で考える
11 月 15 日（日）13：15 ～ 14：45　第 1 会場（大ホール）

■日本産婦人科医会
本学術集会に参加することで、「日本産婦人科医会研修会単位」が取得可能です。
5 F 総合案内（単位取得受付）にて、お名前・会員番号を申請ください。日本産婦人科医会に未入会の方には、研修参加証をお渡しします。

■日本産科婦人科学会
本学術集会に参加することで、「日本専門医機構　学術集会参加単位　3 単位」が取得可能です。なお、「日本専門医機構　産婦人科領域講習」の単位は取得できません。
5 F 総合案内（単位取得受付）にて、お名前・会員番号を申請ください。また、日本産科婦人科学会に入会手続き中で会員番号が未付与の方は、医籍番号・生年月日を申請ください。

■日本助産評価機構（アドバンス助産師）
5F 総合案内（単位取得受付）にて、研修修了証を受けとってください。

・**大会企画シンポジウム 7**
母子保健からみた児童虐待の始まりと終わり～妊娠期からの切れ目ない支援を再認識してみる
11 月 14 日（土）12：30 ～ 14：00　第 2 会場（5F 小ホール）

・**教育講演 7**
孤立する妊婦をどう支えるか：内密出産に至る女性たちの声から得た学び
11 月 14 日（土）16：00 ～ 17：30　第 1 会場（5F 大ホール）

・**公募シンポジウム S1-07**
妊産婦支援における「学び」と「実践」の構造化
―ボ・ドーム　ダイヤモンドルームにおける人材育成のしかけー」
11 月 14 日（土）12：30 ～ 14：00　第 6 会場（8F801）

・**公募シンポジウム S2-11**
産前からの親準備教育による子ども虐待予防について
11 月 15 日（日）10：45 ～ 12：15　第 6 会場（8F801）

・**公募シンポジウム S2-12**
妊娠期からの虐待防止を目指した多胎家庭支援―地域を基盤とした多職種連携による支援―
11 月 15 日（日）13：15 ～ 14：45　第 6 会場（8F801）

20. Free Wi-Fi サービス (グランキューブ大阪)
SSID：FREE-OICC　パスワード：grandcube

オンデマンド配信のご案内

［視聴資格対象］ 大会に参加登録された全ての方々
［視聴費用］ 無料
［視聴方法］ 12 月上旬頃、参加登録いただいた方に視聴用 URL をメールで通知いたします。
［視聴期間］ 12月8日（火）～ 1月7日（木）
※オンデマンド視聴のみでの単位取得は出来ません。

［配信プログラム］

基調講演（ビデオレクチャー）「支援を必要とする親子の生活の質を高める科学的プログラムによる支援」
ー虐待予防のためのエビデンスに基づく家庭訪問
11月14日（土）9：30 ～ 10：40　第 1 会場（5F 大ホール）

基調講演（シンポジウム）「オールズ先生の家庭訪問プログラムから何を学び、何をいかすか」
11月14日（土）10：45 ～ 11：30　第 1 会場（5F 大ホール）

教育講演２　市販薬オーバードーズの現状と課題～その後どうなったのか？
11月15日（日）10：45 ～ 12：15　第 1 会場（5F 大ホール）

教育講演５　虐待を受けた子どもの心理療法：
トラウマ，アタッチメント，ケア・コントロール葛藤，自己形成
11月14日（土）14：15 ～ 15：45　第 1 会場（5F 大ホール）

教育講演８　子ども虐待と DV の交差に介入する
～若者のインタビュー調査から子どもの経験と求められる支援について考える
11月15日（日）9：00 ～ 10：30　第 23 会場（12F 特別会議場）

教育講演９　子ども虐待対応において父親・男性をどうするか
－「男親塾」の実践から考えるコントロール行動への介入後支援
11月15日（日）13：15 ～ 14：45　第 23 会場（12F 特別会議場）

大会企画シンポジウム１　子どもの「声をきく」ために求められるもの
～学校現場から子どもの権利を解きほぐす
11月14日（土）12：30 ～ 14：00　第 1 会場（5F 大ホール）

大会企画シンポジウム２　学校だけで守れない子どもたちへ
～不登校・暴力・非行に向き合う学校と福祉の実践的連携
11月15日（日）13：15 ～ 14：45　第 15 会場（10F 1003）

大会企画シンポジウム４　精神疾患のある親と暮らす子どもは何を体験しているのか
―子ども視点から支援を問い直す、連携と親支援
11月14日（土）16：00 ～ 17：30　第 15 会場（10F 1003）

大会企画シンポジウム６　こどもの気持ちに寄り添う仕組みとその実践
～社会的養護におけるアドボカシー～
11月15日（日）10：45 ～ 12：15　第 2 会場（5F 小ホール）

座長・演者へのご案内

演者・発表者のみなさまにつきましては、発表に際し、発表する研究内容・実践報告に関する「利益相反」（COI）の開示・公開が必要です。COIの開示・公開に関する記載事項をご確認のうえ、ご対応をお願いいたします。

【座長の皆様へ】

- **一般演題（口頭）の座長**の方は、セッション開始60分前までに、５Ｆメインホワイエの総合受付内「座長受付」にて受付をお済ましください。
- 一般演題（口頭）以外（教育講演、大会企画シンポ、委員会・WG企画及び公募シンポジウム）の座長の方については、受付はいたしませんので、開始10分前までに直接会場にお越しください。
- 進行は一任いたしますが、終了時間を厳守いただきますようご協力をお願いいたします。
- **一般演題（口頭）は質疑応答を含め、1演題18分です。**各演題で時間厳守となるよう進行をお願いします。

【発表者の皆様へ】

1. 教育講演・大会企画シンポジウムの演者の方へ

- **大会側でPCを準備しております。事前に発表データを大会事務局宛にお送りください。**発表データに変更がある場合は、直接会場の担当者にお申し出ください。
- すべてPCを用いた発表となります。発表者ご自身により、演台上にて操作をしていただきます。
- 発表データの持ち込み方法については、「6. 発表データについて」をご確認ください。
- スムーズな進行をするために「発表者ツール」の使用はお控えください。発表原稿が必要な方は、予めプリントアウトしたものをお持ちください。会場でのプリントアウトは対応しておりません。
- ご自身のプログラム開始10分前までに会場にお越しください。
- 発表に際しては、COI開示のほか、倫理的配慮にご留意ください。

2. 委員会・WG企画の演者の方へ

- **発表のために使用するPCはご自身でご用意ください。大会側では、PCは準備いたしません。発表データもご自身でご持参ください。**
- すべてPCを用いた発表となります。発表者ご自身により、演台上にて操作をしていただきます。
- 発表データの持ち込み方法については、「6. 発表データについて」をご確認ください。
- スムーズな進行をするために「発表者ツール」の使用はお控えください。発表原稿が必要な方は、予めプリントアウトしたものをお持ちください。会場でのプリントアウトは対応しておりません。
- ご自身のプログラム開始10分前までに会場にお越しください。
- 発表に際しては、COI開示のほか、倫理的配慮にご留意ください。

3. 一般演題（口頭）の演者の方へ

- すべてPCを用いた発表となります。発表者ご自身により、演台上にて操作をしていただきます。
- **大会側でPCを準備しております。**事前に発表データを大会事務局宛にお送りください。発表データの持ち込み方法については、「6. 発表データについて」をご確認ください。
- **発表時間は質疑応答を含めて18分です。**スライドの枚数に制限はございませんが、発表時間を厳守してください。
- スムーズな進行をするために「発表者ツール」の使用はお控えください。発表原稿が必要な方は、予めプリントアウトしたものをお持ちください。会場でのプリントアウトは対応しておりません。
- ご自分のセッション開始10分前までに会場前方の「次演者席」までお越しください。
- 一般演題のビデオ発表は認めておりません。
- 発表に際しては、COI開示のほか、倫理的配慮にご留意ください。

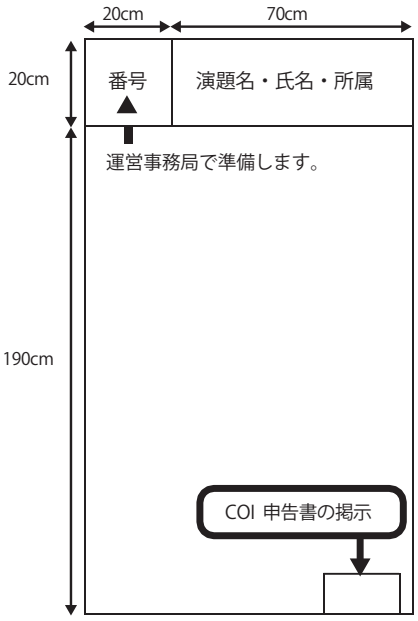
4. 公募シンポジウム登壇者の方へ

- **発表のために使用するPCはご自身でご用意ください。大会側では、PCは準備いたしません。発表データもご自身でご持参ください。**
- すべてPCを用いた発表となります。発表者ご自身により、演台上にて操作をしていただきます。
- **公募シンポジウムで割り当てられた時間は、90分となります。**発表者全員のご発表や指定討論、フロアとのディスカッション等を含めた時間ですので、時間厳守で進行をしてください。
- 発表データの持ち込み方法については、「6. 発表データについて」をご確認ください。
- スムーズな進行をするために「発表者ツール」の使用はお控えください。発表原稿が必要な方は、予めプリントアウトしたものをお持ちください。会場でのプリントアウトは対応しておりません。
- 企画者や発表者が会場内のレイアウトをご自身で変更されることは可能ですが、終了後はかならず原状復帰してください。原状復帰の時間も公募シンポジウム割り当て時間（90分）に含みます。ただし、1日目及び2日目の最終時間帯での発表については、原状復帰は不要です。
- 会場内で資料を配布する場合は、各自で印刷してご持参してください。運営事務局ではプリントアウトいたしません。なお、配布資料の内容については、個人情報保護等について十分に配慮してください。
- 会場内で配布した資料が余った場合はすべてお持ち帰りください。
- 当日の配布資料の内容等については、おおさか大会運営事務局は関与いたしませんので、各自で責任を持ってご対応ください。
- 発表に際しては、COI開示のほか、倫理的配慮にご留意ください。指定討論者につきましては、必ずしも、COI開示は必要ありませんが、ご自身の研究内容や実践報告等を発表される場合はCOI開示が必要になります。

5. 一般演題（ポスター）の演者の方へ

1）掲示用ポスターパネルについて

- 1演題につき、縦210cm×横90cmのパネルを用意しておりますので、その範囲内に掲示してください。演題番号、画鋲、演者用リボンは大会にてご用意いたします。
- パネルにはあらかじめ演題番号（縦20cm×20cm）を掲示しております。演題名、氏名、所属（縦20cm×横70cm）は各自でご用意ください。



2）ポスター受付について

受付時間：
11月14日（土）12：30～17：00
11月15日（日） 9：00～14：00
場所：3Fイベントホール　ポスター会場前
演者用リボンは、ポスター受付にてお受け取りください。

3）発表形式・進行について

ポスター発表では座長を設けず、ポスター発表時間内で自由にセッションを行っていただきます。以下のポスター発表時間のいずれか又は双方のお時間に各自のポスター前で待機していただき、質問等へのご対応をお願いいたします。

ポスター発表時間①	11月15日（日）10：45～11：30
ポスター発表時間②	11月15日（日）13：15～14：00

4）掲示作業および撤去作業について

掲示作業時間	11月14日（土）12：30～17：00
撤去作業時間	11月15日（日）14：00～16：00

- ポスター会場内の指定されたパネルに掲示してください。

・ ポスターは基本的に2日間の掲示をお願いします。発表時間が終わった後に撤去されてもかまいません。
・ 撤去時間を過ぎても、掲示してあるポスターは事務局にて破棄させていただきます。返送対応は出来ませんのであらかじめご了承ください。

6. 発表データについて

1）PC受付について

PC受付は設置しておりません。

2）教育講演・大会企画シンポジウムの発表データ

・ 発表データは、事前に運営事務局へご提出ください。提出方法につきましては、前もってご案内させていただきます。スライドの変更がありましたら、各会場のオペレーター席にて受付いたしますので、講演開始15分前までにUSBメモリにてデータをお持ち込みください。USBメモリはその場でお返しいたします。また、データは学会終了後、事務局で責任を持って消去いたします。
・ データは休憩時間に受付をお願いいたします。
・ データ作成について、スライドサイズは16：9を推奨しますが、4：3でも対応は可能です。
・ メディアは、最新のセキュリティーソフトで、メディアにウイルスが感染していないことを確認の上、お持ち込みください。
・ 講演会場では、PC（Windows、Windows版 PowerPoint,Office365 インストール済み）をご用意いたします。Macintoshご利用の方はご自身のPCをご持参ください。
・ 文字フォントはWindows標準のものをご使用ください。これ以外のフォントを使用した場合は、文字・段落のずれ、文字化けなど、正確に表示されないといったトラブルが発生する可能性があります。
・ お持ち込みのメディアには、発表当日のデータ（完成版）と、動画を使用される場合は、動画データ以外は入れないようにしてください。動画がある場合には、バックアップとしてご自身のPCのご準備をお願いいたします。
・ データのファイル名には、セッション名と発表者の氏名（漢字）を必ず入れてください。（例：大会企画1 大阪太郎）
・ 万が一に備え、バックアップデータを必ず持参してください。
・ 発表時には、ご発表スライドの1枚目をスライドショーの状態でスクリーンに映写いたしますので、その後のスライド送りはご自身が演台上で操作してください。

◆現地会場にPCをお持ち込みされる方へ

・ ご自身のPCを使用して発表される方は、講演開始15分前までに各会場前方のオペレーター席にお越しいただき、休憩時間にケーブルの接続をして、ご自身のPCから外部モニターに正しく映像が出力されるかをご確認ください。
・ Windows、Macintoshのどちらも使用可能です。
・ Macintoshを使用される場合は、必ずMacintosh PC本体をご持参ください。
・ 会場で用意するPCケーブルコネクタの形状は、HDMIです。この出力端子を持つPCをご用意いただくか、この形状に変換するコネクタを必要とする場合には必ずご持参ください。会場に変換ケーブルのご用意はございません。
・ スクリーンセーバーならびに省電力設定はあらかじめ解除しておいてください。Macintoshをお持込みいただく場合はホットコーナー設定もあらかじめ解除してください。
・ 個々のPCやOSにより設定方法が異なりますので、事前に確認しておいてください。
・ ACアダプターを必ずご持参ください。
・ 会場にてご用意したプロジェクターと接続ができない場合に備え、必ずバックアップ用のデータをUSBメモリにてご持参ください。
・「発表者ツール」の使用はお控えください。

3）委員会WG企画の発表データ

◆発表PCについて

- **ご自身のPCを用いて発表を行っていただきます。**当日、会場でPCの貸し出しは行っておりませんので、あらかじめご準備いただきますようお願いいたします。
- Windows、Macintoshのどちらも使用可能です。
- Macintoshを使用される場合は、必ずMacintosh PC本体をご持参ください。
- 会場で用意するPCケーブルコネクタの形状は、HDMIです。この出力端子を持つPCをご用意いただくか、この形状に変換するコネクタを必要とする場合には必ずご持参ください。会場に変換ケーブルのご用意はございません。
- 個々のPCやOSにより設定方法が異なりますので、事前に確認しておいてください。
- ACアダプターを必ずご持参ください。
- 会場にてご用意したプロジェクターと接続ができない場合に備え、複数台のPCをお持ち込みいただくことを推奨いたします。
- 講演開始15分前に各会場前方席にお越しいただき、休憩時間にケーブルの接続をして、ご自身のPCから外部モニターに正しく映像が出力されるかをご確認ください。
- 音声をご利用される場合は受付時にあらかじめお申し出ください。
- 「発表者ツール」の使用はお控えください。

◆データ作成について

- スライドサイズは16：9を推奨しますが、4：3でも対応は可能です。
- メディアは、最新のセキュリティーソフトで、メディアにウイルスが感染していないことを確認の上、お持ち込みください。
- 文字フォントはWindows標準のものをご使用ください。これ以外のフォントを使用した場合は、文字・段落のずれ、文字化けなど、正確に表示されないといったトラブルが発生する可能性があります。
- 万が一に備え、バックアップデータを必ず持参してください。
- 発表時には、ご発表スライドの1枚目をスライドショーの状態でスクリーンに映写いたしますので、その後のスライド送りはご自身が演台上で操作してください。

◆発表機材について

会場には、以下の機材をご用意いたします。

- HDMIケーブル
- プロジェクター
- スクリーン
- 机（可動）
- 椅子（可動）
- 電源タップ
- マイク（有線、無線）の使用可否は会場によって異なります。

4）一般演題（口頭）の発表データ

- スムーズなセッション進行のために、発表データは、原則、**会期前の**事前提出とさせていただきます。提出方法などの詳細は事務局からの連絡をご確認ください。
  ※発表当日も、バックアップとしてUSBメモリにて発表データをお持ち込みください。
  ※事前に発表データのご提出が確認出来ない場合、当日会場でデータ投影、接続トラブルが発生した場合も、対応が難しい可能性がございますので、あらかじめご留意ください。
- 会場には、発表用PC（Windows PC、Windows 版 PowerPoint,Office365 インストール済み）を1台、演台上にご用意いたします。
- 事前提出いただいた発表データは当日会場PCに入っております。

◆データ作成について
- スライドサイズは16：9を推奨しますが、4：3でも対応は可能です。
- 会場では、Windowsパソコン1台Windows版 PowerPoint,Office365 インストール済みをご用意いたします。Macintoshご利用の方はご自身のPCをご持参ください。
- 文字フォントはWindows標準のものをご使用ください。これ以外のフォントを使用した場合は、文字・段落のずれ、文字化けなど、正確に表示されないといったトラブルが発生する可能性があります。
- 万が一に備え、バックアップデータを必ず持参してください。

◆現地会場にPCをお持ち込みされる方へ（スムーズな進行のため、できるだけ会場備え付けのPCをご利用いただきますようお願いします）
- 当日、ご自身のPCで発表される方も、会場にてご用意したプロジェクターと接続ができない場合に備え、バックアップとして必ず発表データを事前にご提出ください。
- Windows、Macintoshのどちらも使用可能です。
- Macintoshを使用される場合は、必ずMacintosh PC本体をご持参ください。
- 会場で用意するPCケーブルコネクタの形状は、HDMIです。この出力端子を持つPCをご用意いただくか、この形状に変換するコネクタを必要とする場合には必ずご持参ください。
  会場に変換ケーブルのご用意はございません。
- スクリーンセーバーならびに省電力設定はあらかじめ解除しておいてください。Macintoshをお持込みいただく場合はホットコーナー設定もあらかじめ解除してください。
- 個々のPCやOSにより設定方法が異なりますので、事前に確認しておいてください。
- ACアダプターを必ずご持参ください。
- 「発表者ツール」の使用はお控えください。

5）公募シンポジウムの発表データについて

◆発表PCについて
- **公募シンポジウムは全てのセッションにおいてご自身のPCを用いて**発表を行っていただきます。当日、会場でPCの貸し出しは行っておりませんので、あらかじめご準備いただきますようお願いいたします。
- Windows、Macintoshのどちらも使用可能です。
- Macintoshを使用される場合は、必ずMacintosh PC本体をご持参ください。
- 会場で用意するPCケーブルコネクタの形状は、HDMIです。この出力端子を持つPCをご用意いただくか、この形状に変換するコネクタを必要とする場合には必ずご持参ください。会場に変換ケーブルのご用意はございません。
- 個々のPCやOSにより設定方法が異なりますので、事前に確認しておいてください。
- ACアダプターを必ずご持参ください。
- 会場にてご用意したプロジェクターと接続ができない場合に備え、複数台のPCをお持ち込みいただくことを推奨いたします。
- 講演開始15分前に各会場前方席にお越しいただき、休憩時間にケーブルの接続をして、ご自身のPCから外部モニターに正しく映像が出力されるかをご確認ください。
- スクリーンセーバーならびに省電力設定はあらかじめ解除しておいてください。Macintoshをお持込みいただく場合はホットコーナー設定もあらかじめ解除してください。
- 「発表者ツール」の使用はお控えください。

◆データ作成について
- スライドサイズは16：9を推奨しますが、4：3でも対応は可能です。
- メディアは、最新のセキュリティーソフトで、メディアにウイルスが感染していないことを確認の上、お持ち込みください。
- 文字フォントはWindows標準のものをご使用ください。これ以外のフォントを使用した場合は、文字・段落のずれ、文字化けなど、正確に表示されないといったトラブルが発生する可能性があります。
- 万が一に備え、バックアップデータを必ず持参してください。

◆発表機材について

会場には、以下の機材をご用意いたします。

- HDMI ケーブル
- プロジェクター
- スクリーン
- 机（可動）
- 椅子（可動）
- 電源タップ
- マイク（有線、無線）の使用可否は会場によって異なります。

7.「利益相反」（COI）の開示について

- 日本子ども虐待防止学会第 32 回学術集会おおさか大会では、臨床研究および学術活動の適切な推進を図り、科学性・倫理性を担保した研究成果の発表の中立性と透明性を確保するため、「利益相反」（Conflict of Interest：COI）の開示をお願いしております。
- 「利益相反」（COI）とは、発表する研究内容や演者・発表者が、関係する事業者から経済的利益を得ていること、もしくは、経済的利益を共有することを意味します。
- COI 開示・公開は、一般演題（口頭発表・ ポスター発表）・公募シンポジウムなど、すべての研究発表・実践報告および演者・発表者が対象となります。演題登録前過去 1 年間における、発表内容に関連する企業や営利を目的とする団体に関わる「利益相反」（COI）の状態を開示してください。
- なお、申告すべき COI があるにも関わらず、それを申告・開示しないことは不正行為に当たりますが、決して、COI を有していること自体が演題発表の妨げになるわけではございませんので、COI を適正に申告・開示するよう、よろしくお願いいたします。

1） 一般演題（口頭・ポスター発表）・公募シンポジウム等における COI 開示

- 一般演題（口頭）筆頭演者はすべての演者の COI を、公募シンポジウム発表者は一人ひとりがご自身の COI をスライドの最初に開示してください。
- 一般演題（ポスター発表）筆頭演者は、すべての演者の COI を、ポスターパネル下部にスペースを設け開示してください。
- スライドを使うすべての発表において、「COI 開示スライド」が必要です。一般演題の場合は、1 演題につき「COI 開示スライド」は 1 枚で結構ですが、公募シンポジウムにつきましては、発表者ごとに「COI 開示スライド」で申告すべき COI の有無を開示してください。
- 発表においてスライドを用いない場合は、口頭で COI を開示してください。

＜記載例＞利益相反（COI）なしの場合

日本子ども虐待防止学会第 32 回学術集会おおさか大会 COI 開示
発表者：〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇（一般演題の場合は、共同演者を含む演者全員の氏名を記載してください。公募シンポジウムの場合は、発表者の氏名のみを記載してください）
演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。

＜記載例＞利益相反（COI）ありの場合

日本子ども虐待防止学会第 32 回学術集会おおさか大会 COI 開示
発表者：〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇（一般演題の場合は、共同演者を含む演者全員の氏名を記載してください。公募シンポジウムの場合は、発表者の氏名のみを記載してください）
日本子ども虐待防止学会第 32 回学術集会おおさか大会の定める利益相反に則り開示します。

※スライド例

開示すべき COI がない場合

日本子ども虐待防止学会
第 32 回学術集会おおさか大会 COI 開示

発表者名：○○○、○○○、○○○、○○○
※共同演者を含む全ての発表者の名前を記載してください。

演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。

開示すべき COI がある場合

日本子ども虐待防止学会
第 32 回学術集会おおさか大会 COI 開示

発表者名：○○○、○○○、○○○、○○○
※共同演者を含む全ての発表者の名前を記載してください。

演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などは以下の通りです。
発表者全員、過去 1 年間を一括して
講演料：A 社、B 社
原稿料：C 社
奨学寄付金：B 社、D 社

8. 合理的配慮へのお願い

本大会では、すべての参加者が、それぞれ人格と個性を尊重し障がいの有無に関係なく平等に大会参加できるよう、情報が保証される取り組みを目指します。
つきましては、発表される皆様におかれましては、以下の例を参考に、可能な範囲で参加者への適切な情報保障等にご協力いただけますようお願いいたします。

1）スライドやポスター作成時の配慮例

- スライド提示やポスター掲示する資料では、登壇者が話す内容を追うことができるよう、単語を並べるのではなく文で表現して、伝わりやすくする。
- スライドや抄録へ図表等を挿入した場合は、図表について簡単に文字で説明を加える。
- 色覚の多様性に配慮し、識別しやすい配色で構成する。
  例）赤色が見えにくいので配慮する。判別が難しい色同士の配色は避ける。など
- スライドの背景デザインは連続性があり、同一のものでそろえるとよい。
- 文字は太くし、小さすぎる文字は避ける。
- 発表中に動画を用いる場合は、可能な限り字幕を付ける（動画サイトの字幕機能や無料の字幕ソフト等の活用も可能です）。

2）発表時の配慮例

- 発表は、ゆっくりと明瞭に発言する。
- 可能な限り「音声のみ」で内容が通じるように工夫する。特にどの部分を（何について）説明しているのかが伝わるように工夫する。
- 図表を示すときは、視覚情報から何が理解できるのかという要点を伝えられるよう、できる限り具体的な言葉で説明を加える。
- 質疑応答は（特にポスター発表時）、可能であれば筆談や音声認識アプリでのやりとりができるような準備をする。
- ディスカッションや複数の発表者がいる場合には、どの発表者が発言しているのかについて明確になるように配慮する。

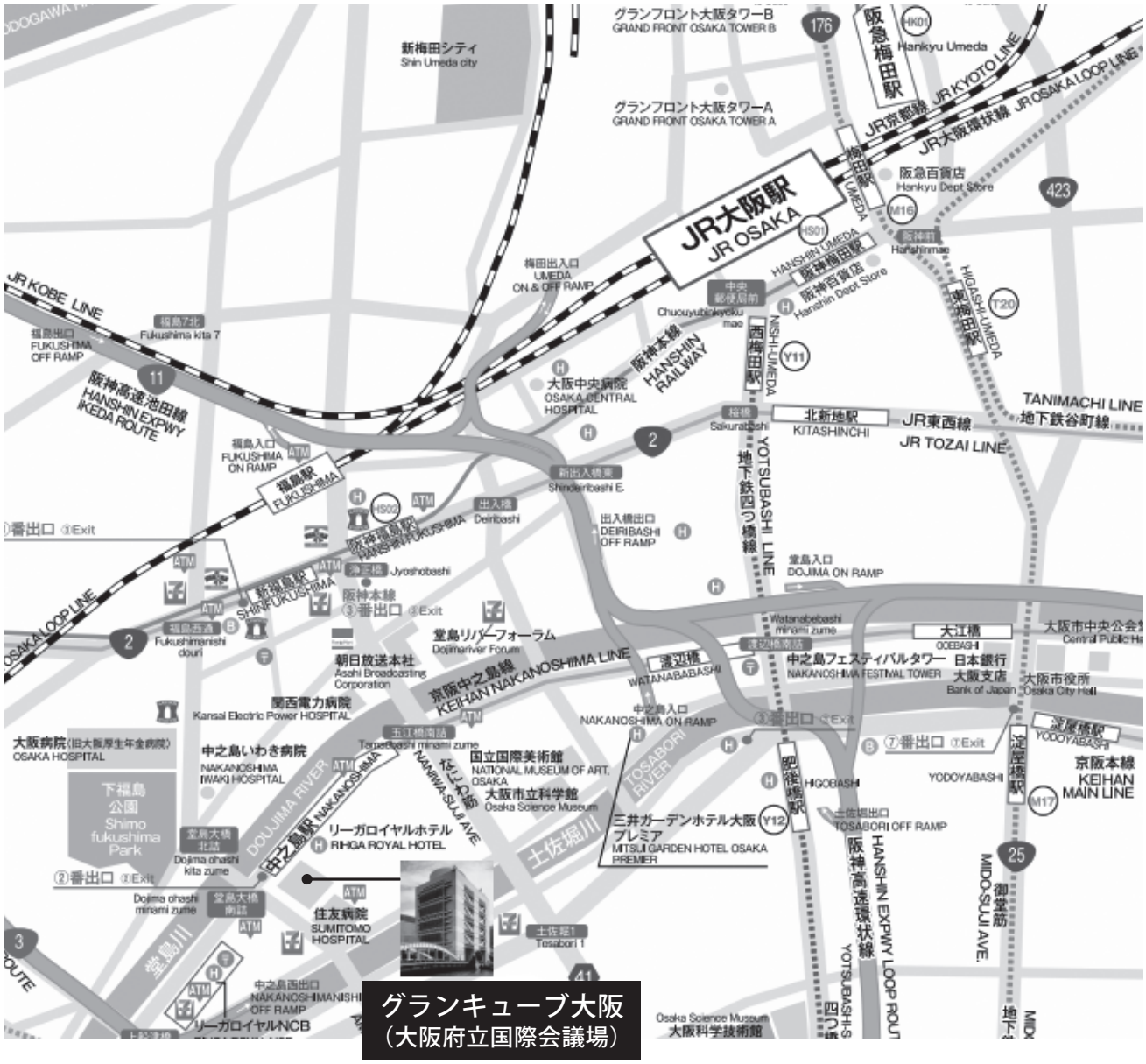
3）参考資料

○合理的配慮に関するリーフレット（内閣府）
https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/pdf/gouriteki_hairyo2/print.pdf
○色覚の多様性について（大阪市）
https://www.city.osaka.lg.jp/shimin/cmsfiles/contents/0000004/4594/2s6-16-20.pdf

会場へのアクセス

●会場：グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3－51

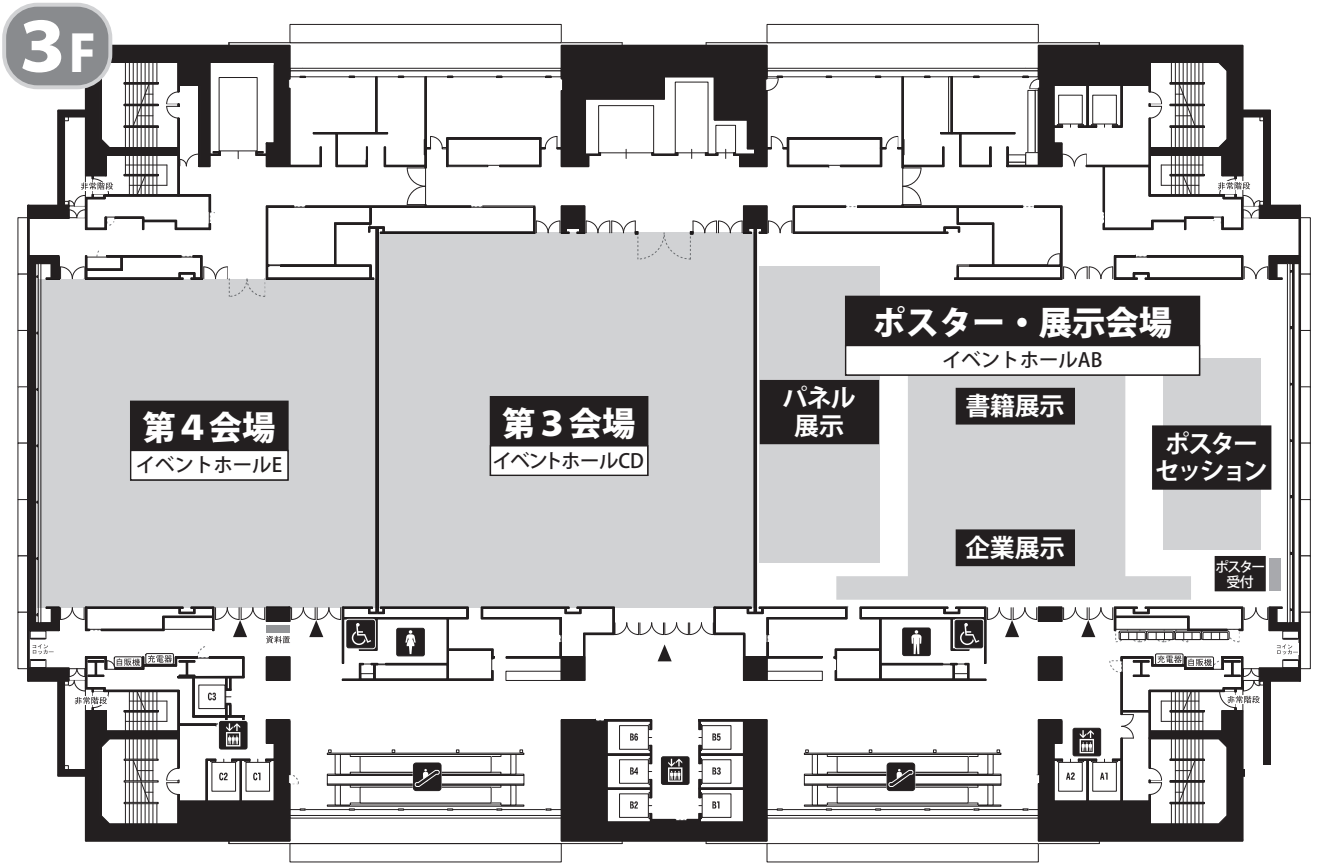


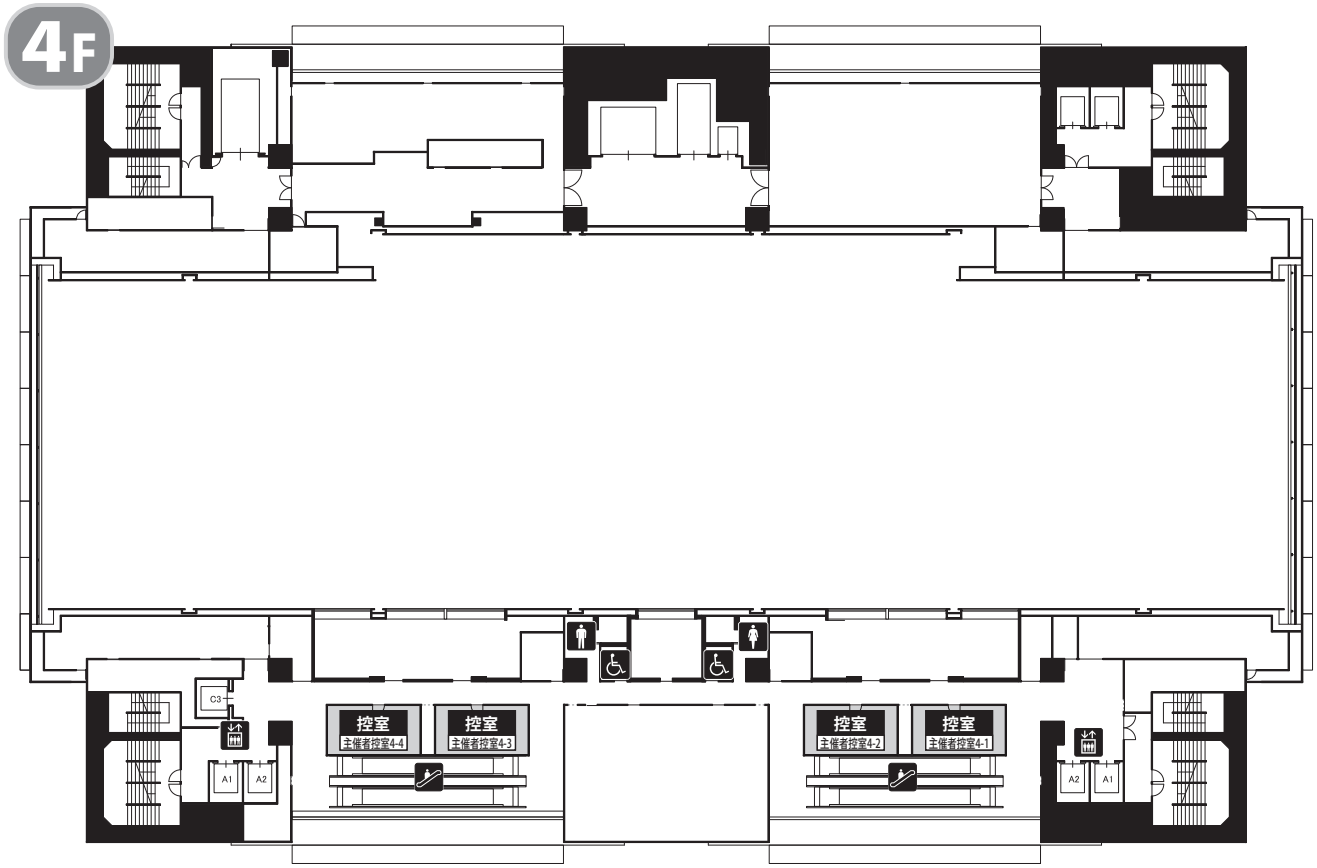
アクセス

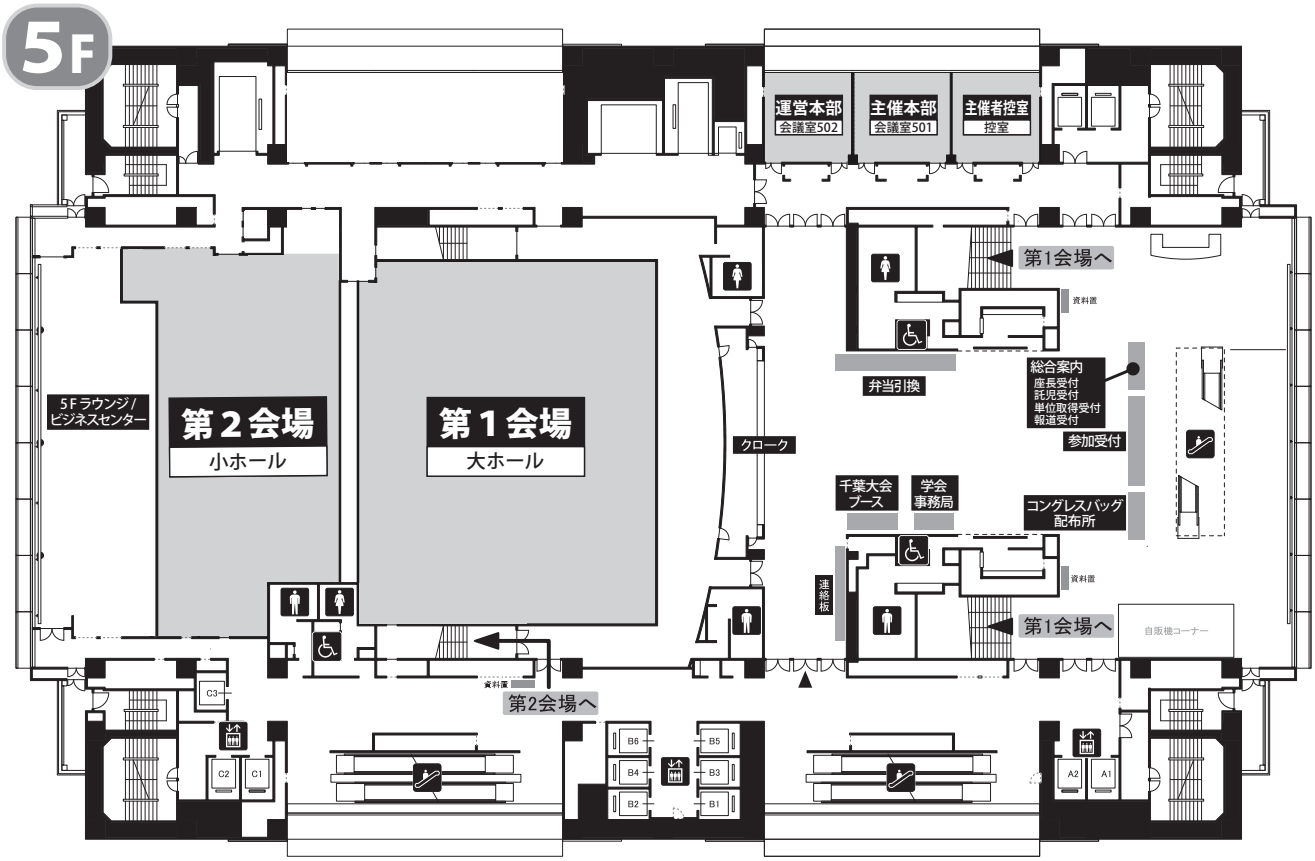
- 京阪電車中之島線「中之島駅（大阪国際会議場）」（2番出口）すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約15分
- JR東西線「新福島駅」（3番出口）から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」（3番出口）から徒歩約10分
- 大阪メトロ「阿波座」（中央線1号出口・千日前線9号出口）から徒歩約15分

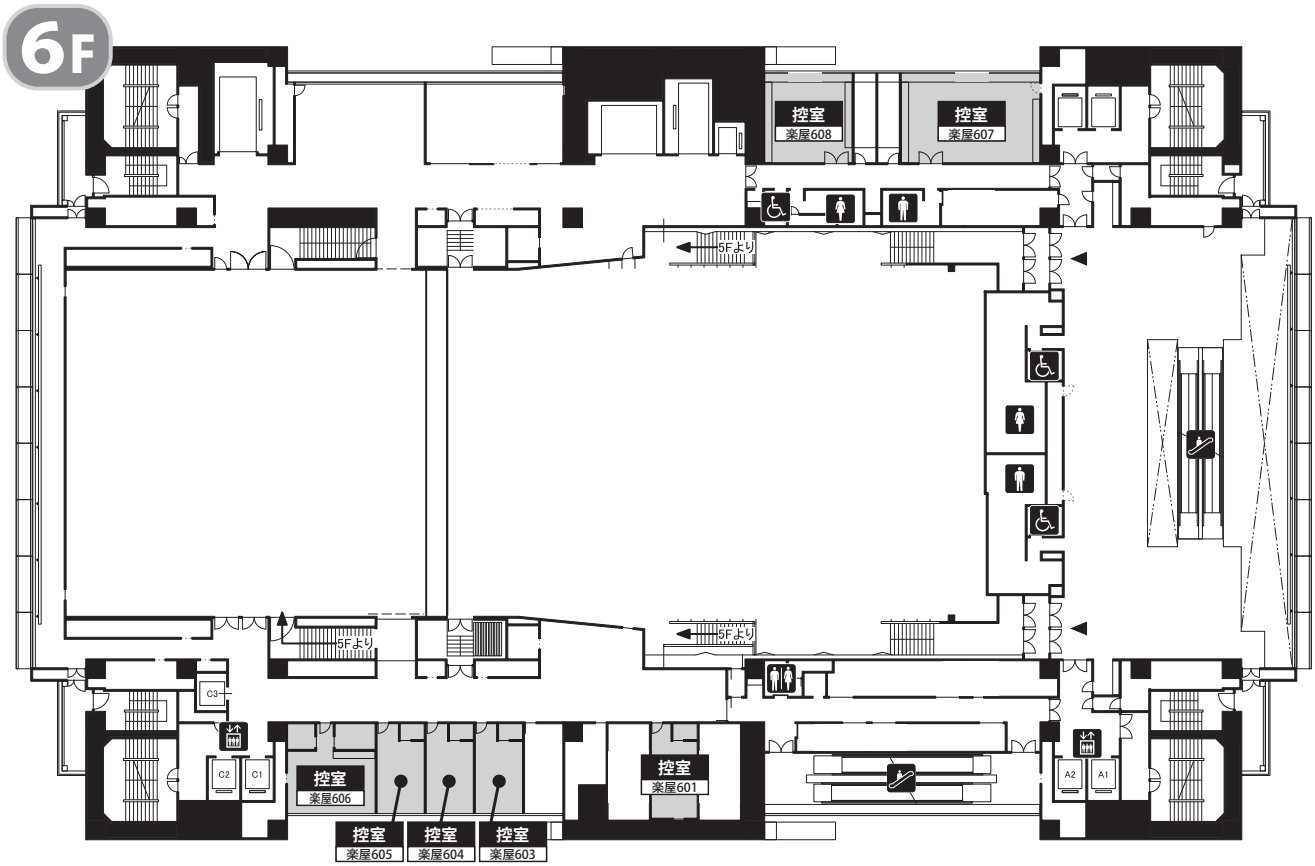
当日、交通規制が行われる可能性がありますので、できるだけ電車をご利用ください。

会場案内図／グランキューブ大阪

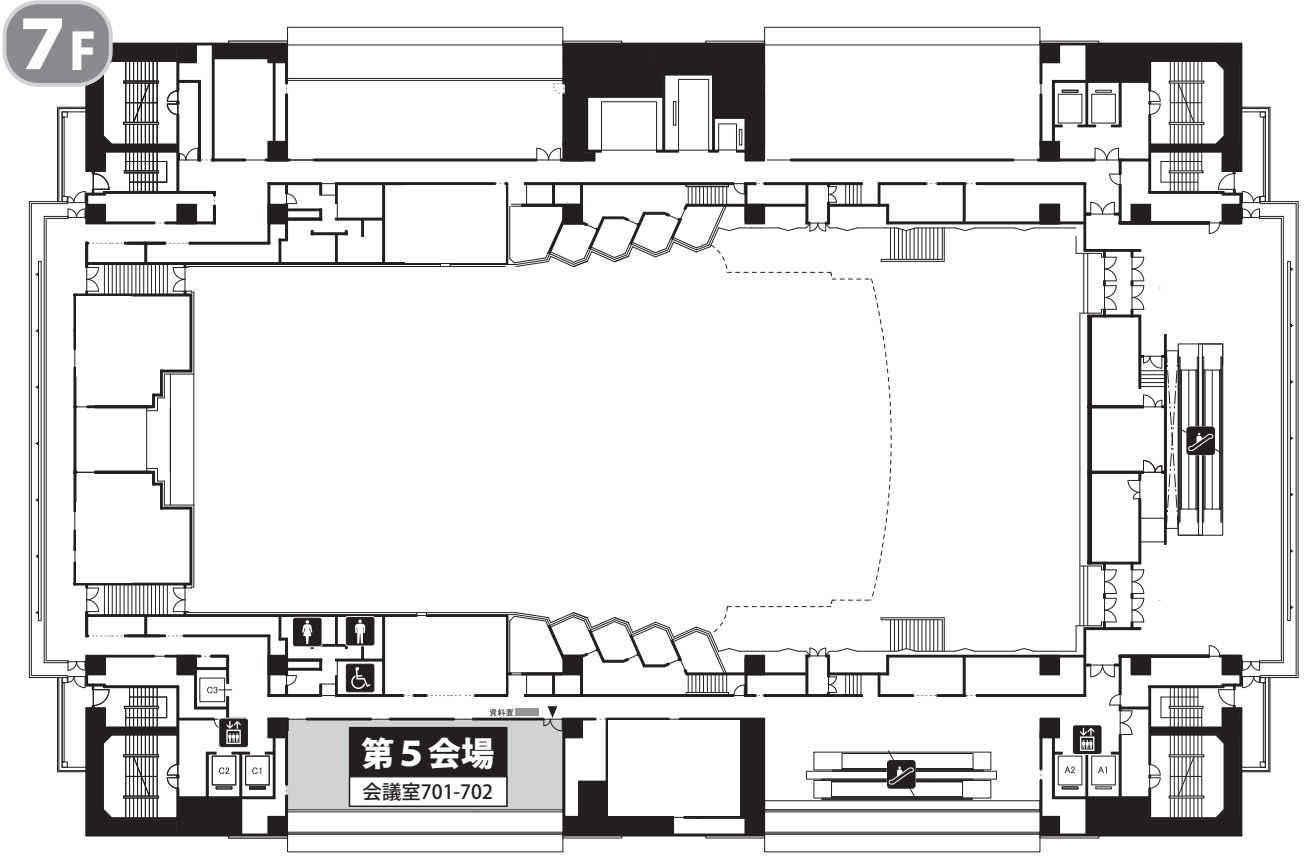




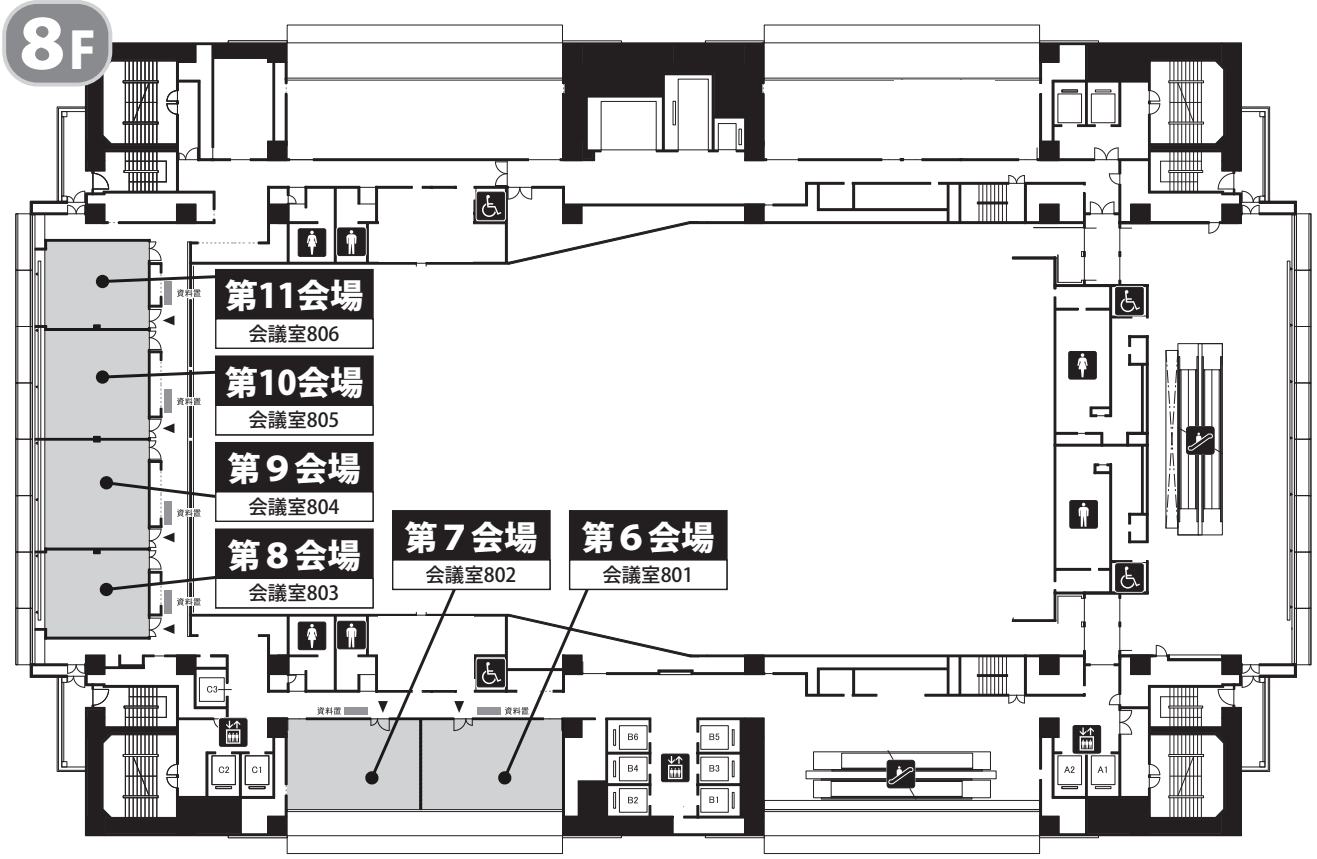

5F
運営本部
会議室502
主催本部
会議室501
主催者控室
控室
第1会場へ
資料置
総合案内
座長受付
託児受付
単位取得受付
報道受付
弁当引換
参加受付
5Fラウンジ/
ビジネスセンター
第２会場
小ホール
第１会場
大ホール
クローク
千葉大会
ブース
学会
事務局
コングレスバッグ
配布所
連絡板
第1会場へ
自販機コーナー
第2会場へ
C3
C2
C1
B6
B5
B4
B3
B2
B1
A2
A1

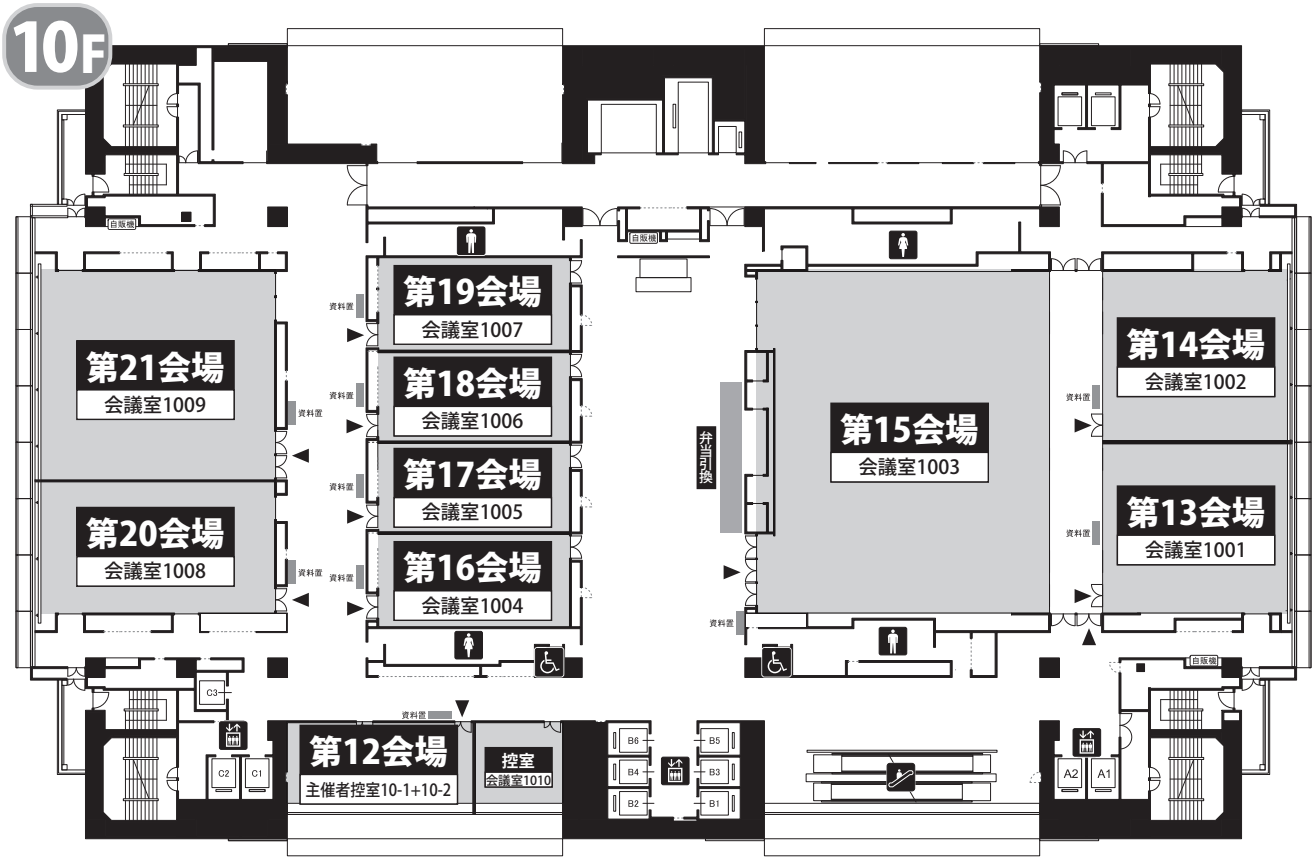

6F
控室
楽屋608
控室
楽屋607
5Fより
5Fより
5Fより
C3
C2
C1
控室
楽屋606
控室
楽屋605
控室
楽屋604
控室
楽屋603
控室
楽屋601
A2
A1

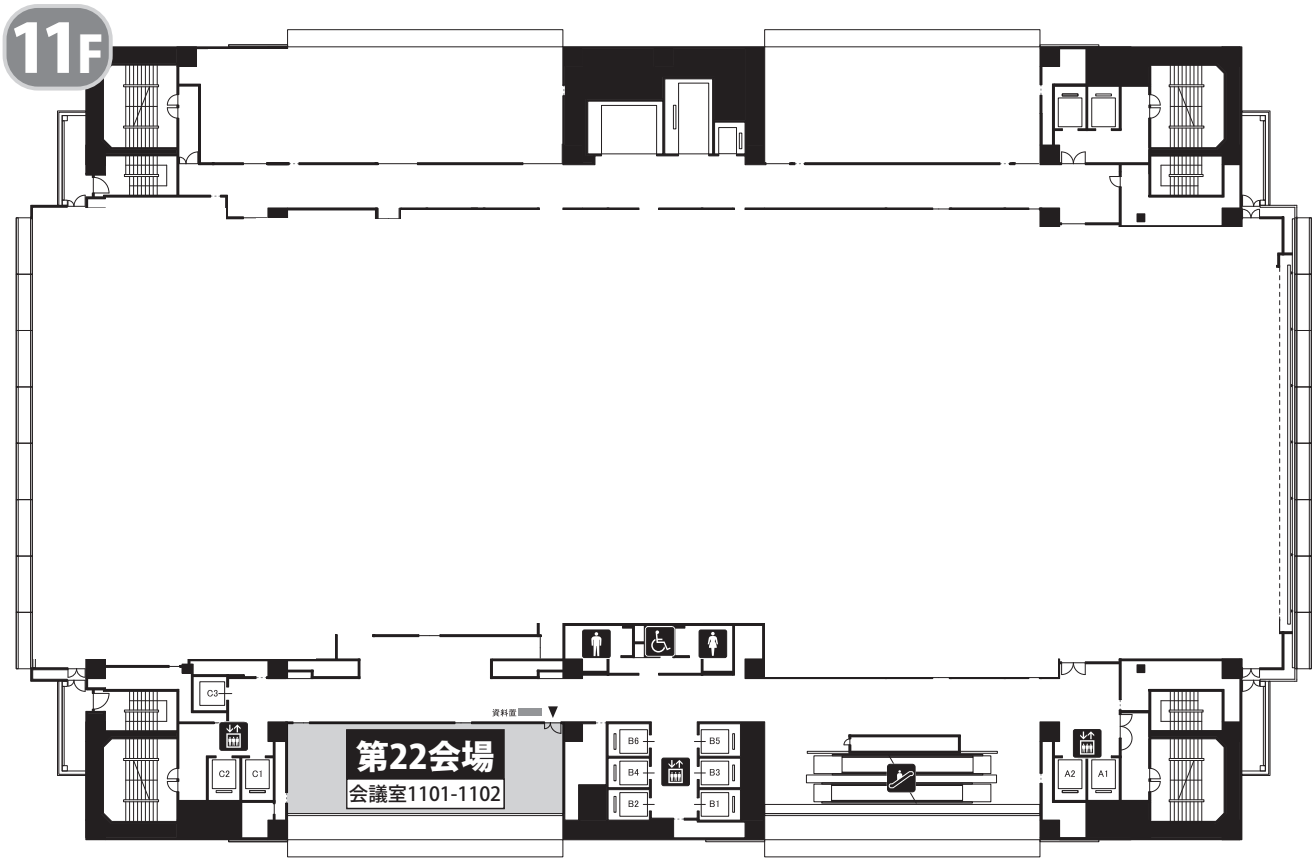
7F

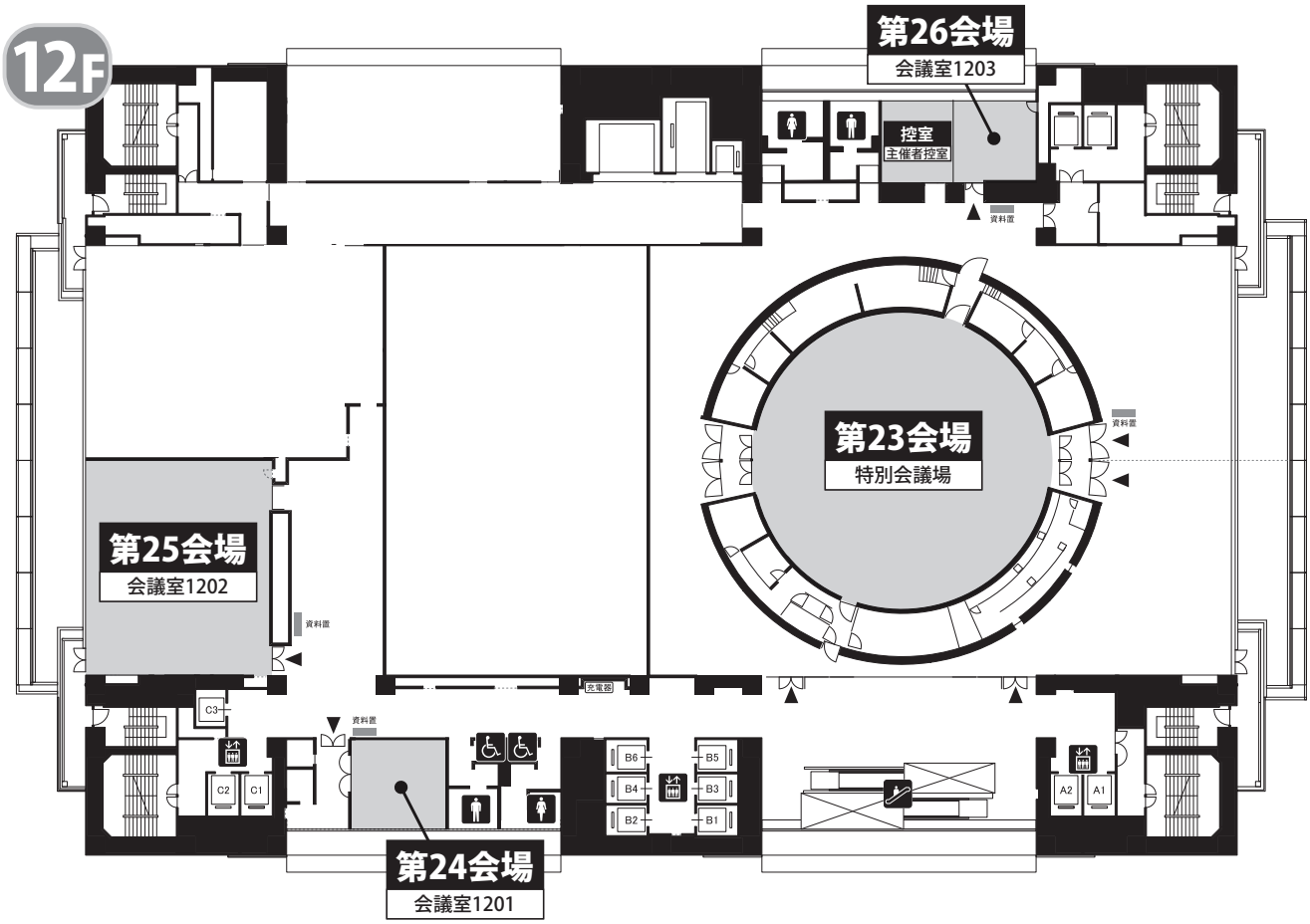

第５会場
会議室701-702
資料置
C3
C2
C1
A2
A1

8F


第11会場
会議室806
第10会場
会議室805
第９会場
会議室804
第８会場
会議室803
第７会場
会議室802
第６会場
会議室801
資料置
C3
C2
C1
B6
B5
B4
B3
B2
B1
A2
A1


10F
第21会場
会議室1009
第20会場
会議室1008
第19会場
会議室1007
第18会場
会議室1006
第17会場
会議室1005
第16会場
会議室1004
第15会場
会議室1003
第14会場
会議室1002
第13会場
会議室1001
第12会場
主催者控室10-1+10-2
控室
会議室1010
弁当引換
自販機
資料置
C3
C2
C1
B6
B5
B4
B3
B2
B1
A2
A1


11F
第22会場
会議室1101-1102
C3
C2
C1
B6
B5
B4
B3
B2
B1
A2
A1


12F
第26会場
会議室1203
控室
主催者控室
資料置
第23会場
特別会議場
資料置
第25会場
会議室1202
資料置
充電器
C3
資料置
C2
C1
B6
B5
B4
B3
B2
B1
A2
A1
第24会場
会議室1201

タイムスケジュール　1日目：11月14日（土）　グランキューブ大阪

グランキューブ大阪

	第3会場	第4会場	第1会場	第2会場	第5会場	第6会場	第7会場
	3F		5F		7F	8F	
	イベントホールCD	イベントホールE	大ホール	小ホール	701-2	801	802
9:00			**開会式** 9:00～9:30	**開会式（中継）** 9:00～9:30			
9:30			**基調講演（ビデオレクチャー）** 支援を必要とする親子の生活の質を高める科学的プログラムによる支援 9:30～10:40	**基調講演（中継）（ビデオレクチャー）** 支援を必要とする親子の生活の質を高める科学的プログラムによる支援 9:30～10:40			
10:00							
10:30			**基調講演（シンポジウム）** オールズ先生の家庭訪問プログラムから何を学び、何をいかすか 10:45～11:30	**基調講演（中継）（シンポジウム）** オールズ先生の家庭訪問プログラムから何を学び、何をいかすか 10:45～11:30			
11:00							
11:30	昼食会場		（昼食会場） **ランチョンセミナー** 「親の責任とは?」 西澤　哲、岩佐嘉彦	昼食不可	昼食不可	昼食会場	
12:00							
12:30	**公募シンポジウム S1-01** 忙しい児童相談所におけるトラウマインフォームドケアの普及～若手グループ研究の果たした役割～ 12:30～14:00	**公募シンポジウム S1-04** 傷ついてどうしようもなかった子ども・若者が自分の人生を生きるためのケア、失った他者への信頼、自分への信頼を取り戻すために歩き出せる道のり 私たちも、ともに生きること 12:30～14:00	**大会企画 シンポジウム1** 子どもの「声をきく」ために求められるもの～学校現場から子どもの権利を解きほぐす 12:30～14:00	**大会企画 シンポジウム7** 母子保健からみた児童虐待の始まりと終わり～妊娠期からの切れ目ない支援を再認識してみる 12:30～14:00		**公募シンポジウム S1-07** 妊産婦支援における「学び」と「実践」の構造化 ―ボ・ドーム　ダイヤモンドルームにおける人材育成のしかけ― 12:30～14:00	**公募シンポジウム S1-10** セーフガーディングで虐待を生まない環境を構築する ～JリーグとNGOにおける虐待防止の挑戦～ 12:30～14:00
13:00							
13:30							
14:00							
14:30	**公募シンポジウム S1-02** 児童養護施設の人財育成を支える心理的安全性の継続的実践 14:15～15:45	**公募シンポジウム S1-05** 虐待を経験した子どもの自殺予防 ― 理論・実証・臨床実践の統合 ― 14:15～15:45	**教育講演5** 虐待を受けた子どもの心理療法 ～トラウマ, アタッチメント, ケア・コントロール葛藤, 自己形成 14:15～15:45	**教育講演3** 「ケア」を謳わないケア ～生活が「治療的」になるために 14:15～15:45	**委員会・WG企画1 当事者ユースWG（ワークショップ）[クローズドセッション]** みんなの声 聴かせてワーク 13:30～16:30	**公募シンポジウム S1-08** 親子が変わる! 認知行動療法を家族、地域、育児支援に活かす ―心の声に応える支援者支援と実践の報告― 14:15～15:45	**公募シンポジウム S1-11** デジタルデータを活用した子どもが抱える課題の早期予測の可視化と社会実装への挑戦：産学官連携による「学校版スクリーニング」の展開 14:15～15:45
15:00							
15:30							
16:00	**公募シンポジウム S1-03** 児童相談所の再デザイン：「統制する組織」から「学習する組織」への転換を目指したチャレンジ 16:00～17:30	**公募シンポジウム S1-06** 性問題行動への治療教育実践による支援者の気づき ―ミャクミャクと続く生活支援の役割― 16:00～17:30	**教育講演7** 孤立する妊婦をどう支えるか：内密出産に至る女性たちの声から得た学び 16:00～17:30	**教育講演6** 価値がないとされることの痛みについて ～虐待死事件を通して考える 16:00～17:30		**公募シンポジウム S1-09** 「CPA（Communicative Parenting Approach®）を核にした親子関係の形成から再構築までの切れ目のない子育て支援体制構築に向けた実践報告」 16:00～17:30	**公募シンポジウム S1-12** 子ども支援弁護士の諸様相と社会的意義 16:00～17:30
16:30							
17:00							
17:30							
18:00							

グランキューブ大阪						
第 8 会場	第 9 会場	第 10 会場	第 11 会場	第 12 会場	第 13 会場	第 14 会場
8F				10F		
803	804	805	806	10-1+10-2	1001	1002
					開会式（中継） 9:00 ～ 9:30	**開会式（中継）** 9:00 ～ 9:30
					基調講演（中継）（ビデオレクチャー） 支援を必要とする親子の生活の質を高める科学的プログラムによる支援 9:30 ～ 10:40	**基調講演（中継）（ビデオレクチャー）** 支援を必要とする親子の生活の質を高める科学的プログラムによる支援 9:30 ～ 10:40
					基調講演（中継）（シンポジウム） オールズ先生の家庭訪問プログラムから何を学び、何をいかすか 10:45 ～ 11:30	**基調講演（中継）（シンポジウム）** オールズ先生の家庭訪問プログラムから何を学び、何をいかすか 10:45 ～ 11:30
昼食会場			昼食不可	昼食会場		
公募シンポジウム S1-13 形骸化する要保護児童対策地域協議会の活性化 ー明石こどもセンターの実践からー 12:30 ～ 14:00	**公募シンポジウム S1-16** CBT、これで合ってる? もやもやしている人のための体験的CBT入門 12:30 ～ 14:00	**公募シンポジウム S1-19** 子どもは守られるだけの存在か ーセルフアドボカシーと権利教育から問い直す虐待予防ー 12:30 ～ 14:00		**公募シンポジウム S1-22** 子どもの出自を知る権利について 12:30 ～ 14:00	**公募シンポジウム S1-25** 児童福祉施設における重大事案への緊急支援システムの構築に向けて 12:30 ～ 14:00	**公募シンポジウム S1-28** LSWを「こどものための時間」にするために ー支援者のまなざしと寄り添いー 12:30 ～ 14:00
公募シンポジウム S1-14 虐待防止につなげるアウトリーチ家庭訪問 ー支援対象児童見守り強化事業で見えてきた介入への5ステップ 14:15 ～ 15:45	**公募シンポジウム S1-17** 「守り、支えたい」と願う良心が傷つくとき ー知られざる痛みの名「モラル・インジュリー」を共に考えるー 14:15 ～ 15:45	**公募シンポジウム S1-20** 「子どもをチームで支える」とは何か ー「ひとりぼっちにしない」協働の実践ー 14:15 ～ 15:45		**公募シンポジウム S1-23** 里親・実子・支援者の「ぶっちゃけ話」からLSWを考える ー権利保障と家庭の安定、ともに歩む支援へー 14:15 ～ 15:45	**公募シンポジウム S1-26** 「ケアリーバーを孤立させないために」 ～児童福祉・司法の視点から考える「強いられた自立」とつながりの再接続～ 14:15 ～ 15:45	**公募シンポジウム S1-29** もっと深めよう! 子どもを主体としたライフストーリーワーク 14:15 ～ 15:45
公募シンポジウム S1-15 こどもの最善に根ざす官民協働はいかに「成立」するのか ー行政とNPOの境界と接続から考えるー 16:00 ～ 17:30	**公募シンポジウム S1-18** 児童福祉司の専門性とソーシャルワークー ー価値ある専門職であるためにー 16:00 ～ 17:30	**公募シンポジウム S1-21** 心理臨床とソーシャルワークを繋ぐ心理士資格を有する児童福祉司 ー明石こどもセンターの実践からー 16:00 ～ 17:30		**公募シンポジウム S1-24** 里親に「なりたい」「続けたい」を支えるには: 里親養育促進に求められる支援を考える 16:00 ～ 17:30	**公募シンポジウム S1-27** 社会的養護自立支援拠点事業の価値と課題 ～省察的実践と、こどものケアニーズに寄り添った支援のあり方～ 16:00 ～ 17:30	**公募シンポジウム S1-30** 社会的養護におけるルーツを紡ぐ支援の葛藤と専門性形成 ーこどもと家族の人生史に伴走する支援者はいかに育つのかー 16:00 ～ 17:30

9:00 9:30 10:00 10:30 11:00 11:30 12:00 12:30 13:00 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30 16:00 16:30 17:00 17:30 18:00

タイムスケジュール　1日目：11月14日（土）　グランキューブ大阪

グランキューブ大阪

	第15会場	第16会場	第17会場	第18会場	第19会場	第20会場	第21会場
	10F						
	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009
9:00						**開会式（中継）** 9:00～9:30	**開会式（中継）** 9:00～9:30
9:30						**基調講演（中継）（ビデオレクチャー）** 支援を必要とする親子の生活の質を高める科学的プログラムによる支援 9:30～10:40	**基調講演（中継）（ビデオレクチャー）** 支援を必要とする親子の生活の質を高める科学的プログラムによる支援 9:30～10:40
10:00							
10:30							
11:00						**基調講演（中継）（シンポジウム）** オールズ先生の家庭訪問プログラムから何を学び、何をいかすか 10:45～11:30	**基調講演（中継）（シンポジウム）** オールズ先生の家庭訪問プログラムから何を学び、何をいかすか 10:45～11:30
11:30							
12:00	昼食会場						
12:30	**委員会・WG企画3 専門性基盤づくりWG** 地域の子ども家庭相談支援における専門性の共通基盤を考える 12:30～14:00	**公募シンポジウム S1-31** 「虐待予防につなげる母子生活支援施設と児童相談所の新たな協働」 ～在宅指導措置による分離しない支援～ 12:30～14:00	**公募シンポジウム S1-34** 児童養護施設における職員の子どもへの「適切な関わり」とは・・被措置児童虐待防止の法的整備が進む中で・・ 12:30～14:00	**公募シンポジウム S1-37** 虐待に至った父親・母親たちの回復 ～ソマティック・アプローチの効果・MY TREEペアレンツ・プログラム～ 12:30～14:00	**公募シンポジウム S1-40** 養育者支援における対話の可能性 ～「見ること」を共有するCRCDOREMIの実践から～ 12:30～14:00	**公募シンポジウム S1-43** 「支援」「ケア」の現場における二次被害 ――二次被害実態調査が支援者に問いかけるもの―― 12:30～14:00	**公募シンポジウム S1-46** 里親・里子を対象としたトラウマ・アタッチメントに焦点を当てた心理療法 12:30～14:00
13:00							
13:30							
14:00							
14:30	**委員会・WG企画11 障がい児虐待予防WG** 地域における虐待予防としての障害児支援の役割 ～インクルージョン推進と子どもと家族中心（Family-Centered）の支援 14:15～15:45	**公募シンポジウム S1-32** こども家庭センターのアップデート！みんなで変えるよ！ ～課題・方向性・実働についてズバっと話そう～ 14:15～15:45		**公募シンポジウム S1-38** 児童相談所・児童家庭支援センター・地域医療機関の協働による親子再統合支援のプロセスと課題 14:15～15:45	**公募シンポジウム S1-41** 実演！ こども参加でつくる援助方針策定の会議 ～和歌山県・広島県の児相が教える実施ポイント・心理的ケア・組織づくり 14:15～15:45	**公募シンポジウム S1-44** 研究と臨床の融合 ― 子どもの発達と脳科学研究の検討― 14:15～15:45	**公募シンポジウム S1-47** 社会的養育において必要とされる社会的養護施設の専門性 ～施設の役割と里親との協働や地域連携について～ 14:15～15:45
15:00							
15:30							
16:00	**大会企画 シンポジウム4** 精神疾患のある親と暮らす子どもは何を体験しているのか ～子ども視点から支援を問い直す、連携と親支援 16:00～17:30	**公募シンポジウム S1-33** 保護者を支え、地域でつなぐ ― 保育施設・地域子育て支援拠点での保護者支援とこども家庭センターとの連携 ― 16:00～17:30	**公募シンポジウム S1-36** 家裁送致のあと、子どもはどこに行くのか ― 社会的養護の子どもの非行と帰住先調整 ― 16:00～17:30	**公募シンポジウム S1-39** 「分離された母親」へ必要な心のケアは届けられているのか!? ～三次予防を目的とした親支援グループの実践から 16:00～17:30	**公募シンポジウム S1-42** 挑戦をやめない！子どもと家族の声を聴き、届け続ける -中野区児童相談所の組織連携と子どもの声を聴く実践- 16:00～17:30	**公募シンポジウム S1-45** 児童虐待防止医療ネットワーク事業における連携－多職種・多機関の間で現在に繋ぐ横糸と未来へ紡ぐ縦糸－ 16:00～17:30	**公募シンポジウム S1-48** 実親とのつながりを念頭においた里親養育と施設養育の可能性 ～分離保護とパーマネンシー保障について考える～ 16:00～17:30
16:30							
17:00							
17:30							
18:00							

グランキューブ大阪						
第 22 会場	第 23 会場	第 24 会場	第 25 会場	第 26 会場	ポスター会場	12F ホワイエ
11F	12F				3F	12F
1101-2	特別会議場	1201	1202	1203	イベントホールAB	ホワイエ
昼食会場						
公募シンポジウム S1-49 きょうだい間性虐待への対応を考える 12:30 ～ 14:00	公募シンポジウム S1-52 日本版の司法面接の研究と実践 ―「日本版司法面接ガイドライン」「司法面接構造」の活用― 12:30 ～ 14:00	一般演題 (O1) 支援ツールの作成・支援体制の確保 12:30 ～ 14:00	公募シンポジウム S1-54 専門性を生かした一時保護所心理療法担当職員の業務について ―大阪市こども相談センター一時保護所での取り組み― 12:30 ～ 14:00	一般演題 (O4) 母子保健・周産期からの支援 12:30 ～ 14:00	ポスター貼り付け 12:30 ～ 17:00	2016年 マイケル・ラター先生 インタビュー 映像放映 (随時)
公募シンポジウム S1-50 子ども・若年者の性被害者支援における司法・福祉・地域支援の接続構造 ―台湾及びNZの仕組みを参考に 14:15 ～ 15:45	公募シンポジウム S1-53 司法面接連続企画 ―子どもの回復と刑事手続による正義実現の両立について― 14:15 ～ 15:45	一般演題 (O2) 里親養育の支援 14:15 ～ 15:45	公募シンポジウム S1-55 児童相談所におけるメンタライジング ～支援者の支援する力をチームで支える～ 14:15 ～ 15:45	一般演題 (O5) 子育て支援と虐待予防プログラム 14:15 ～ 15:45		
公募シンポジウム S1-51 証人尋問に臨む子どもへの支援とケア ～法廷でも子どもを守りながら真実発見を目指すために～ 16:00 ～ 17:30	委員会・WG企画6 性虐待WG（1） 性虐待ワーキング：各グループからの提言案 16:00 ～ 17:30	一般演題 (O3) 社会的養護と地域・学校のつながり 16:00 ～ 17:30	公募シンポジウム S1-56 児童福祉司が心理療法を学習する意義と課題 16:00 ～ 17:30	一般演題 (O6) 親の学びと予防的アプローチ 16:00 ～ 17:30		

9:00 9:30 10:00 10:30 11:00 11:30 12:00 12:30 13:00 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30 16:00 16:30 17:00 17:30 18:00

タイムスケジュール　2日目：11月15日（日）　グランキューブ大阪

	グランキューブ大阪						
	第３会場	第４会場	第１会場	第２会場	第５会場	第６会場	第７会場
	3F		5F		7F	8F	
	イベントホールCD	イベントホールE	大ホール	小ホール	701-2	801	802
9:00							
	公募シンポジウム S2-01 一時保護施設におけるウェルビーイングを支える人材育成と組織マネジメントの統合的アプローチ 9:00～10:30	**公募シンポジウム S2-05** こども家庭 SW は制度の切れ目にどう立ち向かうのか 制度のすきまを埋める CFSW の学びと工夫 9:00～10:30	**委員会・WG企画７ 性虐待WG（２）** わが国の性問題行動、性加害児へのケアの現状～各施設の取り組み 9:00～10:30	**委員会・WG企画12 家族法改正対応WG** 離婚後共同親権制度における子どもの最善の利益を考える ～令和６年家族法改正の子ども福祉分野への影響 9:00～10:30	**委員会・WG企画１ 当事者ユースWG（シンポジウム）** こども・若者の語りが育むつながり：ともに語る場から生まれるもの 9:00～10:30	**公募シンポジウム S2-10** ペアレンティングプログラムの効果と可能性ー今の時代を生きる親御さんと繋がり・続ける支援とはー 9:00～10:30	**公募シンポジウム S2-14** 子ども・若者が子ども虐待について学ぶ意味ー忘れられたもう一つの声 9:00～10:30
9:30							
10:00							
10:30							
11:00	**公募シンポジウム S2-02** こども家庭センターと児童相談所が違いを越えてつながるために～こども家庭センター・児童相談所職員の自主勉強会を通じて考える～ 10:45～12:15	**委員会・WG企画５ 子どもの権利を守る委員会** 意見を聴かれる子どもの権利(意見表明権)と最善の利益 10:45～12:15	**教育講演2** 市販薬オーバードーズの現状と課題 ～その後どうなったのか？ 10:45～12:15	**大会企画 シンポジウム6** こどもの気持ちに寄り添う仕組みとその実践 ～社会的養護におけるアドボカシー 10:45～12:15	**公募シンポジウム S2-08** 児童養護施設における意見表明支援 ー関係性に注目した、あるべき姿の確立に向けてー 10:45～12:15	**公募シンポジウム S2-11** 産前からの親準備教育による子ども虐待予防について 10:45～12:15	**公募シンポジウム S2-15** 子どもの権利を守る「いじめ」見逃しゼロから子ども虐待予防教育へ ～南市岡小学校版「『生きる』教育」で子どもの心を育て未来を変える～ 10:45～12:15
11:30							
12:00							
12:30	昼食会場			昼食不可	昼食会場		
13:00							
13:30	**公募シンポジウム S2-03** Building Child-Centred Practice in Japan -英国視察研修後の私たちの実践- 13:15～14:45	**公募シンポジウム S2-06** 社会的養育におけるLGBTQ+という視点について考えるーその生きづらさと向き合うためにー 13:15～14:45	**大会企画 シンポジウム3** ODというSOSを見逃さない ～多職種連携で考える 13:15～14:45	**教育講演1** 少年非行の背景にある虐待を考える ～警察・福祉・教育機関の協働アプローチ 13:15～14:45	**委員会・WG企画２ 制度検討委員会 定義問題チーム** 児童虐待の新たな定義の提案 ～定義問題検討チーム最終報告をふまえて 13:15～14:45	**公募シンポジウム S2-12** 妊娠期からの虐待防止を目指した多胎家庭支援 ー地域を基盤とした多職種連携による支援ー 13:15～14:45	**公募シンポジウム S2-16** 子どもに対する暴力をなくし子どもの権利を保障する子どもの権利教育～子どもに対する暴力の予防を強化する 13:15～14:45
14:00							
14:30							
15:00							
	公募シンポジウム S2-04 児童相談所・社会的養護施設における“異文化”理解の実践をボトムアップで考えるーースーパーバイザーは対話をどのように創造するのか？ー 15:00～16:30	**公募シンポジウム S2-07** 子どもの権利に根差したデザインの協働実践 ～トラウマインフォームドデザインの実践報告を通して～ 15:00～16:30			**公募シンポジウム S2-09** サインズ・オブ・セーフティ・アプローチにおいて支援者が行った実践を子ども・家族・ネットワーク等から評価してもらうフィードバックの仕組み 15:00～16:30	**公募シンポジウム S2-13** 乳幼児期の虐待予防アセスメントと保育ソーシャルワークの役割ー気づき・判断・連携のプロセスを可視化するー 15:00～16:30	**公募シンポジウム S2-17** プレーパークと要対協のつかず離れずの関係性を支えるもの ー子どもと大人の真の安心安全（ピース）ー 15:00～16:30
15:30							
16:00							
16:30							
17:00							

グランキューブ大阪						
第 8 会場	第 9 会場	第 10 会場	第 11 会場	第 12 会場	第 13 会場	第 14 会場
8F				10F		
803	804	805	806	10-1+10-2	1001	1002
一般演題 **(O7)** 諸外国の制度と国際比較 9:00 ～ 10:30	**一般演題** **(O8)** 児童福祉司等の育成と意思決定 9:00 ～ 10:30	**一般演題** **(O12)** 医療機関における虐待対応 9:00 ～ 10:30	**一般演題** **(O16)** リスクアセスメントと尺度開発 9:00 ～ 10:30	**公募シンポジウム** **S2-21** つながった現場・超えた垣根 ―児相への要望から形になった一時保護を支える里親知恵袋― 9:00 ～ 10:30	**公募シンポジウム** **S2-25** 児童養護施設における「自立支援」の新たな方向性 ―実践と研究の架橋による再検討 9:00 ～ 10:30	**公募シンポジウム** **S2-29** 青年期後期へ続くライフストーリーワーク 9:00 ～ 10:30
公募シンポジウム **S2-18** 官民のタッグによって生まれた早期の治療的支援 ～地域支援のもう一つの方向性～ 10:45 ～ 12:15	**一般演題** **(O9)** 児童相談所の支援者支援とメンタルヘルス 10:45 ～ 12:15	**一般演題** **(O13)** 多職種連携による医療的支援 10:45 ～ 12:15	**基調講演** **(ビデオレクチャー)** (再上映) と訪問メンバーによる意見交換 10:45 ～ 12:15	**公募シンポジウム** **S2-22** 養育困難家庭を支える施設と里親によるショートステイ ～福岡市の現状と今後の展開を考える～ 10:45 ～ 12:15	**公募シンポジウム** **S2-26** 児童養護施設におけるアタッチメントおよびトラウマの視点をもった支援の推進に向けて 10:45 ～ 12:15	**公募シンポジウム** **S2-30** ライフストーリーワーク（LSW）における乳児院の役割 ―広域ネットワークが実践にもたらすもの― 10:45 ～ 12:15
昼食会場						
公募シンポジウム **S2-19** 奈良市子どもセンター開設５年目の挑戦 ～子どもと共に歩んだ軌跡を振り返る～ 13:15 ～ 14:45	**一般演題** **(O10)** 人材の養成・確保・定着 13:15 ～ 14:45	**一般演題** **(O14)** 性虐待・性暴力への対応と予防教育 13:15 ～ 14:45	**基調講演** **(ビデオレクチャー)** (再上映) と訪問メンバーによる意見交換 13:15 ～ 14:45	**公募シンポジウム** **S2-23** ファミリーホームにおける意見表明等支援の可能性と課題 ― 子どもの声を支える制度と養育者の葛藤― 13:15 ～ 14:45	**公募シンポジウム** **S2-27** 生活の中で育まれていく「つながる力」とは？ ～社会的養護の現場から、今発信したいこと～ 13:15 ～ 14:45	**公募シンポジウム** **S2-31** 「三方（児相・施設・地域）よし」は、「子どもよし」！ 研究会活動をもとにLSWを通した多機関連携の試み 13:15 ～ 14:45
公募シンポジウム **S2-20** 豊中市（基礎自治体）における児童相談所開設後1年の支援体制 15:00 ～ 16:30	**一般演題** **(O11)** 児童福祉施設の職員研修と組織づくり 15:00 ～ 16:30	**一般演題** **(O15)** 子ども・若者の理解とケア 15:00 ～ 16:30		**公募シンポジウム** **S2-24** 絵本を通して考える里親支援 ―絵本づくりとその活用の実践― 15:00 ～ 16:30	**公募シンポジウム** **S2-28** Watch Me Play!による関係性支援の実践 ―社会的養護・子育て支援の現場から― 15:00 ～ 16:30	**公募シンポジウム** **S2-32** ライフストーリーワーク（LSW）の地域展開 ―宮城県での試み・地域間のつながり― 15:00 ～ 16:30

9:00
9:30
10:00
10:30
11:00
11:30
12:00
12:30
13:00
13:30
14:00
14:30
15:00
15:30
16:00
16:30
17:00

タイムスケジュール　2日目：11月15日（日）　グランキューブ大阪

	グランキューブ大阪						
	第15会場	第16会場	第17会場	第18会場	第19会場	第20会場	第21会場
	10F						
	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009
9:00	**委員会・WG企画8 虐待予防WG** 「トツキトオカ」を紡ぐ知恵～妊娠期からの伴走力 9:00～10:30	**公募シンポジウム S2-33** こどもの権利を守る要対協のあり方とは？ 9:00～10:30	**公募シンポジウム S2-36** 児童養護施設の小規模・地域分散化は,福祉経営と養育の質をどうポジティブに発展させることが出来るか. 9:00～10:30	**公募シンポジウム S2-40** 親子関係形成支援事業の現在地 ーエビデンスと導入の課題：トリプルPとポジティブ・ディシプリンの実践から 9:00～10:30	**公募シンポジウム S2-44** 関係を壊さずに進める虐待相談 ―家族と支援を共有するための実践報告― 9:00～10:30	**公募シンポジウム S2-48** 子ども虐待対応チームにおける看護師の役割を深堀りしよう！ ―私がやってることはスタンダード？マニアック？― 9:00～10:30	**公募シンポジウム S2-52** 「家庭か施設か」を超えて考える ―実親と里親を支える地域支援基盤としての乳児院 9:00～10:30
9:30							
10:00							
10:30							
11:00	**大会企画 シンポジウム5** 西成から届けるこどもを支えるネットワーク 10:45～12:15	**委員会・WG企画4 倫理COI委員会** 当事者参加型研究発表と倫理について 10:45～12:15	**公募シンポジウム S2-37** 施設種別を超えた退所後支援の取り組み ～神戸市児童養護施設連盟自立支援実務者会の実践～ 10:45～12:15	**公募シンポジウム S2-41** エビデンスに基づく児童虐待予防の実装 ―親子関係形成を支えるペアレンティンググプログラムの実践と展望― 10:45～12:15	**公募シンポジウム S2-45** 「支援する側」はどう変わるのか ―本人の声を起点に地域資源と支援を組み替えるラップアラウンド実践― 10:45～12:15	**公募シンポジウム S2-49** 見えない専門性を未来へ残す ～MSWのコーディネーター力の可視化とマニュアル化～ 10:45～12:15	**公募シンポジウム S2-53** 里子の自立を取り巻く課題 ―里親子支援者・施設職員経験者・里親経験者の視点から― 10:45～12:15
11:30							
12:00							
12:30	昼食会場						
13:00							
13:30	**大会企画 シンポジウム2** 学校だけで守れない子どもたちへ ～不登校・暴力・非行に向き合う学校と福祉の実践的連携 13:15～14:45	**公募シンポジウム S2-34** こども家庭センター3年目の今、思うこと ―それぞれの立場からの具体― 13:15～14:45	**公募シンポジウム S2-38** 「つながり」を考える ～人、場所、歴史、心をつなぐ社会的養育の実践～ 13:15～14:45	**公募シンポジウム S2-42** 虐待した父親の行動変容を促す取り組み ～ケアリングダッツプログラム東京都児相版の導入～ 13:15～14:45	**公募シンポジウム S2-46** 第三者評価から見えてきた一時保護施設の先進的取り組みと547人の子どもの声 13:15～14:45	**公募シンポジウム S2-50** 医療機関でキャッチした子どものSOS、どうつなぐか 13:15～14:45	**公募シンポジウム S2-54** 里親支援における心理支援の専門性 -里子と里親の心が出会う場所としての家庭- 13:15～14:45
14:00							
14:30							
15:00	**委員会・WG企画9 CDR-WG** チャイルドデスレビューの挑戦 ～自殺ケースを題材に～ 15:00～16:30	**公募シンポジウム S2-35** 児童相談所と児童家庭支援センターの協働のための指導委託 ―全国最多の実績を有する和歌山県からの発信― 15:00～16:30	**公募シンポジウム S2-39** 社会的養護経験者の学びの保障と支援について考える ―大学等高等教育機関と社会的養護との連携― 15:00～16:30	**公募シンポジウム S2-43** アドボカシーは怖くない!? ～日々の臨床の中にある意見表明支援～ 15:00～16:30	**公募シンポジウム S2-47** こどもアドボケイトにおける一時保護児童全件面会の意義と展望 15:00～16:30	**公募シンポジウム S2-51** 医療機関におけるこども家族支援の現在地 ～権利を守る多機関連携と医療ソーシャルワーカーの実践～ 15:00～16:30	**公募シンポジウム S2-55** 里親家庭の実子のアドボカシーとチーム養育の確立 ―実子を対象としたプログラム開発の試み― 15:00～16:30
15:30							
16:00							
16:30							
17:00							

グランキューブ大阪						
第 22 会場	第 23 会場	第 24 会場	第 25 会場	第 26 会場	ポスター会場	12F ホワイエ
11F	12F				3F	12F
1101-2	特別会議場	1201	1202	1203	イベントホールAB	ホワイエ
公募シンポジウム S2-56 非行の課題を抱えるこどもの支援その５～きょうだい間性加害ケースにおける家庭の支援について～ 9:00 ～ 10:30	**教育講演８** 子ども虐待とDVの交差に介入する～若者のインタビュー調査から子どもの経験と求められる支援について考える 9:00 ～ 10:30	**一般演題 (O17)** 市町村・関係機関の連携体制 9:00 ～ 10:30	**公募シンポジウム S2-60** トラウマケアを組織に根付かせる～児童心理司の役割と実践～ 9:00 ～ 10:30	**公募シンポジウム S2-64** アディクションのある養育者に育てられた子どもの受ける困難とその支援体制を考える 9:00 ～ 10:30		**2016年 マイケル・ラター先生 インタビュー 映像放映** （随時）
公募シンポジウム S2-57 DV加害者である親へ介入する実践 －Safe & Together モデルによる加害者パターンベースドアプローチの導入と展望－ 10:45 ～ 12:15	**教育講演4** 法医学で「わかること、わからないこと」～ 法医学者ってこういう風に考えてます 10:45 ～ 12:15	**一般演題 (O18)** 子どもの声とSOSの受け止め 10:45 ～ 12:15	**公募シンポジウム S2-61** これからの児童福祉施設における人材育成と支援者支援を考える 10:45 ～ 12:15	**公募シンポジウム S2-65** 児童相談所に求められる「正しさ」を考えてみる ―法律、社会、児童相談所、支援者個人の視点から― 10:45 ～ 12:15	**ポスター発表** 10:45 ～ 11:30	
昼食会場						
公募シンポジウム S2-58 デートDV予防教育の意義と課題 ―児童虐待防止との接続― 13:15 ～ 14:45	**教育講演９** 子ども虐待対応において父親・男性をどうするか －「男親塾」の実践から考えるコントロール行動への介入後支援 13:15 ～ 14:45	**一般演題 (O19)** 一時保護施設の運営と職員支援 13:15 ～ 14:45	**公募シンポジウム S2-62** 児童福祉の未来を担う次世代人材の確保とは～学生の揺らぎと施設の制約を超えた入口支援を考えよう～ 13:15 ～ 14:45	**公募シンポジウム S2-66** 家庭におけるエデュケーショナル・マルトリートメントへの介入 ―学校現場における支援の可能性― 13:15 ～ 14:45	**ポスター発表** 13:15 ～ 14:00	
					ポスター撤去 14:00 ～ 16:00	
公募シンポジウム S2-59 子どもへの性的虐待を予防するプログラムを体験する～セカンドステップ チャイルドプロテクションユニットのレッスンについて～ 15:00 ～ 16:30	**委員会・WG企画10 国際活動委員会・当事者ユースWG** 子どもの虐待防止の研究と実践における、Lived experiencesをもつ方々との共同創造 15:00 ～ 16:30	**一般演題 (O20)** 親子関係再構築 15:00 ～ 16:30	**公募シンポジウム S2-63** 「生活とともにある職員を支える」～児童福祉における支援者支援 メンタライゼーションの視点から～ 15:00 ～ 16:30	**公募シンポジウム S2-67** 通告ためらいの構造 ―医療と子ども保護現場の萎縮効果とモラルインジャリー 15:00 ～ 16:30		

9:00 9:30 10:00 10:30 11:00 11:30 12:00 12:30 13:00 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30 16:00 16:30 17:00

基調講演資料
ナースーファミリー パートナーシップ（NFP）の概要

Ⅰ．プログラムの概要

■ 名称　Nurse-Family Partnership（NFP）国際プログラム

■ 創始者　David Olds 博士

保育所での実践から、早期からの発達支援の必要性を実感した。NPO にて幼児発達スクリーニングプロジェクトを担当し、その過程でNFP(Nurse-Family Partnership)が誕生した。構想にあたっては、エインズワースやブロンフェンブレンナーの理論から多くの示唆を得た。

■ 対象　主に低所得の初産婦（貧困、若年、孤立など何らかの逆境的体験あり）
妊娠初期から子どもが 2 歳になるまで継続支援

■ 支援方法

- ✧ 訓練を受けた登録看護師による家庭訪問
  ＊親の子育て意欲を引き出すように関わる。また思いやりと敬意を示し、強みに光を当てる。
- ✧ 最大 64 回の訪問
- ✧ 標準的な訪問スケジュール
  ＊最初の 4 回は毎週、妊娠中は出産まで隔週、産後 6 回は毎週、その後は生後 21 ヶ月までは隔週、生後 24 ヶ月までは毎月（その時の状況によって調整）
  ＊最初の家庭訪問は妊娠 16 週までに行うのが望ましく、遅くとも 28 週までに行うべき
- ✧ 訪問時間：約 60 ～ 90 分

■ エビデンス

- ✧ 37 年以上にわたる無作為化比較試験（RCT）
- ✧ 母子死亡率減少を示した初の早期介入モデル

Ⅱ．3 つの主要目標

①妊娠結果の改善
喫煙・飲酒・薬物使用の減少　産科合併症の予防　低出生体重・早産の減少
②子どもの健康と発達の向上
適切で敏感な養育の促進　虐待・ネグレクトの予防　　神経発達・認知発達の支援
③家族の経済的自立の促進
次の妊娠計画支援　教育継続・就労支援　生活保護依存の軽減

Ⅲ．理論的基盤

■ NFP は以下の 3 理論に基づく。

①人間生態学理論（Bronfenbrenner）

子どもの発達は家庭・地域・社会環境に影響される

②自己効力感理論（Bandura）

「自分はできる」という感覚が行動変容を生む

③アタッチメント理論（Bowlby と Ainsworth）

安定したアタッチメント形成が後の発達に影響

Ⅳ．支援の基本姿勢

■ 強みに基づくアプローチと動機づけ面接（MI）

- ✧ 家族の希望を出発点にする
- ✧ 家族は人生の専門家であると尊重する
- ✧ 家族の選択肢の視野を広げる
- ✧ 小さく達成可能な目標設定
- ✧ 成功体験による自己効力感の向上

→家族自身が変化への内的動機を強化できることを目的に

★主体は母親・子ども・家族という姿勢が基本

■ Strengths and Risks（強みとリスク）を体系的に評価

→結果によって支援の量や質を調整する。

例：訪問頻度・内容を個別調整、行動変容段階に応じた支援等

Ⅴ．コアモデル要素（CME）

■ どこで実施しても効果測定できるように以下の要素がプログラムに取り入れられている。

- ✧ 初産婦対象
- ✧ 妊娠 28 週までに初回訪問
- ✧ 基本は自宅訪問（不可能な場合は別の場所もあり）
- ✧ 登録看護師担当制
- ✧ 治療関係の構築を重視
- ✧ 看護師もしくは助産師は少なくとも学士号を取得（実施者もＳＶも）
- ✧ 看護師・ＳＶはカリキュラムを修了し、継続的な学習活動に参加
- ✧ 3 つの理論的枠組みが基盤
- ✧ ＳＶがサポートする
- ✧ データ収集による管理：データ収集システムを活用

Ⅵ. 治療関係の重要性

■ 行動変容の基盤
■ 思いやり・明確さ・境界をもった関係
■ 看護師の臨床判断と理論を統合
■ リフレクティブ・スーパービジョンやロールモデリングにより質を維持

Ⅶ. 訪問看護職の専門性

■ なぜNFPでは看護職が訪問しているのか？
→健康に関する教育を受けており、リスクのある家族への支援力があるから。
妊娠・出産・分娩の合併症や子どもの健康に関する不安に適切に対応できる専門職である。
専門知識を持つ看護職への信頼、期待がある。
＊oldsらの研究（2002）で看護職＞準専門職　の効果が示される
■ 包括的看護職教育で以下の力の向上を図る
1) コミュニケーション、問題解決スキル
2) NFP プログラムモデルの深い理解
3) NFP プログラムを忠実に実施するスキル
4) 必要に応じてプログラムを適応させる能力
■ 看護職の教育
✧ 継続的学習活動
✧ データシステムによる進捗管理
✧ チーム会議・ケースカンファレンス
✧ **リフレクティブ・スーパービジョン**
→特に重視：実践を振り返り、家族のことを深く考える機会 & バーンアウトや共感疲労を予防する

Ⅷ. NFPの意義

■ 妊娠期という「magic window」を活用
■ 早期予防型・科学的根拠に基づく介入
■ 長期的に子ども虐待、反社会的行動、薬物乱用等を予防
■ 公衆衛生・社会福祉両面への波及効果

NFPは、
科学的根拠に基づき
妊娠初期から2歳まで継続支援し
看護師との治療的関係を軸に
強みに基づくアプローチと動機づけ面接を用い
家族の自己効力感を高めながら
母子の健康と家族の将来を長期的に改善する
国際的な予防的家庭訪問モデルである。



支援を必要とする母と子の人生の可能性を広げる
－看護職による家庭訪問を通して－

デイビッド・オールズ
(David Olds), PhD, DSc
コロラド大学 小児科学教授

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

1



オハイオ州コニオート
1952年

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

2



- ジョンズ・ホプキンス大学
- ホームウッド・キャンパス
- 先端国際研究大学院(SAIS)

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

3

- **ジョン・ボウルビィ**
- **メアリー・エインズワース**
- **アタッチメント(愛着)理論**





Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

4



•ボルチモア - 1970年

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

5

社会的に厳しい地域

健康な食べ物を手に入れにくい

失業

安心して暮らせる住居がない

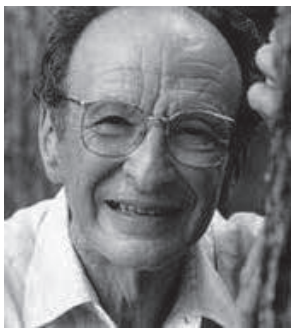
安全に遊べる場所がない

犯罪



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

6



コーネル大学

ユリー・
ブロンフェンブレンナー

人間生態学理論
（ヒューマンエコロジー理論）

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

7

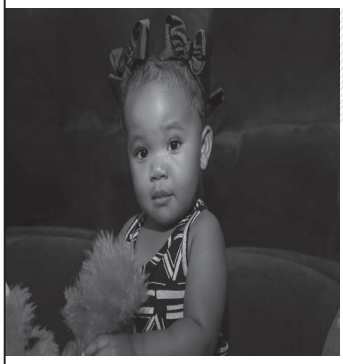
ナース・ファミリー・パートナーシップ(NFP)

- 妊娠期から幼児期にかけての看護職による家庭訪問
- 初産で低所得の母親が対象
- 目標・目的・方法が明確
- 「わが子を守ろうとする親の本能」を引き出し、支える
- 思いやり(ケアリング)
- 敬意(リスペクト)
- ストレングス(強み)に基づく支援



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

8



ナース・ファミリー・パートナーシップ(NFP)の3つの目標

1. 妊娠・出産をより安全で健康なものに
2. 子どもの健康と発達の促進
3. 親の健康と経済的自立を支える

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

9

プログラムの理論的基盤

- アタッチメント (愛着)理論
- 人間生態学理論
（ヒューマンエコロジー理論）
- 自己効力感理論
- 発達疫学



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

10

プログラムが強化するもの

- 神経生物学的システムの活性化
  - –生きるための基盤
    - 食料・水・住まい
    - 社会的絆
    - アタッチメント(愛着)
  - –子どもを守り育てようとする力



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

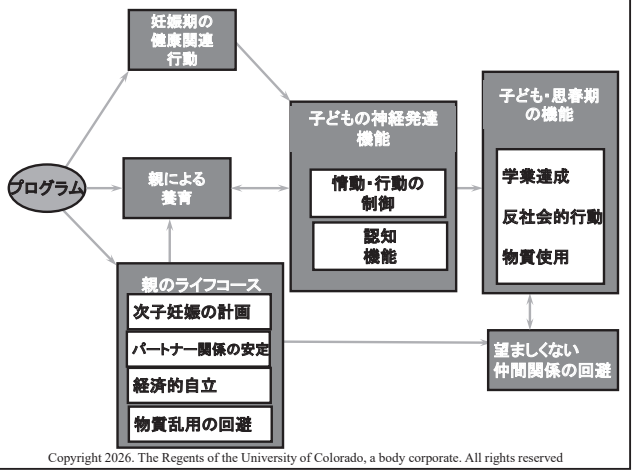
11

看護職の活動

- 目標を明確にし達成に向けて動く
- 父親やその他の家族の参画
- 他の支援者との協働によるケア
- 動機づけ面接
- 自己効力感理論をもとにした行動
- プログラムガイドライン全3巻
- 数百に及ぶプログラム実施の手引き
- マニュアル通りにすすめない
- 家族のニーズ・関心・希望に合わせて柔軟に調整
- 専門職としての判断
- 参加者との関係構築が不可欠
- プロトコルと家族のニーズのバランス

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

12



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

13

NFPを支える3つの基本原則

- 卓越した臨床実践
- 科学的厳密性
- 説明責任(アカウンタビリティ)

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

14

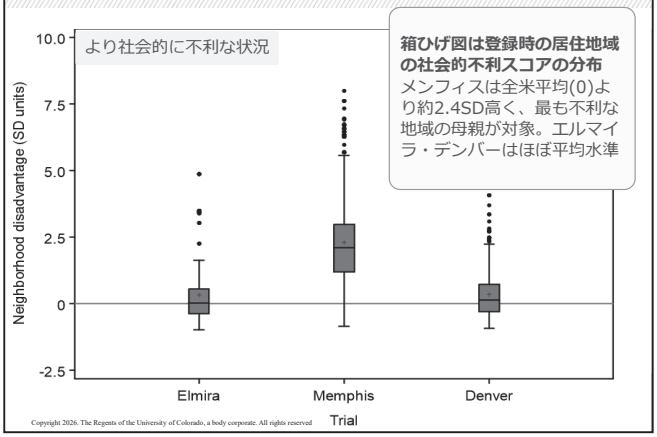
米国において効果検証した3つの主要な研究(RCT)

エルマイラ(1977) ニューヨーク州	メンフィス(1987) テネシー州	デンバー(1994) コロラド州
		
N = 400	N= 1,138 and N=742	N = 735
• 低所得の白人層 • 半農村部	• 低所得の黒人層 • 都市部	• ラテン系家族が多数 • 看護職と準専門職訪問者を比較

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

15

3つの地域における社会的不利の度合い（参加登録時）



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

16

エルマイラ研究

地域諮問委員会を設置

妊婦400名

- 生児出産歴なし
- 妊娠25週未満で登録
- 貧困・未婚・若年(18歳未満)で研究に登録
- 母親の89%が白人
- 15%は社会経済的地位が高い・既婚・非若年
- 48%が登録時に1日5本以上喫煙



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

17

妊娠期のインフォーマルサポートとサービス - エルマイラ

以下が増加:

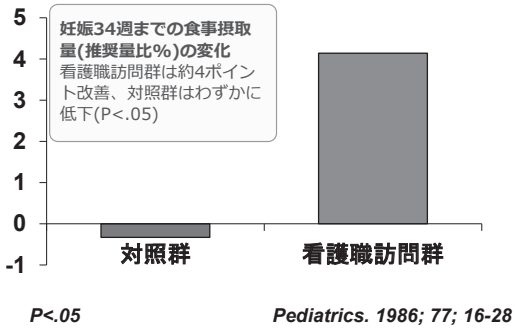
- 出産準備教育への参加
- WIC(女性・乳幼児栄養補助)クーポンの利用
- 父親の妊娠への関心
- 分娩への付き添い
- 家族・友人からのサポート

P<.05 *Pediatrics. 1986; 77; 16-28*

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

18

食事摂取量の変化 - 登録時から妊娠34週まで (1日推奨摂取量比%) - エルマイラ



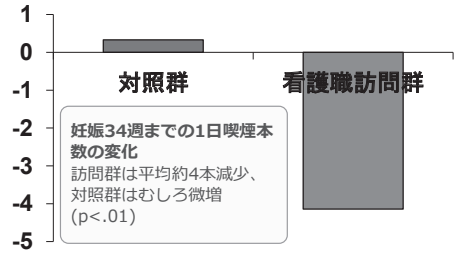
P<.05

Pediatrics. 1986; 77; 16-28

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

19

喫煙本数の変化 - 登録時から妊娠34週 - エルマイラ



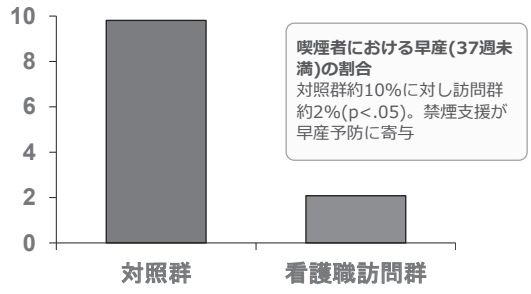
P<.01

Pediatrics. 1986; 77; 16-28

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

20

喫煙者における早産(37週未満)の割合 - エルマイラ



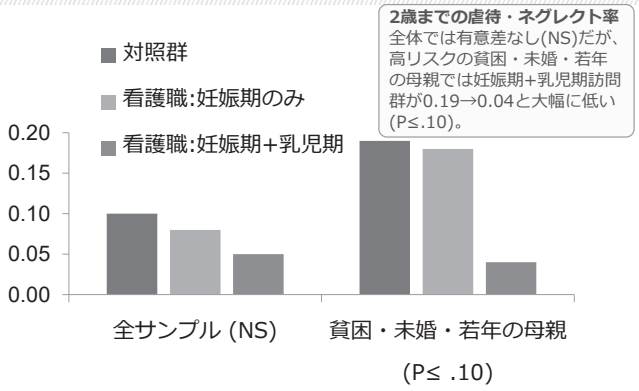
P<.05

Pediatrics. 1986; 77; 16-28

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

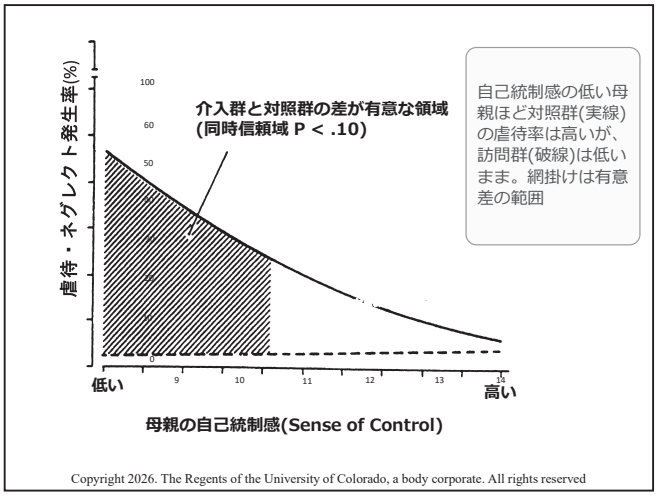
21

子どもが2歳になるまでの虐待・ネグレクト発生率 –エルマイラ



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

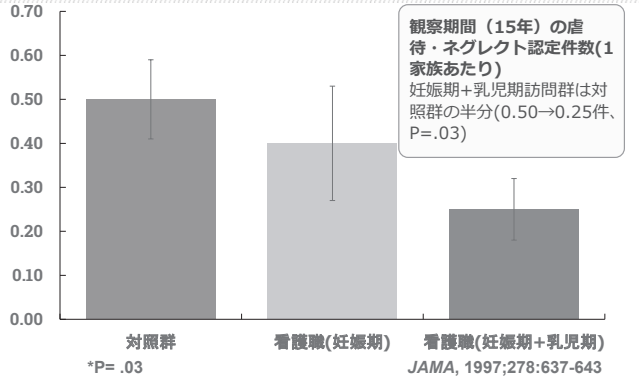
22



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

23

子ども虐待・ネグレクトの認定件数 0～15年 - エルマイラ



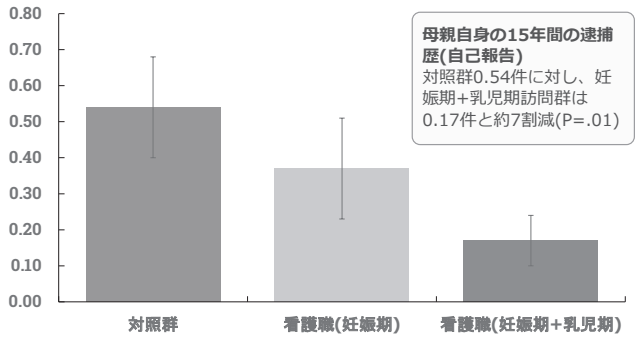
*P= .03

JAMA, 1997;278:637-643

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

24

貧困・未婚の母親の逮捕歴(自己報告) - 0～15年 - エルマイラ

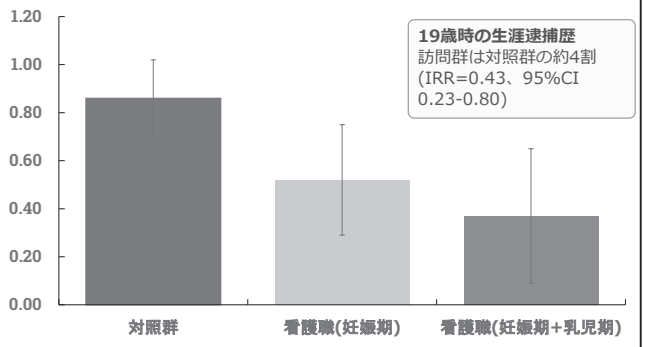


*P= .01

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

25

生涯逮捕歴(自己報告) - エルマイラの若者・19歳時



IRR = 0.43 95%CI = (0.23 – 0.80) *Arch Pediatr Adolesc Med. 2010; 164 (1): 9-15*

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

26

メンフィス研究の対象者

◆未婚・教育年数12年未満・無職のうち2つのリスクを持つ者を募集

- 生児出産歴なし
- 母親の89%が黒人
- 85%が全米貧困基準未満
- 居住地域の社会的不利スコアが全米平均より2.4SD高い

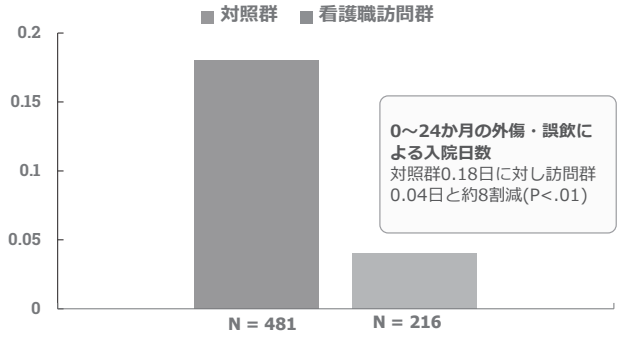
◆妊婦1,138名 - 妊娠・出産まで追跡

◆うち742名を出生後も追跡



27

外傷・誤飲による入院日数(生後0～24か月) - メンフィス

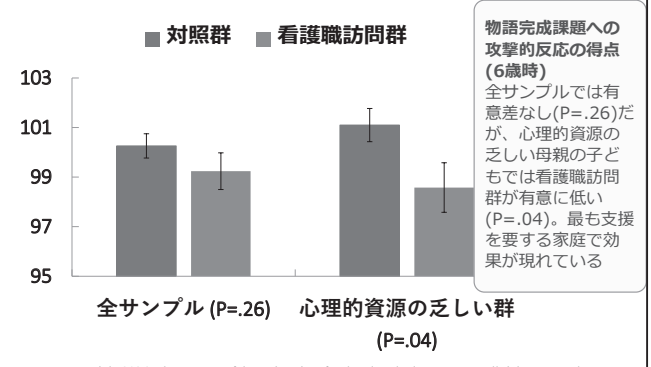


P<.01 *JAMA* 1997; 278: 644-652.

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

28

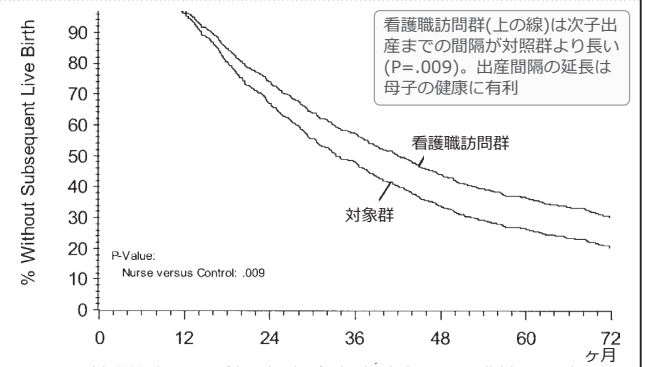
物語完成課題における攻撃性のコントロールが難しい反応　対象：6歳の児童（メンフィス）



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

29

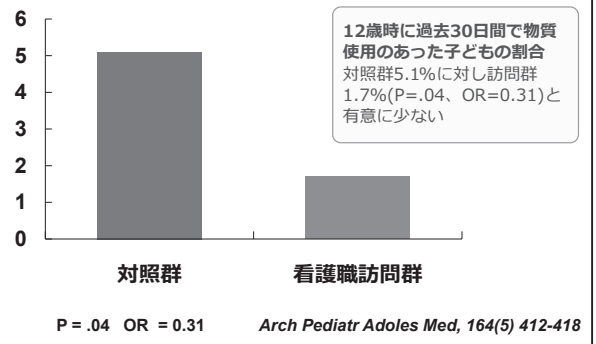
第1子出生から次子出生までの月数 - メンフィス



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

30

タバコ・アルコール・マリファナを使用した子どもの割合(過去30日間) 12歳時 - メンフィス



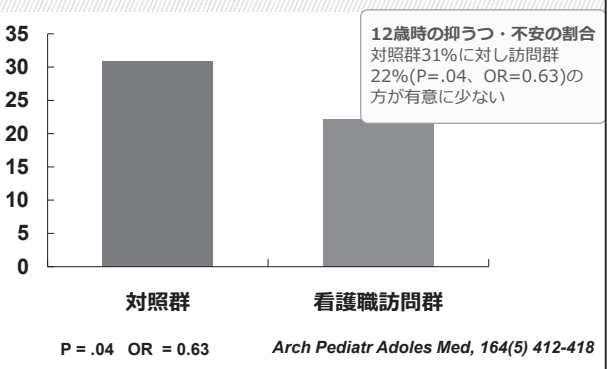
12歳時に過去30日間で物質使用のあった子どもの割合
対照群5.1%に対し訪問群1.7%(P=.04、OR=0.31)と有意に少ない

P = .04 OR = 0.31 *Arch Pediatr Adoles Med, 164(5) 412-418*

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

31

抑うつ/不安のある子どもの割合 - 12歳時 - メンフィス



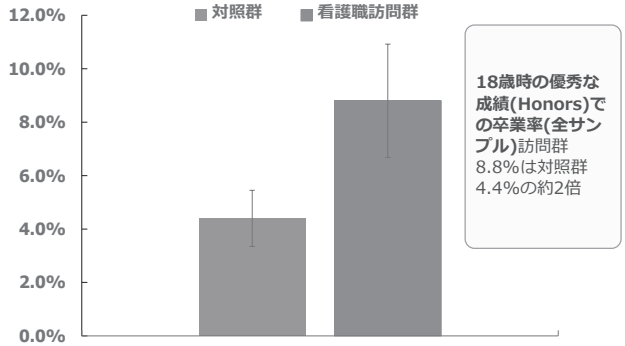
12歳時の抑うつ・不安の割合
対照群31%に対し訪問群22%(P=.04、OR=0.63)の方が有意に少ない

P = .04 OR = 0.63 *Arch Pediatr Adoles Med, 164(5) 412-418*

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

32

優秀な成績(Honors)での高校卒業 - 18歳時 - メンフィス

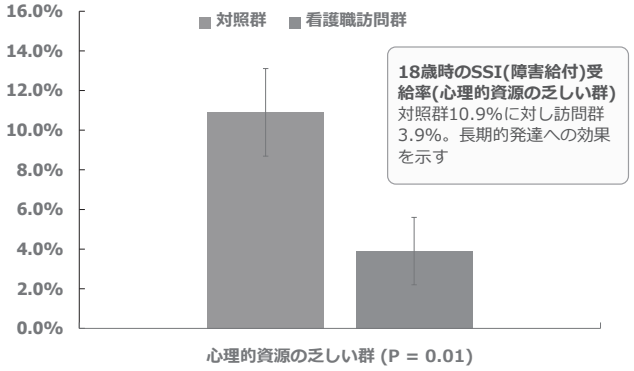


18歳時の優秀な成績(Honors)での卒業率(全サンプル)訪問群8.8%は対照群4.4%の約2倍

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

33

子どものSSI(障害給付)受給率の減少 - 18歳時 - メンフィス

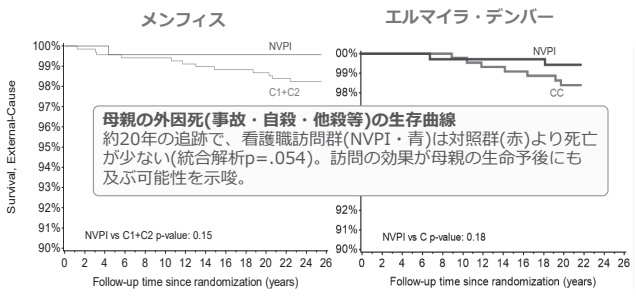


18歳時のSSI(障害給付)受給率(心理的資源の乏しい群)
対照群10.9%に対し訪問群3.9%。長期的発達への効果を示す

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

34

母親の生存曲線 - 外因死 メンフィス・エルマイラ・デンバー



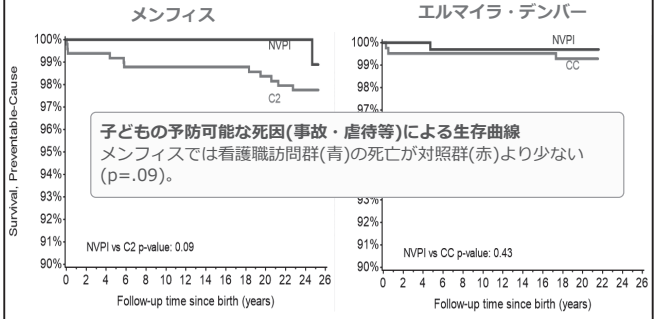
母親の外因死(事故・自殺・他殺等)の生存曲線
約20年の追跡で、看護職訪問群(NVPI・青)は対照群(赤)より死亡が少ない(統合解析p=.054)。訪問の効果が母親の生命予後にも及ぶ可能性を示唆。

C1+C2:対照群 NVPI:子どもが2歳になるまで看護職訪問を受けた群
統合解析 *post hoc* p = .054

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

35

子どもの生存曲線 - 予防可能な死因による死亡 メンフィス・エルマイラ・デンバー



子どもの予防可能な死因(事故・虐待等)による生存曲線
メンフィスでは看護職訪問群(青)の死亡が対照群(赤)より少ない(p=.09)。

C2・CC:対照群 NVPI:子どもが2歳になるまで看護職訪問を受けた群

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

36



科学的知見を実践へ

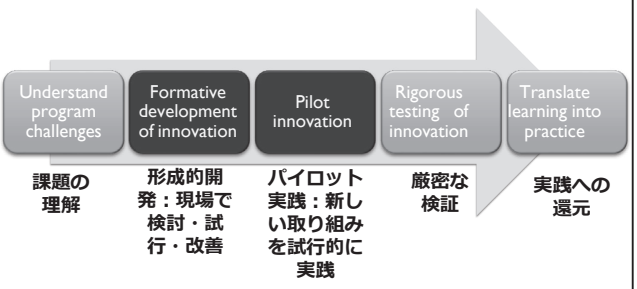
- 組織・地域の実践能力を支援
- 温かく人を支える看護職の採用
- 教育とコンサルテーション
- プログラムのガイドライン
- 情報システム
- プログラム実践状況の評価
- 継続的改善

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

37

NFPモデルを発展させるためのイノベーションモデル

NFP MODEL FOR INNOVATION DEVELOPMENT



Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

38

If you want to go fast go alone.

If you want to go far go together.

African Proverb

早く行きたければ、一人でいけばいい

遠くまで行きたければ、みんなで行こう

アフリカのことわざ

Copyright 2026. The Regents of the University of Colorado, a body corporate. All rights reserved

University of Colorado
Anschutz Medical Campus
Prevention Research Center for Family and Child Health

39

プ ロ グ ラ ム

日本子ども虐待防止学会第32回学術集会おおさか大会

会場：グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）

OD：オンデマンド配信予定

開会式

◆11月14日（土）9：00～9：30　第1会場（5F大ホール）

1．開会

2．大会長あいさつ　　山縣　文治（大阪総合保育大学　特任教授）

3．理事長あいさつ　　岩佐　嘉彦（一般社団法人 日本子ども虐待防止学会 理事長）

4．来賓あいさつ

5．閉会

基調講演（ビデオレクチャー）　OD

◆11月14日（土）9：30～10：40　第1会場（5F大ホール）

「支援を必要とする親子の生活の質を高める科学的プログラムによる支援」

ー虐待予防のためのエビデンスに基づく家庭訪問

演　　者：Dr. David Olds（University of Colorado Anschutz）

（再上映とディスカッション）

11月15日（日）10：45～12：15　13：15～14：45 第11会場（8F　806）

基調講演（ビデオレクチャー）「支援を必要とする親子の生活の質を高める科学的プログラムによる支援」デイビッド・オールズ（再上映）／オールズ先生訪問班との意見交換

１日目午前中に放映したオールズ先生のビデオレクチャーを見逃したかた、もう一度みたいかたに向けて、基調講演ビデオ（約６０分）を再上映します。また、後半３０分は、オールズ先生を訪問したメンバーが参加し、会場の皆様と意見交換を行い、オールズ先生の取り組みについてディスカッションを行います。

基調講演（シンポジウム） OD

◆11月14日（土）10：45 ～ 11：30　第1会場（5F大ホール）

「オールズ先生の家庭訪問プログラムから何を学び、何をいかすか」

演　　者：有本　梓　（横浜市立大学）
井上　景　（公立大学法人長野大学）
岩佐　嘉彦　（いぶき法律事務所）
岩佐　和代　（大阪市中央こども相談センター）
上野　昌江　（大阪公立大学）
小橋　孝介　（鴨川市立国保病院）
小林　美智子　（子どもの虹情報研修センター）
佐藤　睦子　（武蔵野大学）
南山　今日子　（子どもの虹情報研修センター）

教育講演1

◆11月15日（日）13：15 ～ 14：45　第2会場（5F小ホール）

少年非行の背景にある虐待を考える―警察・福祉・教育機関の協働アプローチ

座　　長：新籾　晃子　（枚方市まるっとこどもセンター）
演　　者：安永　智美　（スクールカウンセラー、元福岡県警察少年サポートセンター）

教育講演2 OD

◆11月15日（日）10：45 ～ 12：15　第1会場（5F大ホール）

市販薬オーバードーズの現状と課題～その後どうなったのか？

座　　長：岩田　和彦　（大阪精神医療センター院長）
演　　者：松本　俊彦　（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部部長）

教育講演3

◆11月14日（土）14：15 ～ 15：45　第2会場（5F小ホール）

「ケア」を謳わないケア―生活が「治療的」になるために

座　　長：小杉　恵　（大阪母子医療センター子どものこころの診療科、
認定NPO法人チャイルド・リソース・センター理事）
演　　者：内海　新祐　（旭児童ホーム）

教育講演４

◆11月15日（日）10：45 ～ 12：15　第23会場（12F 特別会議場）

法医学で「わかること、わからないこと」～法医学者ってこういう風に考えてます～

座　　長：起塚　庸　（高槻病院 小児科）

演　　者：小谷　泰一　（三重大学大学院医学系研究科 法医法科学分野 教授）

教育講演５

OD

◆11月14日（土）14：15 ～ 15：45　第１会場（5F 大ホール）

虐待を受けた子どもの心理療法：トラウマ，アタッチメント，ケア・コントロール葛藤，自己形成

座　　長：平山　哲　（大阪母子医療センター子どものこころの診療科）

演　　者：西澤　哲　（山梨県立大学大学院人間福祉学研究科特任教授）

教育講演６

◆11月14日（土）16：00 ～ 17：30　第２会場（5F 小ホール）

価値がないとされることの痛みについて～虐待死事件を通して考える～

座　　長：大場　エミ　（ゆりかご訪問看護ステーション管理者）

演　　者：杉山　春　（ルポライター・一般社団法人てとてと代表理事）

教育講演７

◆11月14日（土）16：00 ～ 17：30　第１会場（5F 大ホール）

孤立する妊婦をどう支えるか：内密出産に至る女性たちの声から得た学び

座　　長：柏女　霊峰　（淑徳大学名誉教授）

演　　者：蓮田　健　（慈恵病院理事長・院長）

教育講演８

OD

◆11月15日（日）9：00 ～ 10：30　第23会場（12F 特別会議場）

子ども虐待とDVの交差に介入する
～若者のインタビュー調査から子どもの経験と求められる支援について考える

座　　長：中村　正　（立命館大学特任教授・一般社団法人UNLEARN代表理事）

演　　者：増井　香名子　（武庫川女子大学教育総合研究所・大学院臨床教育学研究科）

教育講演９ OD

◆11月15日（日）13：15 ～ 14：45　第23会場（12F 特別会議場）

子ども虐待対応において父親・男性をどうするか－「男親塾」の実践から考えるコントロール行動への介入後支援

座　　長：岩佐　和代　（大阪市中央こども相談センター）
演　　者：中村　正　（立命館大学特任教授・一般社団法人 UNLEARN 代表理事）

大会企画シンポジウム１ OD

◆11月14日（土）12：30 ～ 14：00　第１会場（5F 大ホール）

子どもの「声をきく」ために求められるもの～学校現場から子どもの権利を解きほぐす

座　　長：新藤　こずえ（上智大学）
演　　者：長瀬　正子（佛教大学）
金澤　ますみ（桃山学院大学）
川畑　由美子（京都府立清明高等学校）
指定討論者：新藤　こずえ（上智大学）

大会企画シンポジウム２ OD

◆11月15日（日）13：15 ～ 14：45　第15会場（10F 1003）

学校だけで守れない子どもたちへ～不登校・暴力・非行に向き合う学校と福祉の実践的連携

座　　長：峯本　耕治　（大阪弁護士会）
演　　者：金田　佳子　（大阪府中央子ども家庭センター 育成支援第二課 総括主査）
木田　哲生　（堺市立鳳中学校）
白石　毅　（枚方市まるっとこどもセンター）
福井　弥生　（大阪府教育庁小中学校課・高等学校課、富田林市教育委員会）

大会企画シンポジウム３

◆11月15日（日）13：15 ～ 14：45　第１会場（5F 大ホール）

OD という SOS を見逃さない～多職種連携で考える

座　　長：花房　昌美　（大阪精神医療センター）
演　　者：志村　紀彰　（藤沢市民病院小児救急科）
トール　真樹（大阪市立中学校教諭）
田吹　和美　（大阪府立布施高等学校）
野津　岳史　（認定NPO法人Ｄ×Ｐ 新規事業部マネジャー　ユースセンター長）
指定討論者：松本　俊彦　（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部部長）

大会企画シンポジウム４ OD

◆11月14日（土）16：00 ～ 17：30　第15会場（10F 1003）

精神疾患のある親と暮らす子どもは何を体験しているのか
―子ども視点から支援を問い直す、連携と親支援

座　　長：薬師寺　順子（枚方市まるっとこどもセンター）
宮口　智恵（認定NPO法人チャイルド・リソースセンター）
シンポジスト：蔭山　正子（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）
岡部　英子（地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪精神医療センター）
北野　陽子（NPO法人ぷるすあるは）
指定討論者：松岡　美智子（久留米大学医学部神経精神医学講座）

大会企画シンポジウム５

◆11月15日（日）10：45 ～ 12：15　第15会場（10F 1003）

「西成から届けるこどもを支えるネットワーク」

座　　長：小杉　恵（大阪母子医療センター子どものこころの診療科、
認定NPO法人チャイルド・リソース・センター理事）
森山　ジェニー（大阪弁護士会）
演　　者：西野　伸一（わが町にしなり子育てネット
社会福祉法人石井記念愛染園　幼保連携型認定こども園 愛染橋保育園）
伊藤　悠子（わが町にしなり子育てネット）
中山　隆史（大阪市立長橋小学校）
指定討論者：村上　靖彦（大阪大学人間科学研究科人間科学専攻教授）

大会企画シンポジウム６ OD

◆11月15日（日）10：45 ～ 12：15　第2会場（5F 小ホール）

こどもの気持ちに寄り添う仕組みとその実践～社会的養護におけるアドボカシー～

座　　長：谷口　由希子（名古屋市立大学）
演　　者：奥村　仁美（子どもアドボカシーセンター OSAKA）
室井　祐美（児童養護施設　東光学園）
安田　晴菜（児童養護施設　クジラハウス）
指定討論者：昇　慶一（大阪常磐会大学）

大会企画シンポジウム7

◆11月14日（土）12：30 ～ 14：00　第2会場（5F 小ホール）

母子保健からみた児童虐待の始まりと終わり
－妊娠期からの切れ目ない支援を再認識してみる－

座　　長：光田　信明　（大阪母子医療センター）
山縣　文治　（大阪総合保育大学）
演　　者：光田　信明　（大阪母子医療センター）
和田　聡子　（大阪母子医療センター）
渡辺　好恵　（山梨立正光生園）
芦田　拓司　（西日本こども研修センターあかし）
指定討論者：中島　かおり（ピッコラーレ）

委員会・WG企画シンポジウム1［当事者ユースWG］

■ワークショップ（クローズドセッション）

◆11月14日（土）13：30 ～ 16：30　第5会場（7F 701-2）

みんなの声　聴かせてワーク（クローズドセッション）

■シンポジウム

◆11月15日（日）9：00 ～ 10：30　第5会場（7F 701-2）

こども・若者の語りが育むつながり～ともに語る場から生まれるもの

企　　画　　者：相澤　仁　（山梨県立大学・大分大学）
コーディネーター：片山　寛信　（北海道医療大学）
演　　者：川瀬　信一　（一般社団法人子どもの声からはじめよう）
中村　みどり（Children's Views & Voices）
社会的養護経験者、社会的養護自立支援拠点事業者、行政関係者

委員会・WG企画シンポジウム2［制度検討委員会　定義問題チーム］

◆11月15日（日）13：15 ～ 14：45　第5会場（7F 701-2）

児童虐待の新たな定義の提案 ― 定義問題検討チーム最終報告をふまえて ―

座　　長：川﨑　二三彦（子どもの虹情報研修センター）
鷲山　拓男（とよたまこころの診療所）
演者・指定討論者：鷲山　拓男（とよたまこころの診療所）
山田　不二子（認定NPO法人チャイルドファーストジャパン）
米山　明（全国療育相談センター）
渡邉　直（杉並区児童相談所）
渡辺　好恵（山梨立正光生園 サートス・テラ）
和田　忠志（ひだまりホームクリニック）
曽根　直樹（日本社会事業大学）

委員会・WG企画シンポジウム3［専門性の基盤づくりWG］

◆11月14日（土）12：30 ～ 14：00　第15会場（10F 1003）

地域の子ども家庭相談支援における専門性の共通基盤を考える

座　　長：増沢　高（子どもの虹情報研修センター）
演　　者：伊藤　徳馬（茅ヶ崎市こども育成部　こどもセンター）
野尻　紀恵（日本福祉大学社会福祉学部）
草薙　めぐみ（認定NPO法人子育てネットくすくす）
坂　清隆（横浜市こども青少年局総務課）
指定討論者：福井　充（こども家庭庁支援局虐待防止対策課）
八木　安理子（同志社大学心理学部）

委員会・WG企画シンポジウム4［倫理COI委員会］

◆11月15日（日）10：45 ～ 12：15　第16会場（10F 1004）

当事者参加型研究発表と倫理について

座　　長：田中　究（兵庫県立ひょうごこころの医療センター）
御牧　信義（倉敷成人病センター）
演　　者：田中　究（兵庫県立ひょうごこころの医療センター）
永野　咲（武蔵野大学）
畑山　麗衣（NPO法人Giving Tre）

委員会・WG企画シンポジウム5［子どもの権利を守る委員会］

◆11月15日（日）10：45 ～ 12：15　第4会場（3F　イベントホールE）

意見を聴かれる子どもの権利（意見表明権）と最善の利益

座　　長：浦　弘文　（尼崎市児童相談所）
掛川　亜季　（りんどう法律事務所）

演　　者：浦　弘文　（尼崎市児童相談所）
木曽　久美子（広島県東部こども家庭センター）
石塚　かおる（児童養護施設つばさ園）
田中　恭子　（順天堂大学）

委員会・WG企画シンポジウム6［性虐待WG-1］

◆11月14日（土）16：00 ～ 17：30　第23会場（12F特別会議場）

性虐待ワーキング：各グループからの提言案

座　　長：田﨑　みどり（子どものこころとからだのクリニックＣＡＣかながわ）
海野　千畝子（兵庫教育大学）

演　　者：

司法サブグループ	シンポジスト	山田　不二子	（チャイルドファーストジャパン）
親以外の性虐待サブグループ	シンポジスト1	髙岡昂太	（株式会社　AiCAN）
親以外の性虐待サブグループ	シンポジスト2	高岸幸弘	（熊本大学大学院人文社会科学研究部）
予防・啓発・教育グループ	シンポジスト1	伊藤　加奈子	（ココカラウィメンズクリニック）
予防・啓発・教育グループ	シンポジスト2	森　重智	（三河病院児童精神科）

委員会・WG企画シンポジウム7［性虐待WG-2］

◆11月15日（日）9：00 ～ 10：30　第1会場（5F大ホール）

わが国の性問題行動、性加害児へのケアの現状～各施設の取り組み～

座　　長：亀岡　智美　（兵庫県こころのケアセンター）
花房　昌美　（大阪府精神医療センター）

シンポジスト1：児童相談所における性加害児童およびその家族への支援について
河邊　敦史　（大阪府中央子ども家庭センター）

シンポジスト2：性問題行動のある10代後半の青少年へのグループによる治療教育
浅野　恭子　（もふもふネット）

シンポジスト3：性的問題行動へのケア～ SPIRiT Sexual Offender Preventive Intervention and Re-integrative Treatment Schemeを用いた試み～
安藤　久美子（東京科学大学保健管理センター）

シンポジスト4：東日本少年矯正医療・教育センターにおける退院支援と社会復帰に向けた取り組み
岡田　幸美　（東日本少年矯正医療・教育センター）

委員会・WG企画シンポジウム8［虐待予防WG］

◆11月15日（日）9：00 ～ 10：30　第15会場（10F 1003）

「トツキトオカ」を紡ぐ知恵～妊娠期からの伴走力～

座　　長：中板　育美　（武蔵野大学、JaSPICAN虐待予防ワーキング）
柴山　陽子　（JaSPICAN虐待予防ワーキング）
発　表　者：新家　静　（JaSPICAN虐待予防ワーキング）
紙谷　聡子　（埼玉県さいたま市岩槻区役所）
石橋　裕美　（福岡県大木町役場）
新村　順子　（東京都医学総合研究所）

委員会・WG企画シンポジウム９［CDR-WG］

◆11月15日（日）15：00 ～ 16：30　第15会場（10F 1003）

チャイルドデスレビューの挑戦～自殺ケースを題材に～

座　　長：木下　あゆみ（国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター小児科）
川﨑　二三彦（子どもの虹情報研修センター）

演　　者：梅本　正和（うめもとこどもクリニック）
沼口　敦（名古屋大学医学部附属病院　救急・内科系集中治療部）
藤田　香織（藤田・戸田法律事務所）

パネラー：家入　香代（国際医療福祉大学保健医療学部）
井上　景（長野大学社会福祉学部）
内田　佳子（国立成育医療研究センター救急診療部）
小河　泰宏（東京都町田児童相談所）
小谷　泰一（三重大学大学院 法医法科学）
根ケ山　裕子（名古屋市西部児童相談所）
星野　崇啓（さいたま子どものこころクリニック）

委員会・WG企画シンポジウム10
［国際活動委員会・当事者ユースWG共同企画シンポジウム］

◆11月15日（日）15：00 ～ 16：30　第23会場（12F 特別会議場）

「子どもの虐待防止の研究と実践における、Lived experiencesをもつ方々との共同創造」

座　　長：野口　啓示（福山市立大学　教育学部 児童教育学科）
石倉　亜矢子（函館中央病院　小児科）

企画主旨説明者：山口　有紗（国立成育医療研究センター子どもの虐待防止センター）

基調講演者：エリザベス（リズ）・ミラー医学博士・人類学修士
（国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター 副センター長・企画調整役、
ピッツバーグ大学 小児科学・公衆衛生学 名誉教授）

発　表　者：永野　咲（武蔵野大学 人間科学部　社会福祉学科　准教授／
NPO法人 インターナショナル・フォスターケア・アライアンス　理事長）
中村　みどり（Children's Views & Voices　副代表）

委員会・WG企画シンポジウム11［障がい児虐待予防WG］

◆11月14日（土）14：15 ～ 15：45　第15会場（10F 1003）

地域における虐待予防としての障害児支援の役割
―インクルージョン推進と子どもと家族中心（Family-Centered）の支援―

座　　長：米山　明　（（社福）全国心身障害児福祉財団　全国療育相談センター）
北川　聡子　（社会福祉法人麦の子会）
演　　者：北川　聡子　（社会福祉法人麦の子会）
有村　大士　（日本社会事業大学）
嶋﨑　正敏　（社会的養育総合支援センター 一陽）
中板　育美　（武蔵野大学看護学部）

委員会・WG企画シンポジウム12［家族法改正対応WG］

◆11月15日（日）9：00 ～ 10：30　第2会場（5F 小ホール）

離婚後共同親権制度における子どもの最善の利益を考える
～令和6年家族法改正の子ども福祉分野への影響～

座　　長：安保　千秋　（都大路法律事務所）
演　　者：池田　清貴　（御苑パートナー法律事務所）
浅田　浩司　（葛飾区児童相談所）
小倉　祐子　（桑名市子ども総合センター）
上野　千穂　（京都市児童福祉センター診療所）

公募シンポジウム

◆11月14日（土）　12：30 ～ 14：00　第3会場（3F　イベントホールCD）

S1-01　忙しい児童相談所におけるトラウマインフォームドケアの普及
～若手グループ研究の果たした役割～

木下　直俊　（兵庫県中央こども家庭センター）
馬込　訓子　（兵庫県中央こども家庭センター）

◆11月14日（土）　14：15 ～ 15：45　第3会場（3F　イベントホールCD）

S1-02　児童養護施設の人財育成を支える心理的安全性の継続的実践

人見　禎昭　（社会福祉法人善照学園）

◆11月14日（土）　16：00 ～ 17：30　第3会場（3F　イベントホールCD）

S1-03　児童相談所の再デザイン：
「統制する組織」から「学習する組織」への転換を目指したチャレンジ

鈴木　玲　（和歌山県中央児童相談所）

◆11月14日（土）　12：30 ～ 14：00　第4会場（3F　イベントホールE）

S1-04　傷ついてどうしょうもなかった子ども・若者が自分の人生を生きるためのケア、失った他者への信頼、自分への信頼を取り戻すために歩き出せる道のり
私たちも、ともに生きること

渡邊　洋次郎（特定非営利活動法人いちごの会）

◆11月14日（土）　14：15 ～ 15：45　第4会場（3F　イベントホールE）

S1-05　虐待を経験した子どもの自殺予防
―理論・実証・臨床実践の統合―

中垣　真通　（子どもの虹情報研修センター）

◆11月14日（土）　16：00 ～ 17：30　第4会場（3F　イベントホールE）

S1-06　性問題行動への治療教育実践による支援者の気づき
―ミャクミャクと続く生活支援の役割―

辻野　琢也　（大阪府立修徳学院）

◆11月14日（土）　12：30 ～ 14：00　第6会場（8F　801）

S1-07　妊産婦支援における「学び」と「実践」の構造化
―ボ・ドーム　ダイヤモンドルームにおける人材育成のしかけ―

廣瀬　みどり（ボ・ドーム　ダイヤモンドルーム）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第6会場（8F 801）

S1-08 親子が変わる！認知行動療法を家族、地域、育児支援に活かす
―心の声に応える支援者支援と実践の報告―

河崎 智子 （千葉大学子どものこころの発達教育研究センター）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第6会場（8F 801）

S1-09 「CPA（Communicative Parenting Approach®）を核にした親子関係の形成から再構築までの切れ目のない子育て支援体制構築に向けた実践報告」

杉江 健二 （一般社団法人青少年養育支援センター陽氣会）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第7会場（8F 802）

S1-10 セーフガーディングで虐待を生まない環境を構築する
～Jリーグと NGO における虐待防止の挑戦～

髙井 明子 （公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第7会場（8F 802）

S1-11 デジタルデータを活用した子どもが抱える課題の早期予測の可視化と社会実装への挑戦
：産学官連携による「学校版スクリーニング」の展開

山野 則子 （大阪公立大学 イノベーションアカデミー共創研究院）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第7会場（8F 802）

S1-12 子ども支援弁護士の諸様相と社会的意義

曽我 智史 （尼崎駅前法律事務所）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第8会場（8F 803）

S1-13 形骸化する要保護児童対策地域協議会の活性化
―明石こどもセンターの実践からー

秋末 珠実 （明石市こども局子育て支援室）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第8会場（8F 803）

S1-14 虐待防止につなげるアウトリーチ家庭訪問―
―支援対象児童見守り強化事業で見えてきた介入への5ステップ

土屋 匠宇三（一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第8会場（8F 803）

S1-15 こどもの最善に根ざす官民協働はいかに「成立」するのか
―行政と NPO の境界と接続から考える―

金 文子 （NPO法人関西こども文化協会）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第9会場（8F 804）

S1-16 CBT、これで合ってる？もやもやしている人のための体験的CBT入門

三宅 善子 （一般社団法人こころの研究所レタス / 児童家庭支援センターつるみらい）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第9会場（8F 804）

S1-17 「守り、支えたい」と願う良心が傷つくとき
－知られざる痛みの名「モラル・インジュリー」を共に考える－

小山 顕 （関西学院短期大学）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第9会場（8F 804）

S1-18 児童福祉司の専門性とソーシャルワ―ク
―価値ある専門職であるために―

阿部 弘美 （オフィス・チカプ）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第10会場（8F 805）

S1-19 子どもは守られるだけの存在か
－セルフアドボカシーと権利教育から問い直す虐待予防－

井上 翔一 （京都市立京都奏和高等学校）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第10会場（8F 805）

S1-20 「子どもをチームで支える」とは何か―「ひとりぼっちにしない」協働の実践―

玉野 まりこ（NPO法人子どもセンターぬっく）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第10会場（8F 805）

S1-21 心理臨床とソーシャルワークを繋ぐ心理士資格を有する児童福祉司
―明石こどもセンターの実践から－

稲垣 由子 （明石こどもセンター）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第12会場（10F 10-1+10-2）

S1-22 子どもの出自を知る権利について

安保 千秋 （都大路法律事務所）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第12会場（10F 10-1+10-2）

S1-23 里親・実子・支援者の「ぶっちゃけ話」からLSWを考える
―権利保障と家庭の安定、ともに歩む支援へ―

中野 紗樹 （海の子学園入舟寮）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第12会場（10F 10-1+10-2）

S1-24 里親に「なりたい」「続けたい」を支えるには：
里親養育促進に求められる支援を考える

水木 理恵 （医療創生大学）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第13会場（10F 1001）

S1-25 児童福祉施設における重大事案への緊急支援システムの構築に向けて

藤澤 陽子 （国立武蔵野学院）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第13会場（10F 1001）

S1-26 「ケアリーバーを孤立させないために」
～児童福祉・司法の視点から考える「強いられた自立」とつながりの再接続～

下笠 幸信 （児童養護施設 東光学園）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第13会場（10F 1001）

S1-27 社会的養護自立支援拠点事業の価値と課題
～省察的実践と、こどものケアニーズに寄り添った支援のあり方～

福本 啓介 （社会福祉法人白十字会林間学校あすなろサポートステーション所長）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第14会場（10F 1002）

S1-28 LSWを「こどものための時間」にするために
―支援者のまなざしと寄り添い―

城村 威男 （海の子学園入舟寮）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第14会場（10F 1002）

S1-29 もっと深めよう！子どもを主体としたライフストーリーワーク

才村 眞理 （大阪ライフストーリー研究会）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第14会場（10F 1002）

S1-30 社会的養護におけるルーツを紡ぐ支援の葛藤と専門性形成
―こどもと家族の人生史に伴走する支援者はいかに育つのか―

西村 岳人 （子どもの虹情報研修センター）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第16会場（10F 1004）

S1-31 「虐待予防につなげる母子生活支援施設と児童相談所の新たな協働」
～在宅指導措置による分離しない支援～

近藤 龍太郎（社会福祉法人八尾隣保館ルフレ八尾）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第16会場（10F 1004）

S1-32 こども家庭センターのアップデート！みんなで変えるよ！
～課題・方向性・実働についてズバっと話そう～

伊藤 徳馬 （神奈川県 茅ヶ崎市）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第16会場（10F 1004）

S1-33 保護者を支え、地域でつなぐ
―保育施設・地域子育て支援拠点での保護者支援とこども家庭センターとの連携―

中川 千恵美（大阪人間科学大学）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第17会場（10F 1005）

S1-34 児童養護施設における職員の子どもへの「適切な関わり」とは
・・被措置児童虐待防止の法的整備が進む中で・・

小木曽 宏 （性教育研究会）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第17会場（10F 1005）

S1-36 家裁送致のあと、子どもはどこに行くのか
― 社会的養護の子どもの非行と帰住先調整 ―

植田 昴星 （大阪弁護士会 / 京都大学大学院法学研究科法政理論専攻博士後期課程）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第18会場（10F 1006）

S1-37 虐待に至った父親・母親たちの回復
～ソマティック・アプローチの効果・MY TREE ペアレンツ・プログラム～

中川 和子 （一般社団法人 MY TREE）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第18会場（10F 1006）

S1-38 児童相談所・児童家庭支援センター・地域医療機関の協働による
親子再統合支援のプロセスと課題

今泉 明子 （社会福祉法人常徳会興正こども家庭支援センター）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第18会場（10F 1006）

S1-39 「分離された母親」へ必要な心のケアは届けられているのか!?
～三次予防を目的とした親支援グループの実践から

松下 清美 （子どもの虐待防止センター）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第19会場（10F 1007）

S1-40 養育者支援における対話の可能性
～「見ること」を共有するＣＲＣＤＯＲＥＭＩの実践から～

宮口 智恵 （認定NPO法人チャイルド・リソース・センター）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第19会場（10F 1007）

S1-41 実演！こども参加でつくる援助方針策定の会議
～和歌山県・広島県の児相が教える実施ポイント・心理的ケア・組織づくり

栄留 里美 （西南学院大学）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第19会場（10F 1007）

S1-42 挑戦をやめない！子どもと家族の声を聴き、届け続ける
-中野区児童相談所の組織連携と子どもの声を聴く実践-

駒場 優子 （中野区児童相談所）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第20会場（10F 1008）

S1-43 「支援」「ケア」の現場における二次被害
――二次被害実態調査が支援者に問いかけるもの――

真田 悠生 （大阪大学大学院法学研究科）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第20会場（10F 1008）

S1-44 研究と臨床の融合
―子どもの発達と脳科学研究の検討―

水島 栄 （北里大学大学院）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第20会場（10F 1008）

S1-45 児童虐待防止医療ネットワーク事業における連携
－多職種・多機関の間で現在に繋ぐ横糸と未来へ紡ぐ縦糸－

田代 弦 （静岡県立こども病院）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第21会場（10F 1009）

S1-46 里親・里子を対象としたトラウマ・アタッチメントに焦点を当てた心理療法

西澤 哲 （山梨県立大学大学院人間福祉学研究科）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第21会場（10F 1009）

S1-47 社会的養育において必要とされる社会的養護施設の専門性
～施設の役割と里親との協働や地域連携について～

中村 有生 （兵庫県立清水が丘学園）
武藤 素明 （二葉学園）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第21会場（10F 1009）

S1-48 実親とのつながりを念頭においた里親養育と施設養育の可能性
～分離保護とパーマネンシー保障について考える～

相澤 林太郎（日本福祉大学）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第22会場（11F 1101 ～ 1102）

S1-49 きょうだい間性虐待への対応を考える

毛利 真弓 （同志社大学）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第22会場（11F 1101 ～ 1102）

S1-50 子ども・若年者の性被害者支援における司法・福祉・地域支援の接続構造
―台湾及びNZの仕組みを参考に

山本 千晶 （フェリス女学院大学）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第22会場（11F 1101 ～ 1102）

S1-51 証人尋問に臨む子どもへの支援とケア
～法廷でも子どもを守りながら真実発見を目指すために～

根ケ山 裕子（名古屋市西部児童相談所）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第23会場（12F 特別会議場）

S1-52 日本版の司法面接の研究と実践
―「日本版司法面接ガイドライン」「司法面接構造」の活用―

飛田 桂 （認定NPO法人子ども支援センターつなっぐ、飛田桂法律事務所）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第23会場（12F 特別会議場）

S1-53 司法面接連続企画
―子どもの回復と刑事手続による正義実現の両立について―

木田 秋津 （小林・福井法律事務所）

◆11月14日（土） 12：30 ～ 14：00 第25会場（12F 1202）

S1-54 専門性を生かした一時保護所心理療法担当職員の業務について
―大阪市こども相談センター 一時保護所での取り組み―

木村 晴彦 （大阪市中央こども相談センター）

◆11月14日（土） 14：15 ～ 15：45 第25会場（12F 1202）

S1-55 児童相談所におけるメンタライジング
～支援者の支援する力をチームで支える～

足利 安武 （東京都福祉局家庭支援課）

◆11月14日（土） 16：00 ～ 17：30 第25会場（12F 1202）

S1-56 児童福祉司が心理療法を学習する意義と課題

小平 雅基 （総合母子保健センター愛育クリニック）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第3会場（3F イベントホールCD）

S2-01 一時保護施設におけるウェルビーイングを支える人材育成と組織マネジメントの統合的アプローチ

太田 研 （山梨県立大学）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第3会場（3F イベントホールCD）

S2-02 こども家庭センターと児童相談所が違いを越えてつながるために
～こども家庭センター・児童相談所職員の自主勉強会を通じて考える～

大河内 洋子（東京都町田児童相談所）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第3会場（3F イベントホールCD）

S2-03 Building Child-Centred Practice in Japan
- 英国視察研修後の私たちの実践 -

松林 邦夫 （中野区児童相談所）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第3会場（3F イベントホールCD）

S2-04 児童相談所・社会的養護施設における“異文化”理解の実装をボトムアップで考える
―スーパーバイザーは対話をどのように創造するのか？―

北谷 多樹子（一般社団法人アンコーラ）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第4会場（3F イベントホールE）

S2-05 こども家庭 SW は制度の切れ目にどう立ち向かうのか
制度のすきまを埋める CFSW の学びと工夫

山田 優作 （こども家庭ソーシャルワーカーの会／名古屋市中央児童相談所）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第4会場（3F イベントホールE）

S2-06 社会的養育におけるLGBTQ+という視点について考える
―その生きづらさと向き合うために

畠山 由佳子（関西学院大学）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第4会場（3F イベントホールE）

S2-07 子どもの権利に根差したデザインの協働実践
～トラウマインフォームドデザインの実践報告を通して～

小澤 いぶき（一般社団法人Everybeing）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第5会場（7F 701 ～ 702）

S2-08 児童養護施設における意見表明支援―関係性に注目した、あるべき姿の確立に向けて―

石田 賀奈子（立命館大学）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第5会場（7F 701 ～ 702）

S2-09 サインズ・オブ・セーフティ・アプローチにおいて支援者が行った実践を子ども・家族・ネットワーク等から評価してもらうフィードバックの仕組み

鈴木 浩之 （立正大学）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第6会場（8F 801）

S2-10 ペアレンティングプログラムの効果と可能性
－今の時代を生きる親御さんと繋がり・続ける支援とは－

山川 玲子 （川越市こども未来部療育支援課児童発達支援センター）
青木 幸子 （社会福祉法人子どもの虐待防止センター）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第6会場（8F 801）

S2-11 産前からの親準備教育による子ども虐待予防について

柴田 俊一 （常葉大学）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第6会場（8F 801）

S2-12 妊娠期からの虐待防止を目指した多胎家庭支援
―地域を基盤とした多職種連携による支援―

服部 律子 （神戸女子大学看護学部）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第6会場（8F 801）

S2-13 乳幼児期の虐待予防アセスメントと保育ソーシャルワークの役割
―気づき・判断・連携のプロセスを可視化するー

鶴田 智子 （比治山大学短期大学部）

◆11月15日（日）　9：00 ～ 10：30　第7会場（8F　802）

S2-14　子ども・若者が子ども虐待について学ぶ意味
―忘れられたもう一つの声

宮里　慶子　（千里金蘭大学）

◆11月15日（日）　10：45 ～ 12：15　第7会場（8F　802）

S2-15　子どもの権利を守る「いじめ」見逃しゼロから子ども虐待予防教育へ
～南市岡小学校版「『生きる』教育」で子どもの心を育て未来を変える～

木村　幹彦　（大阪市立南市岡小学校）

◆11月15日（日）　13：15 ～ 14：45　第7会場（8F　802）

S2-16　子どもに対する暴力をなくし子どもの権利を保障する子どもの権利教育
～子どもに対する暴力の予防を強化する

森　保道　（日弁連子どもの権利委員会　子どもすこやかサポートネット）

◆11月15日（日）　15：00 ～ 16：30　第7会場（8F　802）

S2-17　プレーパークと要対協のつかず離れずの関係性を支えるもの
―子どもと大人の真の安心安全（ピース）―

林　大造　（追手門学院大学）

◆11月15日（日）　10：45 ～ 12：15　第8会場（8F　803）

S2-18　官民のタッグによって生まれた早期の治療的支援
～地域支援のもう一つの方向性～

吉村　宣彦　（大村椿の森学園）

◆11月15日（日）　13：15 ～ 14：45　第8会場（8F　803）

S2-19　奈良市子どもセンター開設５年目の挑戦
～子どもと共に歩んだ軌跡を振り返る～

岡本　あい　（奈良市子どもセンター）

◆11月15日（日）　15：00 ～ 16：30　第8会場（8F　803）

S2-20　豊中市（基礎自治体）における児童相談所開設後１年の支援体制

太田　真実　（豊中市児童相談所）

◆11月15日（日）　9：00 ～ 10：30　第12会場（10F　10-1+10-2）

S2-21　つながった現場・超えた垣根
―児相への要望から形になった一時保護を支える里親知恵袋―

牧野　博子　（NPO法人里親子支援機関えがお）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第12会場（10F 10-1+10-2）

S2-22 養育困難家庭を支える施設と里親によるショートステイ
～福岡市の現状と今後の展開を考える～

松﨑 佳子 （SOS子どもの村JAPAN）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第12会場（10F 10-1+10-2）

S2-23 ファミリーホームにおける意見表明等支援の可能性と課題
―子どもの声を支える制度と養育者の葛藤―

畑山 麗衣 （NPO法人Giving Tree）
野口 啓示 （福山市立大学）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第12会場（10F 10-1+10-2）

S2-24 絵本を通して考える里親支援―絵本づくりとその活用の実践―

弦間 亮 （京都府家庭支援総合センター）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第13会場（10F 1001）

S2-25 児童養護施設における「自立支援」の新たな方向性
―実践と研究の架橋による再検討

三品 拓人 （筑波大学）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第13会場（10F 1001）

S2-26 児童養護施設におけるアタッチメントおよびトラウマの視点をもった支援の推進に向けて

浅野 恭子 （甲南女子大学）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第13会場（10F 1001）

S2-27 生活の中で育まれていく「つながる力」とは？
～社会的養護の現場から、今発信したいこと～

関根 祥子 （国立武蔵野学院）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第13会場（10F 1001）

S2-28 Watch Me Play!による関係性支援の実践
―社会的養護・子育て支援の現場からー

御園生 直美（白百合女子大学）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第14会場（10F 1002）

S2-29 青年期後期へ続くライフストーリーワーク

池畑 賢太郎（滋賀県社会福祉協議会つながり若者センター）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第14会場（10F 1002）

S2-30 ライフストーリーワーク（LSW）における乳児院の役割
―広域ネットワークが実践にもたらすもの―

木村 晃子 （札幌乳児院）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第14会場（10F 1002）

S2-31 「三方（児相・施設・地域）よし」は、「子どもよし」！
研究会活動をもとにLSWを通した多機関連携の試み

平野 政典 （滋賀県彦根子ども家庭相談センター、滋賀LSW研究会）
山本 智佳央（三重県南勢志摩児童相談所）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第14会場（10F 1002）

S2-32 ライフストーリーワーク（LSW）の地域展開
―宮城県での試み・地域間のつながり―

平田 修三 （仙台青葉学院短期大学）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第16会場（10F 1004）

S2-33 こどもの権利を守る要対協のあり方とは？

伊藤 嘉余子（大阪公立大学）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第16会場（10F 1004）

S2-34 こども家庭センター3年目の今、思うこと
―それぞれの立場からの具体―

木村 朱 （涌谷町子育て支援課 こども家庭センター）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第16会場（10F 1004）

S2-35 児童相談所と児童家庭支援センターの協働のための指導委託
―全国最多の実績を有する和歌山県からの発信―

佐藤 まゆみ（淑徳大学総合福祉学部）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第17会場（10F 1005）

S2-36 児童養護施設の小規模・地域分散化は，福祉経営と養育の質をどうポジティブに発展させることが出来るか．

山田 宗寛 （立命館大学）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第17会場（10F 1005）

S2-37 施設種別を超えた退所後支援の取り組み
～神戸市児童養護施設連盟自立支援実務者会の実践～

射場 和輝 （児童心理治療施設しらゆりホーム）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第17会場（10F 1005）

S2-38 「つながり」を考える～人、場所、歴史、心をつなぐ社会的養育の実践～

鈴木 絢 （児童家庭支援センター すみれ）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第17会場（10F 1005）

S2-39 社会的養護経験者の学びの保障と支援について考える
―大学等高等教育機関と社会的養護との連携―

谷向 みつえ（関西福祉科学大学）
荒木 敏宏 （関西福祉科学大学）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第18会場（10F 1006）

S2-40 親子関係形成支援事業の現在地ーエビデンスと導入の課題：
トリプルPとポジティブ・ディシプリンの実践から

柳川 敏彦 （南紀医療福祉センター / トリプルPジャパン）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第18会場（10F 1006）

S2-41 エビデンスに基づく児童虐待予防の実装
―親子関係形成を支えるペアレンティングプログラムの実践と展望―

岩﨑 美奈子（東京学芸大学）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第18会場（10F 1006）

S2-42 虐待した父親の行動変容を促す取り組み
～ケアリングダッツプログラム東京都児相版の導入～

駒村 樹里 （東京都町田児童相談所）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第18会場（10F 1006）

S2-43 アドボカシーは怖くない!?
～日々の臨床の中にある意見表明支援～

岡村 悠里 （児童養護施設 大和育成園）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第19会場（10F 1007）

S2-44 関係を壊さずに進める虐待相談
―家族と支援を共有するための実践報告―

矢後 芳明 （神奈川県厚木児童相談所）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第19会場（10F 1007）

S2-45 「支援する側」はどう変わるのか
―本人の声を起点に地域資源と支援を組み替えるラップアラウンド実践―

久保 樹里 （日本福祉大学）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第19会場（10F 1007）

S2-46 第三者評価から見えてきた一時保護施設の先進的取り組みと547人の子どもの声

茂木 健司 （日本児童相談業務評価機関）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第19会場（10F 1007）

S2-47 こどもアドボケイトにおける一時保護児童全件面会の意義と展望

川並 利治 （社会福祉法人梅光会社会的養育研究所）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第20会場（10F 1008）

S2-48 子ども虐待対応チームにおける看護師の役割を深堀りしよう！
―私がやってることはスタンダード？マニアック？―

山下 治子 （地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター）
鷲尾 祥子 （山城小児科医院）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第20会場（10F 1008）

S2-49 見えない専門性を未来へ残す
～MSWのコーディネーター力の可視化とマニュアル化～

城戸 貴史 （静岡県立こども病院）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第20会場（10F 1008）

S2-50 医療機関でキャッチした子どものSOS、どうつなぐか

川口 めぐみ（地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第20会場（10F 1008）

S2-51 医療機関におけるこども家族支援の現在地
～権利を守る多機関連携と医療ソーシャルワーカーの実践～

香西 摩矢子（大阪母子医療センター）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第21会場（10F 1009）

S2-52 「家庭か施設か」を超えて考える
―実親と里親を支える地域支援基盤としての乳児院

野々山 友 （名古屋大学大学院）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第21会場（10F 1009）

S2-53 里子の自立を取り巻く課題―里親子支援者・施設職員経験者・里親経験者の視点からー

上野 永子 （静岡福祉大学）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第21会場（10F 1009）

S2-54 里親支援における心理支援の専門性
-里子と里親の心が出会う場所としての家庭-

荒屋 昌弘 （大阪人間科学大学）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第21会場（10F 1009）

S2-55 里親家庭の実子のアドボカシーとチーム養育の確立
―実子を対象としたプログラム開発の試み―

谷 俊英 （大阪大谷大学）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第22会場（11F 1101 ～ 1102）

S2-56 非行の課題を抱えるこどもの支援その５
～きょうだい間性加害ケースにおける家庭の支援について～

一宮 里枝子（福岡県福岡児童相談所）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第22会場（11F 1101 ～ 1102）

S2-57 DV加害者である親へ介入する実践
－ Safe & Togetherモデルによる加害者パターンベースドアプローチの導入と展望－

増井 香名子（武庫川女子大学）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第22会場（11F 1101 ～ 1102）

S2-58 デートDV予防教育の意義と課題―児童虐待防止との接続―

阿部 真紀 （NPO法人デートDV防止全国ネットワーク）
片岡 麻里 （NPO法人デートDV防止全国ネットワーク）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第22会場（11F 1101 ～ 1102）

S2-59 子どもへの性的虐待を予防するプログラムを体験する
～セカンドステップチャイルドプロテクションユニットのレッスンについて～

木村 秀 （共立女子大学）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第25会場（12F 1202）

S2-60 トラウマケアを組織に根付かせる ～児童心理司の役割と実践～

服部 隆志 （尼崎市児童相談所）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第25会場（12F 1202）

S2-61 これからの児童福祉施設における人材育成と支援者支援を考える

江野 肇 （社会福祉法人光明会杉並学園）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第25会場（12F 1202）

S2-62 児童福祉の未来を担う次世代人材の確保とは
～学生の揺らぎと施設の制約を超えた入口支援を考えよう～

関 彩夜子 （青山学院大学大学院 教育人間科学研究科）
谷口 智朗 （任意団体子ども福祉大学）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第25会場（12F 1202）

S2-63 「生活とともにある職員を支える」
～児童福祉における支援者支援 メンタライゼーションの視点から～

秋田 悠希 （人間環境大学）

◆11月15日（日） 9：00 ～ 10：30 第26会場（12F 1203）

S2-64 アディクションのある養育者に育てられた子どもの受ける困難とその支援体制を考える

森田 展彰 （筑波大学医学医療系）

◆11月15日（日） 10：45 ～ 12：15 第26会場（12F 1203）

S2-65 児童相談所に求められる「正しさ」を考えてみる
―法律、社会、児童相談所、支援者個人の視点から―

鈴木 恵太 （千葉県市川児童相談所）

◆11月15日（日） 13：15 ～ 14：45 第26会場（12F 1203）

S2-66 家庭におけるエデュケーショナル・マルトリートメントへの介入
―学校現場における支援の可能性―

廣澤 愛子 （福井大学学術研究院 教育・人文社会系部門）

◆11月15日（日） 15：00 ～ 16：30 第26会場（12F 1203）

S2-67 通告ためらいの構造
――医療と子ども保護現場の萎縮効果とモラルインジャリー

大谷 恭平 （加古川中央市民病院）

一般演題（口演）

一般演題1　支援ツールの作成・支援体制の確保

◆11月14日（土）12：30 ～ 14：00　第24会場（12F1201）

座　　長：川並　利治　（社会福祉法人梅光会 社会的養育研究所）

O1-01 **児童相談における生成 AI 活用に向けた試案：情報品質評価モデル構築の必要性**
前田　瞬　（長崎県立大学経営学部）

O1-03 **児童相談所における動画教材を用いた親子関係再構築支援の実践と普及の取り組み**
森田　佳子　（兵庫県こども家庭センター）

O1-04 **災害時の社会的養護下の子どもへの心理的支援ツールの作成と活用可能性の検討**
稲次　望　（大阪府貝塚子ども家庭センター）

一般演題2　里親養育の支援

◆11月14日（土）14：15 ～ 15：45　第24会場（12F1201）

座　　長：増沢　高　（子どもの虹情報研修センター）

O2-01 **関係性を基盤とした里親支援事業の構造化**
ー里親支援をつながりとして捉え直す試みー
高島　由樹　（里親支援センターしが）

O2-02 **里親委託ケースにおける委託児童と実親の交流の意義と方法の研究**
坂井　隆之　（明星大学教育学部）

O2-03 **里親会メンバーが語る対話実践の経験**
～里親ピアサポートのヒントを探る～
門間　晶子　（名古屋市立大学）

O2-04 **協働養育（Shared Parenting）の契機となる「里親委託サポートキット『てとて』」のデザイン**
田北　雅裕　（九州大学大学院芸術工学研究院）

一般演題3　社会的養護と地域・学校のつながり

◆11月14日（土）16：00 ～ 17：30　第24会場（12F1201）

座　　長：野田　正人　（SSW情報研修センター）

O3-01 **‘定着’から‘納得のいく着地’へ**
―児童養護施設から障がいサービス移行後の「繋がり続ける支援」の実践―
小西　健太　（大阪西本願寺常照園）

O3-02 **里親家庭と学校との連携に関する質問紙調査**
上田　裕美　（大阪教育大学教育学部）

O3-03 **児童養護施設による地域食堂の実践**
ーセーフティネット機能に着目してー
吉田　志保　（社会福祉法人有鄰学院 児童養護施設ゆうりん）

O3-04　海外体験プログラムが児童養護施設で暮らす子どもの社会的・心理的成長に及ぼす影響
那須　里絵　（和洋女子大学・早稲田大学総合研究機構）

一般演題4　母子保健・周産期からの支援

◆11月14日（土）12：30 ～ 14：00　第26会場（12F1203）

座　　長：中板　育美　（武蔵野大学）

O4-01　地域保健機関における母子支援の地域差に関する検討
谷川　果菜美（大阪母子医療センター　母子保健調査室）

O4-03　中核市児童相談所の保健師の役割の考察
～包括的支援に向けたこども家庭センターとの連携の在り方～
田中　淳子　（豊中市児童相談所）

O4-04　単独配置の児童相談所保健師間の随時情報交換の実績と課題の考察
～過去3年間の分析より～
石井　寛子　（大阪府富田林子ども家庭センター）

一般演題5　子育て支援と虐待予防プログラム

◆11月14日（土）14：15 ～ 15：45　第26会場（12F1203）

座　　長：倉石　哲也　（武庫川女子大学）

O5-01　MY TREE 子育てプログラムを地域の虐待予防支援に組み込む
～児童虐待防止の第一次予防から第二次予防に繋ぐ～
中川　和子　（一般社団法人MY TREE）

O5-02　親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた！”の効果
～全国調査2025～
原田　大輔　（桃山学院大学人間教育学部）

O5-03　日本における罰によらない子育ての推進：
養育者支援プログラム「ポジティブ・ディシプリン®」の効果
森　郁子　（NPO法人きづく（ポジティブ・ディシプリン日本事務局））

O5-04　高校生を対象とした児童虐待予防教育プログラムの効果検証
―援助要請に着目した介入とその効果の検討―
溝端　祥悠　（奈良県中央こども家庭センター）

一般演題6　親の学びと予防的アプローチ

◆11月14日（土）16：00 ～ 17：30　第26会場（12F1203）

座　　長：樋口　純一郎（神戸市こども家庭センター）

O6-01 **保育現場における児童虐待に関する研修ニーズや困りごと把握調査**
－県保健所における子ども虐待予防事業－
堀川　芽衣　（静岡県熱海健康福祉センター）

O6-02 **心理的虐待の未然防止に向けた子育て期への支援**
―新宿区における面前 DV 事例とポピュレーションアプローチ―
古閑　小貴　（新宿区子ども総合センター子ども相談支援課）

O6-03 **子育て支援における参加型学習の実践**
～親の自己形成としての学びの伴走～
蘆田　智絵　（就実大学）

O6-04 **「夫婦間の知識・情報格差の解消」が、夫婦間葛藤の軽減に与える可能性**
―父親の行動変容事例から―
荻原　彩　　（NPO法人きずなメール・プロジェクト）

一般演題7　諸外国の制度と国際比較

◆11月15日（日）9：00 ～ 10：30　第8会場（8F803）

座　　長：有村　大士　（日本社会事業大学）

O7-01 **中国における未成年者侵害強制通告制度の現状と展望**
―文献レビューに基づく考察―
于　丹　　（大橋学園　ユマニテク短期大学）

O7-02 **依存症を抱える若者の学びを保障する支援体制**
北米リカバリーハイスクールと大学リカバリープログラムの視察報告
渡邊　洋次郎（特定非営利活動法人いちごの会）

O7-03 **英国イングランド児童福祉サービスにおける品質保証フレームワーク：**
Children's Social Workers による意味づけ（中間報告）
田幸　恵美　（早稲田大学人間科学学術院）

O7-04 **「教育虐待」に関連する国際文献についてのスコーピングレビュー**
岡田　紗苗　（大阪公立大学）

一般演題8　児童福祉司等の育成と意思決定

◆11月15日（日）9：00 ～ 10：30　第9会場（8F804）

座　　長：川松　亮　　（明星大学）

O8-01 **こども家庭センターにおける対話型 OJT 導入前組織アセスメントの実践**
阿部　勝広　（千葉県袖ケ浦市こども家庭センター）

O8-02 **「新任児童福祉司の困難感とその背景要因（その２）**
- 自由記述の質的分析を通して -」
田中　聡子　（県立広島大学）

O8-03 **「新任児童福祉司の困難感とその背景要因（その１）**
-新任者への質問紙調査を通して-」
松宮　透高　（県立広島大学保健福祉学部）

O8-04 **児童虐待対応における経験年数２・３年目の児童福祉司の意思決定プロセスとその影響要因**
若井田　崇　（江戸川区子ども家庭部措置費共同経理課）

一般演題９　児童相談所の支援者支援とメンタルヘルス

◆11月15日（日）10：45 ～ 12：15　第９会場（8F804）

座　　長：川﨑　二三彦（子どもの虹情報研修センター）

O9-01 **児童相談所における新たな支援者支援の試み**
―システムズ・コンサルテーションの実践から―
三木　馨　（西日本こども研修センターあかし）

O9-02 **児童福祉司ピアグループ活動の継続要因**
弦間　亮　（京都府家庭支援総合センター）

O9-03 **児童相談所職員への支援者支援研修の意義と課題**
―「折れない心」で燃え尽きを防ぎ虐待防止につなげる―
河合　真紀子（大阪府八尾少年サポートセンター）

O9-04 **東京都児童相談所におけるTICの視点を踏まえた組織的な取組について**
久保　隆　（東京都福祉局児童相談センター）

一般演題10　人材の養成・確保・定着

◆11月15日（日）13：15 ～ 14：45　第９会場（8F804）

座　　長：橋本　達昌　（児童家庭支援センター・児童養護施設 一陽）

O10-01 **徳島県における産学連携によるこども家庭ソーシャルワーカー養成モデルの実践と効果検証**
和仁　里香　（徳島文理大学保健福祉学部人間福祉学科）

O10-02 **児童心理治療施設における「職員養成の研究」**
－職員のメンタルケアに関連する組織的支援について－
上村　拓治　（山梨県立子ども心理治療センターうぐいすの杜）

O10-03 **児童福祉従事者の学びの質をどう担保するか：予算確保制度の日仏比較**
松山　里紗　（みずほ総合所（みずほ銀行内のシンクタンク））

O10-04 **児童相談所における児童福祉司の離職防止に向けた支援の実践**
葛飾区児童相談所の開設から現在までの取組み
中林　貴紀　（葛飾区児童相談所）

一般演題11　児童福祉施設の職員研修と組織づくり

◆11月15日（日）15：00 ～ 16：30　第9会場（8F804）

座　　長：橋本　和明　（国際医療福祉大学）

O11-01 児童養護施設における TIC/ARC 導入と組織再生
―アタッチメントの土壌と限界からのシステム構築―
徳山　美知代（神田外語大学）

O11-02 児童養護施設職員を対象とした性教育ロールプレイの実践
－人材育成研修の一方法として－
久田　春樹　（児童養護施設ゆうりん）

O11-03 児童養護施設職員の自己有用感を高める写真を用いた対話プログラムの開発
～支援者支援に向けた実践的検討～
楠　聖伸　　（武蔵野大学）

O11-04 児童福祉施設職員を対象とした「バウンダリー（境界線）」と人権に焦点づけた研修の試み
水木　理恵　（医療創生大学）

一般演題12　医療機関における虐待対応

◆11月15日（日）9：00 ～ 10：30　第10会場（8F805）

座　　長：小橋　孝介　（鴨川市立国保病院）

O12-01 タバコ誤飲による診療症例からみたリスク把握のタイミングおよび社会的支援の必要性
宮﨑　ますみ（武蔵村山病院　小児科）

O12-02 児童精神科病棟における行政支援と入院期間の関連性の検討
神薗　淳司　（社会医療法人聖ルチア会 聖ルチア病院 精神科）

O12-03 不適切な養育・虐待の早期発見を目的とした、総合病院における外科系診療科との連携強化の取り組み
幡野　このみ（さいたま市立病院）

O12-04 重症虐待症例を扱う小児高度医療機関における CPT と MSW の役割
井之上　優佳（神奈川県立こども医療センター）

一般演題13　多職種連携による医療的支援

◆11月15日（日）10：45 ～ 12：15　第10会場（8F805）

座　　長：溝口　史剛　（高崎総合医療センター小児科）

O13-01 子どもと家族の声を支援につなぐ評価とは何か：
児童虐待に係る作業療法研究の評価構造に関する記述的レビュー
後藤　健太郎（三浦市立病院　診療支援部　リハビリテーション科／神奈川県立保健福祉大学）

O13-02 障がいを有する父親と幼児への支援
―グリーフケアと病院と地域が連携した育児支援の試み―
緑谷　美華　（名古屋掖済会病院　地域医療支援センター）

O13-03 一時保護所入所児における発達段階および主たる保護理由別にみた口腔保健ニーズ
許　以寧　（京都大学大学院総合生存学館）

O13-04 中核市に設置される児童相談所において、必要とされる医療体制整備についての検討
中井　優子　（尼崎市児童相談所）

一般演題14　性虐待・性暴力への対応と予防教育

◆11月15日（日）13：15 ～ 14：45　第10会場（8F805）

座　　長：石倉　亜矢子（函館中央病院）

O14-01 児童相談所における"きょうだい間性虐待"対応アセスメントモデル開発に関する研究
永井　友基　（神戸市こども家庭センター　　（武庫川女子大学大学院））

O14-02 親子参加型「生命（いのち）の安全教育」プログラムに対する小学生保護者の参加ニーズ
遠藤　美穂子（仙台青葉学院大学）

O14-03 性暴力救援センター・大阪 SACHICO 来所者の被害実態と課題
-SNS とアルコール関与に着目して -
久保田　康愛（性暴力救援センター・大阪 SACHICO　市立加西病院）

O14-04 性虐待が疑われる眼科領域の淋菌感染症に係る症例報告の検討
高木　鈴世　（山口大学医学部医学科）

一般演題15　子ども・若者の理解とケア

◆11月15日（日）15：00 ～ 16：30　第10会場（8F805）

座　　長：浦　弘文　　（尼崎市児童相談所）

O15-01 子どもの暴力行為の理解
―治療困難様態の因子構造に基づく考察―
菊池　清美　（社会福祉法人風と虹　筑後いずみ園）

O15-02 少年院入院者における児童虐待と児童福祉制度関与の記述の特徴
―生活環境調整記録の分析を通して―
武田　明恵　（横浜保護観察所）

O15-03 ケアリーバーの「知る権利」を支える支援の連続性
～インケアにおける生い立ちの整理と退所後の当事者の想いに焦点を当てて～
大村　海太　（桜美林大学）

一般演題16　リスクアセスメントと尺度開発

◆11月15日（日）9：00 ～ 10：30　第11会場（8F806）

座　　長：中村　有生　（兵庫県立清水が丘学園）

O16-01 ネグレクトのリスクとなる親の認知尺度についての研究
橋本　和明　（国際医療福祉大学）

O16-02 就学児に要保護児童対策地域協議会登録の有無と乳幼児健診項目との関連
三宅　登子　（守口市　こども家庭センター）

O16-03 保育所等における CFA-S の統合的活用の可能性
－行政主導型と園主体型の運用比較から－
灰谷　和代　（静岡福祉大学）

O16-04 母親の社会的孤立と児童虐待リスク：
構造方程式モデリングによる生態学的統合モデルの検証
張　詩琪　（神戸大学大学院医学系研究科）

一般演題 17　市町村・関係機関の連携体制

◆ 11 月 15 日（日）9：00 ～ 10：30　第 24 会場（12F1201）

座　　長：三木　馨　（西日本こども研修センターあかし）

O17-01 児童虐待の進行段階に応じたソーシャルワークモデルの検討
清水　克之　（広島文教大学）

O17-02 語り合い、理解し合い、共に築き上げた協働体制
練馬区立子ども家庭支援センターと練馬児童相談所の実践報告
川本　浩子　（東京都練馬児童相談所）

O17-03 複合的ケア家庭における孤立防止と「ケアをひらく」実践の試み
― 共創型調査から導き出された「共同宣言」のプロセスと意義 ―
東　恵子　（一般社団法人ダブルケアサポート）

O17-04 児童相談所サテライトオフィスにおける地域近接型支援の実践と課題
―運用実践の整理を通して―
高橋　玲央奈（東京都江東児童相談所相談援助課）

一般演題 18　子どもの声と SOS の受け止め

◆ 11 月 15 日（日）10：45 ～ 12：15　第 24 会場（12F1201）

座　　長：磯谷　文明　（くれたけ法律事務所）

O18-01 子どもの悩み投稿の分析から心理的虐待についてどのように語られているかを探る
近藤　天之　（東京都立大学）

O18-02 子どもにとって援助方針会議に参加するとはどのような経験か
―インタビュー調査からみる直接参加の意味
栄留　里美　（西南学院大学　人間科学部）

O18-03 24 時間利用できる無料・匿名チャット相談におけるこどもの SOS
―18 歳以下相談者の相談内容分析―
林　真衣　（NPO 法人あなたのいばしょ）

一般演題19　一時保護施設の運営と職員支援

◆11月15日（日）13：15 ～ 14：45　第24会場（12F1201）

座　　長：林　めぐみ　（大阪府吹田子ども家庭センター）

O19-01 一時保護施設における引き継ぎ時間の分析と効率化のための整理
常増　健二　（熊本県福祉総合相談所）

O19-02 一時保護所職員のメンタルヘルス
―トラウマインフォームドケアの視点から―
井出　百合菜（元国際医療福祉大学大学院臨床心理学専攻）

O19-03 板橋区一時保護所開設5周年を迎えて
～ユニット制のカギはミャクミャクと受け継がれる支援者支援だった～
堀　文　　（東京都板橋区子ども家庭総合支援センター）

O19-04 児童相談所一時保護施設と女性自立支援施設の空間比較研究
―高齢女児保護を視野に入れた平面構成分析―
阪東　美智子（国立保健医療科学院）

一般演題20　親子関係再構築

◆11月15日（日）15：00 ～ 16：30　第24会場（12F1201）

座　　長：南山　今日子（子どもの虹情報研修センター）

O20-01 児童相談所におけるCAREおよびPCIT導入の実践報告
松岡　慧　　（和歌山県中央児童相談所）

O20-02 児童虐待対応における関与様式の構造的差異に関する質的研究
―単一事例のプロセス分析―
宗田　敏明　（東京都児童相談センター）

O20-03「子ども中心」の親子交流支援に関する検討
―親および子どもの変化に着目して―
福島　由美子（面会交流支援センターピロティ）

O20-04 児童相談所における乳児（0-1歳）の家族再統合支援についての一考察
―支援の傾向と要因（コツ）―
粟田　菜穂子（神奈川県中央児童相談所）

一般演題（ポスター発表）

◆ 11月15日（日）10：45 ～ 11：30, 13：15 ～ 14：00　ポスター会場（3Fイベントホール AB）

※発表者はいずれか又は双方の時間に在席しています。

P-01　**産褥早期に必要な支援が母親に届かない要因と不適切養育行動との関連**
―多様な母親背景を踏まえた文献検討―
阿部　正子　（名桜大学人間健康学部看護学科）

P-02　**社会的孤立と児童虐待：**
概念的多次元性と虐待タイプ別関連性に関する系統的ナラティブレビュー
佐名　隆徳　（株式会社AiCAN）

P-03　**はじめの100か月の育ちビジョンに基づく体罰・虐待認識と権利意識**
高祖　常子　（認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク）

P-04　**児童相談所における支援者支援の可視化**
―サンクチュアリモデルに基づくロジックモデル構築の試み―
橋本　崇　（京都府福知山児童相談所）

P-05　**NICUに入院した子どもをもつ父親の心理と育児状況に関する研究の動向：**
スコーピングレビュー
篠原　理恵　（北里大学健康科学部看護学科）

P-06　**一時保護所における心理職の多層的介入の意義**
――個別・集団心理療法と生活場面を横断した実践――
野口　大介　（名古屋市中央児童相談所）

P-07　**子どもシェルターに関する先行研究の文献調査**
―支援実践に着目した研究動向と課題―
河村　浩世　（ユマニテク短期大学）

P-08　**AIによる権利擁護支援ツールの試作**
―RAG型ナレッジベースを用いた対話型アドボカシー支援―
宇都宮　研人（特定非営利活動法人AITECH）

P-09　**こども虐待による死亡事例等の検証のあり方と報告書の活用に関する研究**
白井　祐浩　（九州産業大学）

P-10　**委託一時保護中のこどもの相談ニーズに対する児童相談所職員の対応策の検討**
堀　千里　（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社）

P-11　**里親支援センターにおけるケアプラン作成の試行的開発に関する研究**
― 子ども・里親・支援者協働のためのケアプランを目指して―
木内　さくら（大阪公立大学　生活科学部）

P-12　**多職種連携で行った支援が必要な妊婦への支援体制構築**
菊池　那美子（川崎市立多摩病院　医療相談センター）

P-13　**大阪府妊産婦こころネット（妊産婦メンタルヘルスネットワーク構築事業）の2年間の歩みと展望**
上田　美香　（大阪母子医療センター）

P-14 **生成 AI と対話する家庭訪問**
―Virtual Reality（VR）による児童虐待防止教育―
菊原　美緒　（令和健康科学大学）

P-15 **町田児童相談所における地域に根ざした親子グループ『こかげ』**
～ ARC の枠組みを用いた効果的な親子支援～
石塚　聖堂　（東京都町田児童相談所）

P-16 **児童養護施設入所児における感覚処理アセスメントに基づく生活支援の実践～感情爆発・癇癪へのアプローチ～**
後藤　武則　（児童養護施設東京都片瀬学園）

P-17 **バウンダリーに焦点を当てた関係構築支援のグループプログラムが児童に与える影響**
山﨑　康一郎（日本福祉大学）

P-18 **児童心理司がケース引継ぎを受ける際の困難さについて**
梅藤　裕子　（尼崎市児童相談所）

P-19 **困難ケースへの支援体制再構築の模索**
ー共通 TIC を用いたケースワークー
南出　湖都美（滋賀県彦根子ども家庭相談センター）

P-20 **一時保護専用施設の現状と今後の展望**
八木　涼子　（三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング）

P-21 **多職種連携における体験的理解を目的とした役割交換型ロールプレイの実践**
小島　愛実　（はりまこどものこころ診療所）

P-22 **こどもの支援のための多職種間及び多領域間連携について**
ー『はりま子どもの未来を考える会』の 3 年間の取り組みー
椴山　真央　（兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程　修了　修士　（学校教育学））

P-23 **児童福祉施設職員へのアタッチメント支援プログラムの検証**
―量的・質的データを用いた混合研究―
益田　啓裕　（追手門学院大学）

P-24 **児童養護施設新人職員のサバイバル・プロセスに関する質的研究**
―志望動機と行動問題への対処に着目して
足立　泰代　（支援者のこころの保健室）

P-25 **発達障害児支援における「気づき」と地域支援の実態に関する調査**
上甲　貴江　（地方独立行政法人　広島市立病院機構　広島市立広島市民病院）

P-26 **子ども虐待対応の多機関連携モデル「バーナフス」**
～欧州における浸透プロセスとその論点～
吉岡　洋子　（関西大学）

P-27 **自己肯定感を高める取り組み「めいじんカード」について**
～東京都児童相談センターの取り組み
宮下　あすみ（東京都児童相談センター保護第一課）

P-28 **トラウマインフォームドケアに基づく一時保護所における二次受傷ケア**
山中　扶佐子（足立児童相談所保護課）

P-29 **当事者の声から学ぶ虐待防止：**
多職種連携による子ども支援の実践と対話の場づくり
福元　進太郎（福井大学 医学部 精神医学）

P-30 **措置解除後の里親との関係性と出口支援**
－成人した里子へのインタビュー調査から－
森　歩夢　（関西福祉大学）

P-31 **通告一元化における初期対応の判断構造**
―意思決定プロセスの可視化と実践的示唆―
鶴田　智子　（比治山大学短期大学部）

P-32 **若年層妊産婦への支援に関する調査**
ー『HELPING THE BATTERED CHILD AND HIS FAMILY』との照合を通してー
伊豆　冬埜　（公立大学法人長野大学　社会福祉学部　4年）

P-33 **子ども虐待重大事例検証報告書を活用した研修の実態と課題**
―自治体および国の研修機関への聞き取り調査―
澁谷　昌史　（関東学院大学社会学部）

P-34 **こども虐待重大事例検証における予防視点導入の必要性**
小稲　文　（秀明大学看護学部）

P-35 **教職課程学生の児童生徒の性暴力防止意識の向上を目指した演習授業の効果**
－教職員等の性暴力の根絶に向けて－
高岸　幸弘　（熊本大学大学院）

P-36 **「フランス・ベルギーにみる多様なニーズに応える子ども家庭支援」**
櫻谷　眞理子（滋賀県子ども若者部子どもの権利室）

P-37 **子ども一人ひとりに適した施設環境について考えるⅤ：**
神戸市 HOME 環境評価研究会の取り組み
西森　啓祐　（児童養護施設　グイン・ホーム）

P-38 **日本の社会的養護における「治療的養育」に関する文献検討**
深堀　健行　（児童養護施設愛泉寮・子どもの虐待防止センター）

P-39 **児童養護施設指導員と医療職の連携の実態と課題**
武田　典華　（大阪市東住吉区役所（研究時は兵庫県立大学看護学研究科））

P-40 **生活困難により母子生活支援施設に入所した母親の子ども期の ACE と子育て期のソーシャル・サポートの意義**
岩本　華子　（大阪公立大学）

P-41 **全国の多胎家庭をつなぐオンラインピアサポートの実践報告**
―孤立防止・虐待予防・地域支援への橋渡しの取り組み―
中原　美智子（NPO 法人つなげる）

P-42 **一時保護児童に対する集団心理療法（コラージュ療法）の試行とその効果**
堀江　千絵子（茨城県中央児童相談所）

P-43 **貧困状況にある子どもの「声」の回復を支える社会環境要因**
―安心の基盤とパーマネンシーの循環的相互作用―
中丸　陽子　（太成学院大学）

P-44 **子ども版社会的自立チェックリスト実施による自立観への影響に関するインタビュー調査**
松下　大介　（東京学芸大学　こどもの学び困難支援センター）

P-45 **みんなで虐待予防・早期発見ができる組織・地域づくりを目指すために**
～二次救急告示医療機関である当院にできること～
牧　稚子　（耳原総合病院）

P-46 **社会的養護経験をもつ若者の成人移行期支援に関する探索的文献レビュー：**
メンタルヘルス支援の観点から
梶原　美郷　（大阪府立病院機構　大阪精神医療センター）

P-47 **一時保護所における二次受傷への組織的支援の実践**
―トラウマの心理教育と感情共有の場を通して―
水崎　光保　（東京都福祉局江東児童相談所保護課）

P-48 **「にんしんSOS」相談から見えてきたこと　第12報**
～妊娠後期（推定）の相談から1か月以内に出産した事例
山内　瞳　（大阪母子医療センター母子保健調査室）

P-49 **多機能型児童家庭支援センターにおける相談事業と児童育成支援拠点事業との連携**
小澤　永治　（九州大学・福岡市児童家庭支援センター「SOS子どもの村西部」）

P-50 **医療型特定短期入所における未就学前児に対する多職種連携による日中活動支援の意義**
堀川　由樹子（医療法人　聖育会　clinic WIZのぼりと・ゆうえん小児科／医療型特定短期入所
HARMONIOUS for Special healthcare needs）

P-51 **「にんしんSOS仙台」における妊娠相談の傾向分析**
―2023～2025年度相談実績から―
安部　葉子　（東北福祉大学健康科学部保健看護学科）

P-52 **里子支援モデル構築にむけて：**
インタビュー調査から見いだされたチーム養育における保育者の可能性と課題
安藤　みゆき（茨城女子短期大学）

P-53 **児童相談所開設時における児童心理司のストレスについて**
代田　純一　（尼崎市児童相談所）

P-54 **子どもと養育者に対するオンライン心理支援の実践報告**
―4プログラムの事後アンケートの質的検討―
伊達岡　五月（福井大学子どものこころの発達研究センター）

パネル展示参加団体

日時：11月14日（土）9:00 ～ 11月15日（日）14:00
場所：グランキューブ大阪3Fイベントホール AB

パネル展示番号	団体およびグループ名
PN-1	性虐待被害児の心身回復プロジェクト
PN-2	認定NPO法人 児童虐待防止協会
PN-3	国立武蔵野学院附属人材育成センター
PN-4	一般社団法人社会的養育地域支援ネットワーク
PN-5	全国児童家庭支援センター協議会
PN-6	日本福祉大学　FUKUSHI ACADEMY
PN-7	認定NPO法人CAPNA
PN-8	認定NPO法人チャイルド・リソース・センター
PN-9	特定非営利活動法人子どもの虐待防止ネットワーク・しが
PN-10	特定非営利活動法人家庭養育支援機構
PN-11	NPO法人赤ちゃんの眠り研究所
PN-12	こども家庭ソーシャルワーカーの会
PN-13	早稲田大学　総合研究機構　社会的養育研究所
PN-14	ＮＰＯ法人妊娠しぇるとＳＯＳ
PN-15	西日本こども研修センターあかし
PN-16	NPO地域福祉推進事業団いのちのほっとステーション
PN-17	認定NPO法人チャイルドファーストジャパン
PN-18	こどもと親への育児支援研究会（こども虐待防止ネットワーク）
PN-19	特例認定NPO法人そらいろコアラ
PN-20	NPO法人 トリプルＰジャパン
PN-21	子どもの虹情報研修センター
PN-22	オレンジリボンたすきリレー実行委員会
PN-23	認定NPO法人CAPセンター・JAPAN
PN-24	奈良児童虐待防止ネットワーク「きずな」
PN-25	子育て傾聴塾

パネル展示番号	団体およびグループ名
PN-26	社会福祉法人子どもの虐待防止センター
PN-27	一般社団法人予防メンタルヘルス機構
PN-28	一般社団法人　日本こども家庭支援協会（JACFS）
PN-29	特定非営利活動法人きづく
PN-30	特定非営利活動法人埼玉子どもを虐待から守る会
PN-31	兵庫県児童家庭支援センター連絡協議会
PN-32	NPO 法人 O'hana 親と子の絆を育むお手伝い
PN-33	SOS 子どもの村 JAPAN
PN-34	認定特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン
PN-35	NPO 法人里親子支援機関えがお
PN-36	特定非営利活動法人　日向ぼっこ
PN-37	NPO 法人あなたのいばしょ
PN-38	公益社団法人　東京社会福祉士会
PN-39	チームクリフ
PN-40	川崎市宮前区役所地域みまもり支援センター地域支援課
PN-41	特定非営利活動法人関西こども文化協会
PN-42	一般社団法人 Void
PN-43	一般社団法人　日本児童相談業務評価機関
PN-44	任意団体いちほの会
PN-45	SEE（Sexuality Education & Empowerment）
PN-46	びーらぶ♡チバ
PN-47	『ぱれっとしが』&『ひつじの居場所・羊羊』
PN-48	JaSPCAN　国際活動委員会
PN-49	一般社団法人保健師による親子ヘルス＆サポート推進協会
PN-50	大阪母子医療センター　女性メンタルヘルス支援部門
PN-51	社会福祉法人相愛福祉会　げんき・結愛・げんきこども園
PN-52	一般社団法人　日本子ども虐待医学会
PN-53	子ども・家族・援助者のパートナーシップ研究会
PN-54	認定 NPO 法人子どもの心理療法支援会（サポチル）

実行委員一覧

役職	氏名	所属
大会長	山縣　文治	大阪総合保育大学　特任教授
実行委員長	上野　昌江	大阪公立大学研究推進機構　客員研究員
事務局長	岩佐　嘉彦	大阪弁護士会
プログラム委員長	薬師寺　順子	枚方市まるっとこどもセンター
プログラム副委員長	濵田　雄久	大阪弁護士会
プログラム委員顧問、 査読委員顧問	山本　恒雄	愛育研究所　客員研究員
査読委員長	倉石　哲也	武庫川女子大学　教授
基金委員長	白山　真知子	認定NPO法人児童虐待防止協会
基金副委員長	西村　英一郎	大阪弁護士会
基金委員会顧問	泉　薫	大阪弁護士会
広報委員長	八木　安理子	同志社大学　客員教授
広報副委員長	玉野　まりこ	大阪弁護士会
スタッフ委員長	尾田　将彦	大阪弁護士会
実行委員	青木　正博	認定NPO法人児童虐待防止協会
実行委員	天野　総一	大阪精神医療センター
実行委員	新籾　晃子	枚方市まるっとこどもセンター
実行委員	池田　かおり	大阪府吹田子ども家庭センター
実行委員	伊藤　嘉余子	大阪公立大学　教授
実行委員	井上　直子	堺市こども相談所
実行委員	岩佐　和代	大阪市中央こども相談センター
実行委員	岩部　孝洋	大阪市中央こども相談センター
実行委員	植田　昴星	大阪弁護士会
実行委員	魚住　敦子	堺市こども相談所
実行委員	大畑　亮祐	大阪弁護士会、ＮＰＯ法人関西こども文化協会
実行委員	岡部　英子	大阪精神医療センター
実行委員	起塚　庸	高槻病院小児科
実行委員	小野セレスタ 摩耶	同志社大学　准教授
実行委員	家治　愛子	大阪市立長谷川羽曳野学園
実行委員	梶井　規貴	大阪弁護士会
実行委員	柏木　隆子	大阪市中央こども相談センター
実行委員	金澤　ますみ	桃山学院大学　教授
実行委員	小杉　恵	大阪母子医療センター、 認定NPO法人チャイルド・リソース・センター理事
実行委員	小西　智子	大阪弁護士会

役職	氏名	所属
実行委員	小林　美智子	子どもの虹情報研修センター
実行委員	小嶺　瑠菜	大阪弁護士会
実行委員	才村　純	認定NPO法人児童虐待防止協会　理事長
実行委員	佐藤　拓代	公益社団法人母子保健推進会議
実行委員	白石　毅	枚方市まるっとこどもセンター
実行委員	杉山　真理子	大阪府池田保健所
実行委員	鈴木　龍也	大阪弁護士会
実行委員	祖父江　由佳	枚方市まるっとこどもセンター
実行委員	髙熊　洋平	大阪弁護士会
実行委員	津崎　哲郎	認定NPO法人児童虐待防止協会
実行委員	寺井　萌乃	大阪弁護士会
実行委員	中塚　恒子	認定NPO法人 児童虐待防止協会
実行委員	中村　善彦	大阪弁護士会
実行委員	新潟　尚子	枚方市健康福祉部
実行委員	仁木　敦子	大阪府
実行委員	仁田　裕也	大阪弁護士会
実行委員	橋倉　尚美	高槻病院
実行委員	花房　昌美	大阪精神医療センター
実行委員	林　仁司	大阪弁護士会
実行委員	林　めぐみ	大阪府吹田子ども家庭センター
実行委員	坂東　大士	大阪弁護士会
実行委員	久富　久	大阪弁護士会
実行委員	平山　哲	大阪母子医療センター
実行委員	堀田　邦子	藍野大学短期大学部専攻科
実行委員	松本　千賀	大阪弁護士会
実行委員	光田　信明	大阪母子医療センター
実行委員	南　まどか	豊中市児童相談所
実行委員	宮川　祐三子	一般社団法人大阪府助産師会副会長兼専務理事
実行委員	宮口　智恵	認定NPO法人チャイルド・リソース・センター
実行委員	村井　徹	児童養護施設 遙学園
実行委員	森山　ジェニー	大阪弁護士会
実行委員	山下　典子	高槻市子ども保健課
実行委員	山中　徹二	大阪公立大学
実行委員	山野　泰弘	児童心理治療施設　希望の杜
実行委員	吉田　祐一郎	四天王寺大学　准教授、公益社団法人大阪社会福祉士会会長
実行委員	和田　聡子	大阪母子医療センター

協賛一覧

本学術集会を開催するにあたりまして、下記の皆様ならびに多くの個人・関係者様からご支援をいただいております。ここに深甚なる感謝の意を表します。

ご助成

公益財団法人川野小児医学奨学財団
公益財団法人資生堂子ども財団
認定NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク（コングレスバッグご提供）
公益財団法人大阪観光局

ご寄付

一心寺
株式会社　大阪国際会議場
大阪市淀川区更生保護女性会元会長・現相談役田中 絹子様
四恩学園乳児院　四恩みろく乳児院
社会福祉法人　女子慈教寮
社会福祉法人聖家族の家
社会福祉法人　聖ヨハネ学園
社会保険労務士法人ゼウス　林ひな子様
一般社団法人日本精神科看護協会大阪府支部
株式会社ネオス
社会福祉法人　博愛社
フラハ大阪心理発達研究会有志一同
平和寮
前向き子育て pirina　福井紗也佳様
前向き子育て Pamoja
吉本興業ホールディングス株式会社
社会福祉法人レバノンホーム

倉井信夫様
栗本一美様
井上八大様

弁護士　松葉知幸様
弁護士　泉薫様
弁護士　檜山洋子様
弁護士　藪野 恒明様
弁護士　小島幸保様
弁護士　青木佳史様
弁護士　田中嘉寿子様

出　展

株式会社 AiCAN
明石書店
朝日新聞出版
ＮＴＴテクノクロス株式会社
大阪大学出版会
株式会社　北大路書房
株式会社ぎょうせい関西支社
株式会社クマノミ出版
合同出版株式会社
子どもの権利・きもちプロジェクト
子どもの未来社
株式会社 金剛出版
株式会社社会保険出版社
新日本法規出版株式会社
株式会社生活書院
（株）誠信書房
SENDA-Project (iJapan 株式会社)
トロル
日本加除出版株式会社
株式会社　日本評論社
福村出版株式会社
NPO 法人ぷるすあるは
株式会社 幕張書房

子どもたちの
未来を一緒に育む



社会福祉法人
大阪府衛生会

- 【理事長】 西村 英一郎
- 【住所】 〒569-1041
  大阪府高槻市大字奈佐原955
- 【電話】 TEL.072-696-7033
  FAX.072-696-7022
- 【事業】 ・心理治療施設
  ・附属診療所

私たちの思い

基本的人権の尊重のもと、安全で安心できる環境で、プライバシーを重視し、子どもが心身ともに健全に発達し自立した社会人として成長できるよう、子どもの最善の利益のために最大限の支援を行います。

子どもたちの声を施設運営に取り入れたい！



- 評議員の１人は、卒園生です。
- 第三者委員に施設に来てもらい、子どもたちの話を聴いてもらっています。
- 意見箱の意見は、第三者委員にも見てもらって子どもたちに返答（掲示）しています。

子どもたちのために色々な取組をしたい！

1 児童心理治療施設

季節を感じる様々な行事（キャンプ・クリスマス会・学園祭・遠足など）や、
子どもの希望や職員のひらめき（お菓子作り・外食・映画・カラオケなど）など、
毎年多くの取り組みをしています。また、フットサル部やヨガも行っています！

2 附属診療所

3 閉鎖した児童養護施設の卒園生のために



「なんでも相談（無料）」をスタート。
・弁護士相談も初回無料／受付日時：月・水・金 10:00～16:00
☎ 072-696-0015（不通時は 072－696－7033）

多くの方々の支援に感謝！

地域の皆様や小中学校区の皆様、長年に渡り里山保全で山林を整備してくださっている
ボランティアの皆様など、いつもありがとうございます。
皆様のおかげで、子どもたちも楽しい豊かな時間を過ごせています。

こどもたちのために
わたしたちに
できることがあるはず

「子どもの権利条約」の具現化をめざし、
こどもの声を聴き、
寄り添い、ともに考えながら、
すべてのこどもが当たり前に育ち、
尊重される社会の実現に取り組んでいます。

私たちの取り組み



こども支援

自立支援
不登校支援
居場所づくり



家族・子育て支援

児童の安全確認
つどいの広場
親子の交流
子育て相談



相談支援

189電話対応
SOSダイヤル
LINE相談



研修支援

放課後児童支援員研修
自治体職員研修

団体設立30周年 1996…2026…>
これまでも、これからも、
「子どもの権利条約」の具現化に向けて。

特定非営利活動法人
関西こども文化協会

〒540-0037
大阪市中央区内平野町1-3-12
ajディナスティ大手前ビル201号室
06-6809-5613
06-6809-5614
9:30-18:00 (土日祝は休業)
https://kansaikodomo.com/



援助を求める人いるならば、
ためらわずに手をさしのべる

児童養護施設「遙学園」
児童養護施設「翼」
児童養護施設「クジラハウス」
児童心理治療施設「ひびき」
乳児院「大阪水上隣保館乳児院」
乳児院「はばたき」
山崎保育園
子育て支援「なかよしランド」
子育て支援「ぱんだのいえ」
認定こども園「藤の里保育園」
子育て支援「ファミリーポートたかつき」
子育て支援「ファミリーポートひらかた」
子育て支援「ファミリーポートサプリ村野」

特別養護老人ホーム「弥栄の郷」
大阪保育福祉専門学校
大阪水上隣保館附属診療所
「さくらクリニック」
障害者自立支援拠点「レモンテラス」
里親支援センター「おひさま」

学校法人山崎学園「山崎幼稚園」

OSAKA SUIJO RINPOKAN
社会福祉法人 大阪水上隣保館

〒618-0001
大阪府三島郡島本町山崎5丁目3-18
TEL：075-961-0711（法人事務局）

osakasuijorinpokan.com

子どもと母親の生活を支配する強圧的コントロール(仮)

共同の被害者／共同のサバイバーを生きる親子

エマ・カッツ 著
明石聡子 訳　熊上崇 解説

A5判／並製／予368頁　◎予価3520円

DVを身体的暴力だけでなく、相手の自由や主体性を奪う「強圧的コントロール」として捉え直す。子どもと母親へのインタビューをもとに、子どももまたその直接的な被害を受ける存在であることを示し、支配への抵抗、母子の支え合い、離別後の回復までを描き出す。

要保護児童対策地域協議会の効果的な運営(仮)

峯本耕治、久保樹里 著　A5判／並製／予240頁　◎予価2750円

児童虐待への対応において、要保護児童対策地域協議会（要対協）が担う役割は、年々大きくなっている。本書は、現場の実務家に向け、個々の虐待事案について「具体的にどう見立て、どう動くか」を、豊富な事例と“そのまま使えるスキルと言い方”で解説する。

予防こども家庭福祉学への招待(仮)

見えない子どもを社会につなぐ支援と仕組み

山野則子 編著　A5判／並製／312頁　◎予価3300円

子どもの貧困、不登校、虐待、ヤングケアラーなど、見えにくい困難を抱える子どもたちにどう気づき、支援につなげるか。学校版スクリーニングの理論と実践を通して、予防を軸とした新たな子ども家庭福祉のあり方と今後の展望を示す

わたしのまちのこども家庭センター(仮)

先進事例に学ぶ、地域に根ざす支援体制づくり

中板育美、川松亮 著　A5判／並製／予232頁　◎予価2750円

市町村を主役とした家族支援の強化という視点から、こども家庭センターの具体的な運営や連携のあり方を探究する。すでに特徴的な取り組みを展開している自治体の先進事例に学びながら、各地域が自らの状況に応じた支援体制を築いていくための手がかりを提供する実務ガイド。

発達の精神神経医学

複雑な症群を統合的に捉えるアプローチ

エリック・テイラー 著
木村一優、森野百合子、吉田敬子 監訳

A5判／上製／504頁　◎5940円



学校の中のディスアビリティ

通常学級における発達障害児支援をめぐって

松浦加奈子 著　A5判／上製／296頁　◎3960円



フランスの在宅教育支援とエデュケーター

親子まるごと支える価値と実践

安發明子 著　A5判／並製／256頁　◎2750円



こども参加会議のつくりかた(仮)

組織が変われば支援がかわる

栄留里美 編著　A5判／並製／予224頁　◎予価2640円

児童相談所の援助方針会議に「子どもが参加する」という新しい取り組みを、広島県東部こども家庭センターをはじめとする現場の実践記録を通して紹介する。「忙しくて無理」「こどもが傷つくのでは」といったおとな側の不安や戸惑いを乗り越え、組織として変化を起こすための現場からのヒント。

こども基本法はなぜ成立し、どう活かせるのか(仮)

高橋恵里子 著　四六判／並製／予176頁　◎予価2750円

こども基本法成立のために働きかけた筆者やその関係者、国会議員などの活動を詳述することにより、立法過程の一端を明らかにする。民間団体の力で政策を動かすためのノウハウを後世に伝えるとともに、この法律をどう活かしていくのかを探る。

母子生活支援施設における子どもの権利擁護(仮)

浅田明日香 著　A5判／上製／予180頁　◎予価3850円

母子生活支援施設における、奪われた子どもの「声」の回復のために何が必要なのか。本書は、施設の第三者評価結果、職員及び子ども期に入所していた当事者を対象とするインタビュー調査の分析を通し、施設での子どもの権利擁護の現状と課題を明らかにする。

子ども家庭支援のマトを探る(仮)

川畑隆 著　四六判／並製／予200頁　◎予価2640円

子どもや家族が抱える問題を、その背景にある家族の歴史や関係性、生活からどう理解し、支援につなげるか。長年の実践をもとに、事例理解の具体的な着眼点と思考法を提示する。支援者自身のあり方にも目を向け、子ども家庭支援に必要な想像力と考え続ける姿勢を伝える。

若者支援政策の現在地

こども家庭庁／こども基本法は「若者」をどう位置づけたのか

岡部茜、御旅屋達、原未来 編著

A5判／並製／240頁　◎2970円



これからの幼保小の架け橋プログラム

越境する実践、溶け合い高め合う専門性

無藤隆、古賀松香、岸野麻衣、吉永安里 編著

A5判／並製／272頁　◎2860円



明石書店　〒101-0021　東京都千代田区外神田6-9-5
TEL.03-5818-1171　FAX.03-5818-1174
https://www.akashi.co.jp/

＊価格税込み



法然上人二十五霊場第七番札所
日想観御遺跡

一心寺

大阪市天王寺区逢阪2丁目8-69　電話06-6771-0444(代)
ホームページアドレス http://www.isshinji.or.jp/

小さな変化、大きな一歩

Triple P：前向き子育てプログラム

Positive Parenting Program

オーストラリアで開発され、臨床的に効果が認められた「誰でも簡単に取り組める親向けの子育て支援プログラム」です。世界40カ国以上で実施されています。

\すべての家族に応援を届ける/

- **自分に合ったコミュニケーション方法を見つけたい**
- **子どもの自尊心を育み、前向きに育児に向き合いたい**
- **子どもの問題行動への具体的な対処法が知りたい**



子どもの発達を促す親子のコミュニケーション、子どもの問題行動への対処法など、それぞれの親子に合わせた具体的な子育て技術を学びます。子どもの自尊心を育み、育児を楽しく前向きにしていくようにTriple Pはデザインされています。

NPO法人Triple P Japan
特定非営利活動法人トリプルPジャパン
office@triplep-japan.org　〒140-0014 東京都品川区大井1丁目6番3号 アゴラ大井町3F　https://www.triplep-japan.org/

「つながって子育て」全ての親と子の為に！
日本子ども虐待防止学会 第32回おおさか大会を応援しています

フラハ大阪心理発達研究所

各種相談、カウンセリング、心理検査等を実施
心理士のグループや個人SVを実施しています。
トリプルP等のプログラムにファシリテーターを派遣

臨床心理士　白山 真知子

Mail　m-shirayama@chime.ocn.ne.jp

Add　〒554-0012　大阪市此花区西九条3丁目12-6
スカイライト西九条2B



社会福祉法人

阪南福祉事業会

ホームページ

理事長　永野孝男

私たちは、一人ひとりを大切に笑顔と笑い声のたえない共同生活をめざします

命の尊さを教え、共に生きる喜びを感じ共に育ちあうことを大切にします
穏やかでここちよい生活の中で子どもの意欲を育むよう支援します

児童養護施設

岸和田学園
〒596-0808 大阪府岸和田市三田町 911

あおぞら
〒596-0808 大阪府岸和田市三田町 614 -1

あんだんて
〒596-0808 大阪府岸和田市三田町 810-1

児童精神科・精神科・小児科・心療内科

丘のうえこころのクリニック
〒597-0101 大阪府貝塚市三ケ山 138-2

児童家庭支援センター

児童家庭支援センター岸和田

児童心理治療施設

あゆみの丘
〒597-0101 大阪府貝塚市三ケ山 138-2



子どものトラウマに気づくとき

家庭・施設・学校でできる〈こころのケア〉



メリッサ・G・ミンツ 著／野坂祐子 訳

子どもが逆境体験に遭遇したときに抱く不安や疑問に答え，回復における身近なおとなの役割と具体的なケアの道筋を明らかにする。

A5判　並製　250頁　定価3,520円

トラウマのためのポリヴェーガル・ワークブック

トラウマを追体験することなく，神経系を調整し，バランスを取り戻し，再編成するためのボディ・ワーク



アリエル・シュワルツ 著／花丘ちぐさ 訳

迷走神経を刺激するボディ・ワークを通して心身の状態を改善し，トラウマからの回復を促すためのセルフケア・ワークブック。

A5判　並製　180頁　定価3,300円

複雑性 PTSD セルフケア・ワークブック

自分自身を取り戻すために



タマラ・M・グリーンバーグ 著／野坂祐子 訳

トラウマインフォームドケアの視点から、ひとりで学べる心理教育と対処法を提供する、複雑性PTSDセルフケア・ワークブック。

A5判　並製　272頁　定価3,520円

学校現場で使える　アンガーマネジメント入門

感情と上手に付き合う方法



大野　裕 監修／平澤千秋 著

思春期の子どもたちの日常生活にはいろいろなストレスがある。自分で自分の感情をコントロールして、しなやかに対処していこう。

A5判　並製　130頁　定価2,970円

そのこと、子どもたちとちゃんと話そう

こころの病気と家族の気持ち



カレン・グリストロップ 著／ピア・オルセン 絵
長沼葉月 訳

あらゆる子どもが精神疾患をもつ大人と出会います―自分の家族や友達の家族として。「そのこと」は、隠さず話し合う必要があります。

AB判　並製　64頁　定価2,750円

メンタルヘルス臨床のためのメンタライジング・ハンドブック【エッセンシャル版】

メンタライジング・アプローチの新しい動向



アンソニー・ベイトマン，ピーター・フォナギー 編著
上地雄一郎 監訳

MBT（メンタライゼーションに基づく治療）の理論と臨床応用を精選し訳出。認識的信頼を軸に最新モデルと実践を体系的に示す一冊。

A5判　上製　344頁　定価5,720円

Ψ 金剛出版　〒112-0005　東京都文京区水道1-5-16　https://www.kongoshuppan.co.jp/
Tel .03-3815-6661　Fax.03-3818-6848　＊価格は税込表示（10%）です。

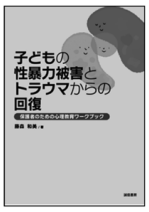
セラピストのための思春期・青年期の発達ガイドブック



［13歳から25歳まで 年齢別の理解と心理的アプローチ］
キンバリー・M・ジェイン / キャサリン・E・パーズウェル 編著
湯野貴子 / 小川 裕美子 監訳 子どものプレイセラピー研究会 訳
思春期・青年期という複雑な時期の若者の発達を年齢ごとに理解し、支援に活かすための実践的ガイドブック。

B5判・204頁
3520円

子どもの性暴力被害とトラウマからの回復



［保護者のための心理教育ワークブック］
藤森和美 著
性暴力被害を受けた子どもとその保護者に関わる、すべての支援者に読んでいただきたい心理教育ワークブック。

B5・102頁
1980円

虐待を受けた子どもからの話のきき方・伝え方



［こころのドアをノックする対話］ **服部隆志 著**
虐待を受けた子どもと関わる際のヒントを実際の場面例を交えて紹介。アタッチメントなど事前に知っておきたい知識もQ&A方式で解説。

A5判・212頁
2970円

トラウマインフォームド罪悪感軽減療法



［不適応な罪悪感と恥への対応マニュアル］
ソニヤ・ノーマン 他著 大江 美佐里 訳
不適応な罪悪感と恥に焦点を当てた心理教育を進める、トラウマ焦点化認知行動療法の応用編ともいえる新たな心理的介入技法を紹介。

A5判・236頁
3410円

回復への道のりベースキャンプ



［性問題行動のある小・中学生のために］
ティモシー・J・カーン / ドーン・M・プフルグラット 著
野坂祐子・浅野恭子 監訳 問題が発生しがちな小学校高学年から中学生年齢が対象。ネット関連問題への対処についても丁寧に解説。

B5判・278頁
4400円

トラウマ治療のプレイセラピー



［脳の機能回復と再統合に向けた理論と実践］ **大野木 嗣子著** 最新の脳科学に基づき、トラウマ体験で最も影響を受けた脳の部位や症状をアセスメントし、脳に適切に働きかけて回復を促す実践書。

A5判・270頁
3300円

誠信書房 SEISHIN SHOBO
Tel 03-3946-5666 Fax 03-3945-8880 https://www.seishinshobo.co.jp/ @seishinshobo
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-20-6

近　　刊

虐待を受けた子どもと家族への支援

Helping the Battered Child and His Family

C・ヘンリー・ケンプ, レイ・E・ヘルファー　編著
小林美智子　日本語版監修　井上景, 岩佐嘉彦, 上野昌江　監訳
A5・予価5,720円　2026年11月発売予定

子ども虐待は単なる親の問題ではなく, 社会全体で対処すべき問題である。米国の小児科医 Henry Kempe（1922-1984）は, 現代の子ども虐待防止活動の基盤形成に大きく貢献したとして国際的に高く評価されているにもかかわらず, 日本ではその功績が十分に認知されてこなかったのではないか。包括的な支援を多職種の視点から構想した1972年の主著を全訳し, その意義を改めて問う。



行列のできる児童相談所

子ども虐待を人任せにしない社会と行動のために
井上景　著
四六・304頁　本体2,300円
2019年刊行
児童相談所の「裏側」を, 元児童福祉司の著者が体験を交えてつぶさに描き出し, 子ども虐待という問題の本質に迫る。



子ども・養育者・支援者をつなぐ複雑性トラウマへのメンタライジング・アプローチ

N. フリーゲン, E. タン, N. ミッジリー, P. ライテン, P. フォナギー著
那須里絵, 木村能成, 御園生直美監訳
A5・360頁　本体4,500円
2025年9月刊行
メンタライジング, 神経科学, 発達心理学を統合したアプローチで, 社会的養護下の子ども・養育者・支援者のネットワーク構築を図る。



事実を見抜く 実践！ヒアリングと取調べの心理学

越智啓太　著
四六・288頁　本体2,700円
2026年9月刊行
事故やハラスメント, 企業内不正…傾聴だけでは決して届かない〈事実〉がある！　警察大学校で講師を務めた著者が広く実務家に解説。

北大路書房
〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町 12-8 HP: https://www.kitaohji.com X(Twitter):@kitaohji_syobo
☎: 075-431-0361 FAX: 075-431-9393 E-mail: eigyo@kitaohji.com

日本子ども虐待防止学会 第 32 回おおさか大会の
開催を心よりお祝い申し上げます

0 歳から 100 歳、
地域福祉の結び目となる





1915 年 (大正 4 年) 創立。乳児院・児童養護施設・里親支援から、こども園・子育て支援、高齢者福祉まで。私たちは大阪のまちで 110 年、世代を超えたつながりの中で、こどもの育ちとくらしを支え続けています。

乳児院 (四恩学園乳児院・四恩みろく乳児院)
児童養護施設 (四恩学園・四恩たまみず園) ｜ 里親支援センター
四恩るりこども園・四恩るり 2 乳児保育園
子育て支援センター・放課後児童クラブ
住吉区東地域包括支援センター・地域密着型特別養護老人ホーム ほか

社会福祉法人 四恩学園

〒 558-0011 大阪市住吉区苅田 4-3-9 TEL 06-6607-2220
https://www.shiongakuen.or.jp

社会と“子ども 家庭”をつなぐ

認定NPO法人
児童虐待防止協会

Instagram
@APCA_ jp

X（旧twitter）
@APCA_ jp

LINE
児童虐待防止協会

児童虐待防止協会 検索
https://www.apca.jp/
Mail office@apca.jp

8カンテレ

関西テレビは日本子ども虐待防止学会第32回おおさか大会を支援しています。

公益財団法人 SOMPO福祉財団

SOMPO

社会福祉分野で活躍するNPOへの助成などを通じて、地域福祉の向上に貢献することを目指しています。

事業名（募集時期）	事業の内容
自動車購入費助成 （6月～7月）	自動車を購入する際の資金を助成
NPO基盤強化資金助成住民参加型福祉活動資金助成 （6月～7月）	地域住民が主体となって、包括的な支援を行なう活動に必要な資金を助成
NPO基盤強化資金助成組織および事業活動の強化資金助成 （9月～10月）現在募集中	「組織の強化」と「事業活動の強化」に必要な資金を助成
NPO基盤強化資金助成認定NPO法人取得資金助成 （9月～10月）現在募集中	認定NPO法人取得に必要な資金を助成



【自動車購入費助成】
新しい自動車での
お迎えが楽しみ♪



【組織および事業活動の
強化資金助成】
作業所新築に伴う
事務室設備で ネット注文
拡大！

【住民参加型福祉活動資金
助成】
お父さんや地域の人たちと
一緒に日曜大工♪



【認定NPO法人取得資金
助成】
子どもたちの心身ケアや遊び
場を提供。認定取得により
地域の信頼強化に！



SOMPO福祉財団Ｗｅｂ ⇒　https://www.sompo-wf.org/

大阪府社会福祉協議会
児童施設部会

【加盟数：85施設】

倫理綱領

（児童憲章　基本綱領）
すべての子どもは人として尊ばれる
すべての子どもは社会の一員として重んぜられる
すべての子どもは良い環境の中で育てられる

私たちは、様々な事情により保護者と離れて施設で生活するすべての子どもの人権を擁護するとともに、子どもの心豊かで健やかな発達を保障し、自立への支援を行います。

私たちは、子どもと生活を共にするこの仕事に誇りと責任を持って、自らの人間性と専門性の向上に努めます。

子どもの生きる力を育み、明日に向かって希望と笑顔の日々となるようにこの倫理綱領を定め、実現に努めます。

部会長	永野　良子（岸和田学園　施設長）	副部会長	西田　幸市（あおぞら　施設長）
副部会長	宮脇　弘次（聖ヨハネ学園　施設長）	副部会長	井上伸二郎（愛育社　施設長）
副部会長	中條　薫（羽曳野荘　施設長）	副部会長	牧田　雄二（聖家族の家　施設長）

北摂児童施設連盟

児童養護施設
- 聖ヨハネ学園
- 救世軍社会事業団 救世軍希望館
- 慶徳会 子どもの家
- レバノンホーム
- 奈佐原寮
- 松柏会 松柏学園
- 大阪西本願寺 常照園
- 大阪水上隣保館 翼
- 大阪水上隣保館 遙学園
- 大阪水上隣保館 クジラハウス

児童心理治療施設
- 大阪府衛生会 希望の杜
- 大阪水上隣保館 ひびき

乳児院
- 大阪水上隣保館 乳児院
- 大阪水上隣保館 はばたき



河内地区児童福祉施設連盟

河内会

児　童　養　護　施　設
福祉型障害児入所施設
児　童　自　立　支　援　施　設
母　子　生　活　支　援　施　設

会　長　安城　一郎（向陽学園）
副会長　伊山　喜二（南河学園）

子どもたちに安全と安心の笑顔を

大阪府社会福祉協議会児童施設部会
泉州児童福祉施設部会

会　長　伊藤　感道（慈教寮）
副会長　西田　幸市（あおぞら）

あおぞら	慈教寮
あんだんて	三ケ山学園
いずみこどもの家	和泉乳児院
岸和田学園	あゆみの丘
信太学園	

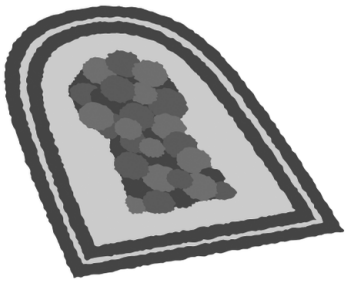
一般社団法人
大阪市児童福祉施設連盟

- 児童養護施設（12施設）
- 乳児院（6施設）
- 母子生活支援施設（4施設）
- 児童心理治療施設（3施設）
- 障害児入所施設（4施設）
- 児童自立支援施設（1施設）
- 大阪発達療育センター（2施設）

大阪市32の児童福祉施設を繋ぎ
こどもの福祉向上を実現する
大阪市児童福祉施設連盟

堺児童施設部会

愛育社
泉ヶ丘学院
清心寮
東光学園
愛育社めばえ乳児院



世界文化遺産のある街『堺』

ご案内

第80回 全国児童養護施設長 研究協議会 大阪大会

日程　令和9年10月13日（水）～
10月15日（金）

会場　シェラトン都ホテル

主催　全国児童養護施設協議会
大阪府社会福祉協議会 児童施設部会

※日程などは準備段階のものであり、変更となる可能性があります。

大阪でお待ちしております

社会福祉法人

海の子学園

大阪市港区池島3-7-18

- 児童養護施設 入舟寮
- 児童養護施設 池島寮
- 病後児保育室 げんきっこホーム



SUNSTAR 一般財団法人サンスター財団

サンスター財団の活動
https://www.sunstar-foundation.org/

サンスター財団附属千里歯科診療所（お子さま・大人）
https://www.sunstar-foundation.org/dentistry

海外留学助成 のご案内

歯周病や糖尿病の研究のために海外留学される先生の渡航費、生活費を支援します。

助成対象の研究領域

歯周組織や歯周病の病態の理解、**歯周病**の予防を志向する研究、全身疾患との関わりの解明を志向する研究。

糖尿病や糖尿病合併症、糖尿病と関連する疾患について、その病態の理解や予防を志向する研究。

助成金額

2年間留学する滞在費　10万ドル
往復渡航費　100万円＋1万ドル

総額　11万ドル＋100万円

※留学中はアメリカドルで支給します。



来年度の募集要項は
1月下旬頃に
ホームページにて
公開いたします。

詳細は、ホームページ等でご確認ください。
https://www.sunstar-foundation.org/grants

こども家庭福祉分野で働くソーシャルワーカーの
専門性向上を目的とした認定資格

こども家庭ソーシャルワーカー



「こども家庭ソーシャルワーカー」は、すべてのこどもが、将来にわたって、すこやかで幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指しています。詳細は下記QRコードよりホームページをご覧ください。

【こども家庭庁認定機関】
一般財団法人日本ソーシャルワークセンター
〒104-0045
東京都中央区築地 4-12-2 シグネットビル 7 階
03-6712-1313/secretariat@jswc.or.jp

公益社団法人　大阪社会福祉士会

私たちは、社会福祉の支援を必要とする大阪府民の生活と権利を擁護することや、そのための専門知識をたかめることを目的とした社会福祉士の専門職団体です。
私たちは、ソーシャルワーカーの専門職団体として、これからも子どもたちや子育て家庭を含めた人々の生活と権利を支え続けます。

〒５４２－００１２
大阪市中央区谷町７－４－１５
大阪府社会福祉会館内
０６－４３０４－２７７２
ホームページ　https://www.oacsw.or.jp/

子どもたちに寄り添い、成長を見守り支援します

私たちは、安全で安心して暮らせる環境を整え
子どもたちの未来を応援し支え続けます。

MIOTSUKUSHI

社会福祉法人 みおつくし福祉会
543-0021 大阪市天王寺区東高津町12番10号
https://www.miotsukushi.or.jp/

NPO法人 O'hana
親と子の絆を育むお手伝い

私たちNPO法人O'hana（オハナ）は、
はじめての子育てに不安を感じている方の
ご自宅に訪問し子育て支援を行っています。


家庭訪問による子育て支援


子育て支援員の養成講座

活動へのご寄付・
講座受講の申込みを
募集しています

〒530-0043
大阪市北区天満4丁目14-4ストーク天神ハイム203
info@npo-ohana.org
@ohananpo @ohana_npo @ohana.npo

地域に密着
地域に貢献する
マンション経営！

有限会社ドゥミランアンシャンテ
代表取締役社長 田中絹子

株式会社ALC
滋賀県にてマクドナルド店舗を運営

びわ湖大橋店 | びわ湖阪本店 | 柳が崎店 | 近江大橋店
石山駅前店 | 大津サービスエリア店 | 大津玉野浦店 | イオンモール草津店

児童相談所における
一時保護の実務と法的対応
こども中心のソーシャルワークと保護者支援・司法審査
岩佐嘉彦・大畑亮祐・進藤千絵 編著
二〇二五年七月刊 定価五六一〇円

【2027年頃刊行予定】
改訂
子ども虐待対応 法的実務ガイドブック
根ケ山裕子 編著
日本加除出版 www.kajo.co.jp

ジャスプカンおおさか大会を
応援しています。

弁護士法人
なにわ共同法律事務所

弁護士　濵田　雄久

〒530-0047
大阪市北区西天満２－３－１５
千都ビル２階
tel 06-6363-2191
fax 06-6363-1468

子どもファースト　それは　当たり前のこと　多くの人は　そう言うけれど
子どもたちの多くには、その実感はないのでは？

足りていないのは、
子どもの最善の利益　を実現するための手段

子どもの聴かれる権利（意見表明権）

私たちは、子どもたちから見えている景色、気持ちや考えていること（view）を聴かせてもらい、それを、ひとりの人格ある人間の意見として尊重（respect）し、寄り添い、よい影響を与え合えるきずな、共に成長できるきずなを大切にし、弁護士として活動をしていきます。

いつでも、お気軽にご相談ください。



きずな大阪法律事務所

大阪市北区野崎町 7-8　梅田パークビル 5 階
☎ 06-6130-2710

弁護士　西　村　英一郎
弁護士　岡　崎　倫　子
弁護士　星　　雄　介



きずな西大寺法律事務所

奈良市西大寺栄町 3-27　泉谷ビル 6 階
☎ 0742-81-3132

弁護士　西　村　香　苗
弁護士　水　丸　貴美子
弁護士　坂　手　亜矢子
弁護士　川　辻　哲　也

私たちは、JaSPCAN おおさかを応援します。

いぶき法律事務所

弁護士　瀬戸　則夫

弁護士　日下部　昇

弁護士　石田　文三

弁護士　岩佐　嘉彦

弁護士　三木　憲明

弁護士　今春　博

弁護士　奥田　智子

弁護士　鈴木伸太郎

〒530－0047
大阪市北区西天満3丁目14番16号
西天満パークビル3号館8階
TEL　06－6316－1118

子どもたちの未来のために、みなさまとともに

弁護士法人 あすなろ

https://www.asunaro-l.gr.jp/

結ぶ　　創る　　育む

弁護士法人あすなろ　あすなろ法律事務所

弁護士　岩　本　　朗（代表）	弁護士　原　　正　和（代表）
弁護士　石　飛　優　子	弁護士　齊　藤　優　摩
弁護士　黒　田　祐　史	弁護士　和　田　知　彦
弁護士　杉　田　峻　介	弁護士　池　田　健　人
弁護士　室　谷　悠　子	弁護士　平　林　佳江子
弁護士　中　江　友　紀	弁護士　吉　川　　叶
弁護士　永　田　　駿	
弁護士　津　田　浩　克	弁護士　池　田　直　樹

弁護士法人あすなろ　奄美あすなろ法律事務所

弁護士　佐　用　理　沙	弁護士　宮　原　一　樹

大阪事務所
〒541-0054
大阪市中央区南本町１丁目４番１０号　StoRK ビル４階
電話 06-6268-5070 FAX06-6268-5071

奄美事務所
〒894-0026
鹿児島県奄美市名瀬港町２２番２３号
電話 0997-57-6211 FAX0997-57-6217

JaSPCAN おおさか大会を

応援しています。

香友法律事務所

弁護士　山本　香織

弁護士　野村　いづみ

〒５３０－００４７
大阪市北区西天満５-１０-１７
西天満パークビル５階

ジャスプカンおおさか大会を応援しています

山口崇法律事務所

弁護士　山口　崇

弁護士　夏目　麻央

〒530－0047
大阪市北区西天満1－2－5大阪JAビル5階
TEL 06－6314－0174　　FAX 06－6314－0175

子どものための相談・支援活動を行っています。

長野総合法律事務所

弁護士　峯本　耕治

〒530-0047
大阪市北区西天満２丁目８番１号　大江ビル 405 号
TEL　06-6363-3705
FAX　06-6363-3707

ジャスプカンおおさか大会を応援しています

浜田・木村法律事務所

弁護士 浜田 真樹

〒530-0047 大阪市北区西天満 4-3-25 梅田プラザビル 6 階
TEL 06-6360-7517　　FAX 06-6360-7527

ジャスプカンおおさか大会を応援しています

弁護士法人 松尾・中村・上 法律事務所

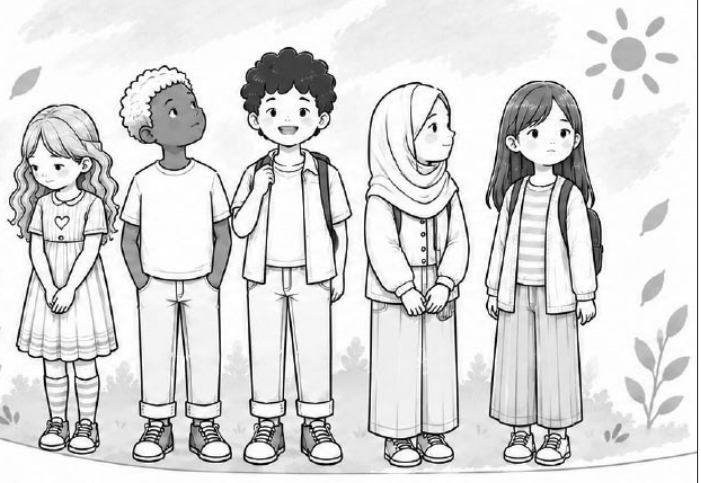
弁護士 中村 正彦

弁護士 上 将倫

〒541-0041
大阪市中央区北浜2丁目5番13号 北浜平和ビル4階
TEL 06－6222－5701

子どもが自分の人生を生きられるように

私たちは、すべての子どもがひとりの人間として尊重され、安心して自分らしく生きられる社会を目指します。子どもの声に耳を傾け、子どもと一緒に考え、その意思を尊重しながら伴走します。



法律事務所 つむぎ
〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目6番18号
アクセスビル6階
TEL 06-6365-3330　FAX 06-6365-3331

弁護士 玉野 まりこ　弁護士 宝本 美穂　弁護士 足立 賢介　弁護士 木下 裕一　弁護士 大畑 亮祐

沈黙も、イライラも、モヤモヤも、みんな大事な子どもの声

JaSPCAN おおさか大会を
応援しています。

村岡歯科

歯科医師　村岡　憲次

〒659-0091
芦屋市東山町 5－14
リアライズ芦屋 2F-D

JaSPCAN おおさか大会を
応援しています。

しぶや総合法律事務所

弁護士　渋谷元宏
弁護士　渋谷麻衣子

〒530-0045
大阪市北区天神西町5－17
アクティ南森町ビル3階
TEL. 06-6316-6110
FAX. 06-6316-6111

JaSPCAN おおさか大会を
応援しています。

豊中総合法律事務所

弁護士　藤木邦顯

〒560-0024
大阪府豊中市末広町2丁目1番4号
豊中末広ビル2階203号
TEL.06-6857-3900

JaSPCAN おおさか大会を
応援しています

中川法律事務所

弁護士　勝井　映子

〒530-0047
大阪市北区西天満４－３－18
MF西天満ビル２階
TEL：06-6363-3811　FAX：06-6363-3814

JaSPCAN おおさか大会を
応援しています。

井上一隆法律事務所

弁護士　井上　一隆

〒530-0047
大阪府大阪市北区西天満 4-2-2
ODI 法律ビル 602
電話：06-6311-0057

こどもの笑顔と
明るい未来のために
頑張ります

中村善彦法律事務所

弁護士　中村　善彦

〒542-0083
大阪市中央区東心斎橋 1-12-3
協栄ビル 205
TEL:06-6282-0956
FAX:06-6282-0957



JaSPCAN おおさか大会を応援しています

燈（ともしび）法律事務所

弁護士 西田 敦
弁護士 真鍋 直樹
弁護士 和田 香

〒590-0072
大阪府堺市堺区中向陽町2丁3番13号西田司法ビル3F
TEL 072-225-5111 ／ FAX 072-225-5112

ジャスプカンおおさか大会を応援しています

河合・藤井法律事務所

弁護士 河合 基裕

弁護士 藤井 美江

（大阪市こども相談センター常勤弁護士）

〒530-0047
大阪市北区西天満3丁目13番18号島根ビル3階
TEL 06-6926-4526 FAX 06-6926-4527

弁護士法人 大江橋法律事務所

パートナー 平野 惠稔

弁護士（兼ニューヨーク州弁護士）

（大 阪） 〒530－0005
大阪市北区中之島2－3－18 中之島フェスティバルタワー27階
（東 京） 〒100－0005
東京都千代田区丸の内2－2－1 岸本ビル2階
（名古屋） 〒450－0002
名古屋市中村区名駅4－4－10 名古屋クロスコートタワー16階

弁護士法人 淀屋橋·山上合同

弁護士 渡邊 徹

（大阪事務所）
〒541-0041
大阪市中央区北浜3－6－22
淀屋橋ステーションワン14階
TEL 06-6202-4460（直通）

（東京事務所）
〒100-0013
東京都千代田区霞が関3－2－6
東京倶楽部ビルディング13階
TEL 03-6267-1200（代）

子どもらの権利の実現に努めます

堺法律事務所

弁護士 大江 千佳

大阪府堺市堺区中瓦町1丁4番27号小西ビル6階
TEL 072-232-5188 FAX 072-232-5455

JaSPCAN おおさか大会を応援しています

ルート法律事務所

弁護士 安達 友基子

大阪市北区西天満3丁目14番16号西天満パークビル3号館2階
電話 06-6311-0065 FAX 06-6311-0075

ジャスプカンおおさか大会を応援しています

えびす法律事務所

弁護士 小西 智子

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-5-3
千里朝日阪急ビル12階
TEL 06-6155-0077 FAX 06-6155-0087

私たちは、
日本子ども虐待防止学会
第 32 回おおさか大会を応援します。

大阪府子ども家庭センター

大阪市こども相談センター

堺市こども相談所

豊中市児童相談所

枚方市まるっとこどもセンター



上記職員有志一同

売却物件大募集

スマホで簡単無料査定はこちらから→

不動産のお悩み
お聞かせください



国土交通大臣(6)第６０５６号　(一社) 不動産流通経営協会会員

こころまち つくろう

KEIHAN 京阪電鉄不動産

京阪電鉄不動産㈱本店営業部

〒540-6591大阪市中央区大手前1丁目7番31号 OMMビル15階

定休日(水曜日) ●営業時間10:00～18:00

フリーダイヤル

0120-951-565

